

TIME BOOT mini

RSC-MT4HS

(FW:4.20A・4.30A用)
詳細版

■ 取扱説明書 ■

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

弊社リブーターTIME BOOT mini(RSC-MT4HS)をご購入いただき誠にありがとうございます。

TIME BOOT mini(RSC-MT4HS)(以下、本装置または本製品と省略)はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする自動電源制御装置です。4個の100V AC電源を個別に遠隔制御／管理できます。Pingによる死活監視に加えて、年間スケジュール機能をご利用になれます。

本装置が皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用の前に、必ず本書をお読みください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. セットアップガイド 兼 保証書
2. 2P/3P変換プラグ

●本製品で利用しているソフトウェアライセンスについて●

本製品では以下のオープンソースソフトウェアを利用しています。これらのオープンソースソフトウェアについては、リンク先のライセンス条件に示されたライセンス条件と免責規定が適用されます。

- [OpenSSH\(5.1p1\)のライセンス条件へのリンク](#)
- [OpenSSL\(0.9.8i\)のライセンス条件へのリンク](#)

利用上のご注意

- 遠隔制御機能について本製品はルーターやハブなどネットワークシステム機器が接続されることを想定してリスクアセスメントを実施しています。他の機器を接続してご利用になる場合、リスクアセスメントを行ってくださるようお願いいたします。
- 各種監視機能を使用する際、監視結果動作対象の負荷機器のコンセントは、設定したアウトレットに必ず接続してご利用ください。

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊘ は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	● は、強制(必ずすること)を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●AC100V(50または60Hz)以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧(交流100V)以外の電圧で使用しないでください。特に110Vを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流100V

●本装置の電源アースあるいはFG端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはFG端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。



アース接地

●本装置後面のACコンセントは15Aまで

本装置後面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。
合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量15Aまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品に、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。

万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、FG端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触れない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、前面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

●専用の温度センサーを必ず使用してください。

TEMP1には、弊社温度センサー(RP-TS004)以外差し込まないでください。



専用温度センサー

- 火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は、遠隔制御機能を利用しない
遠隔制御機能を利用する場合は、遠隔操作により火災・感電・事故・傷害の発生する危険がある機器は接続しないでください。特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、連続運転可能な機器のみ接続してください。接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB、PoE給電ポート、接点出力等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを確認して下さい。本機に接続される機器は、必ず、本機の近傍にあり、本機の近傍にいる人が危険を感じた場合、機器の電源プラグを容易に外せるようにしてください。



遠隔制御禁止

注意

- 電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない
電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

- 風通しの悪いところに置かない
製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

- 温度が高くなるところに置かない
直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

- 温度変化の激しい場所に置かない
クーラーや暖房機のそばなど、温度変化の激しい場所に置かないでください。大きな温度差が生じた場合、本製品の内部に結露が発生し、火災や感電、故障の原因となります。



温度変化の激しい場所禁止

- お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

●DIPスイッチの操作に金属製のもの、鋭利なものを使用しない

DIPスイッチのレバーを操作する時には、先端が丸みのある柔らかい木製のものを使用してください。硬い金属製のもの、鋭利なものを使用すると、レバーを破損してしまったり、接点部の接触に支障をきたしてしまったりする恐れがあります。



DIPスイッチ操作

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。

倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

注記	シリアルNo.3Q-1351以降の本製品は、内部でSG(信号グランド)とFG(フレームグランド)が接続されています。
----	--

目 次

利用上のご注意	2
安全上のご注意	3
目 次	9
第1章 はじめに	12
1. 機能概要	13
2. 各部の名称と機能	14
3. DIPスイッチの設定	15
4. LED表示について	16
第2章 設置・取付	17
1. 設置・取付	18
2. ラックへの取付	18
3. 固定方法	18
第3章 初期設定	19
1. 初期設定	20
[1] 使用条件の確認と同意	20
2. 初期化の方法	23
第4章 Webブラウザでの設定, 制御	24
1. ログイン	25
[1] IPアドレスを固定にして利用する場合	25
[2] RPCサーチソフトを利用する場合	26
2. 設定項目	28
[1] 入力可能な半角文字について	28
[2] システム設定	29
[3] ネットワーク設定	55
[4] 監視設定	71
[5] スケジュール設定	85
[6] システム情報	92
[7] 簡易説明	93
3. 状態表示項目	94
[1] 簡易情報表示	94
[2] 詳細状態表示	95
[3] イベントログ	98
4. 電源制御	99
[1] 電源制御	99
5. CPUリセット	106
第5章 その他の設定	107
1. Telnetによる設定	108
[1] Telnetでの接続方法	108
[2] Telnetコマンドによる設定	108
2. ターミナルソフトによる設定	110
第6章 その他の制御	111
1. Telnet接続による制御	112
[1] Telnet接続による制御	112
2. シリアルからの制御	113

3.	メールからの制御	114
4.	WEBコマンドからの制御	115
5.	MPMPでの制御	116
[1]	リブーター側の設定	116
[2]	MPMPパケット送信	117
第7章	一斉電源制御	118
1.	一斉電源制御とは	119
[1]	概要	119
2.	親機として使用する場合	120
[1]	設定	120
[2]	WEBでの制御	120
[3]	Telnetでの制御	122
3.	子機として使用する場合	123
[1]	設定	123
[2]	待受状態時の制御・設定	126
第8章	ロギング機能	127
1.	ロギング機能の設定・表示	128
[1]	ログ制御変数のビット構成	128
[2]	ログ表示コマンド	129
[3]	ログの表示形式	129
[4]	記録ログ一覧表	131
第9章	シャットダウンスクリプト	132
1.	スクリプト仕様について	133
[1]	スクリプトの基本動作	133
[2]	設定	134
[3]	ログ	134
[4]	エラーコード	134
[5]	テキスト仕様	134
[6]	Ping確認について	136
第10章	無停電電源装置(UPS)との連携	138
1.	概要	139
[1]	UPS側からの信号に対する基本動作	139
[2]	UPS連動の基本動作フロー	139
2.	本機と無停電電源装置(UPS)の接続	140
3.	機器設定	140
第11章	SNMPについて	142
1.	SNMPについて	143
2.	機器設定	143
3.	MIBについて	145
第12章	ネットワーク稼働監視	146
1.	機器設定	147
2.	RPC EYE V4の利用	148
第13章	仕様一覧	149
■	変数一覧表	150
■	ログ一覧表	159
■	制御コマンド一覧表	161

■ 仕様一覧表	164
■ 接点入出力インターフェース	165

第1章 はじめに

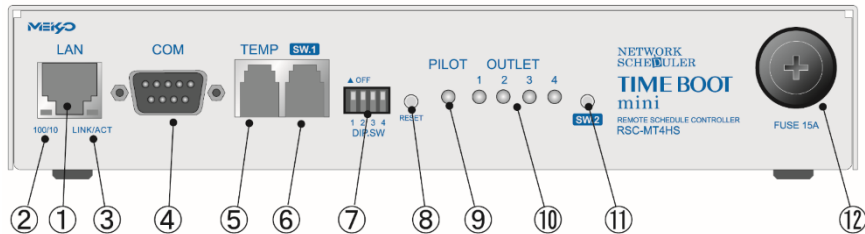
1. 機能概要

本装置には以下の機能があります。

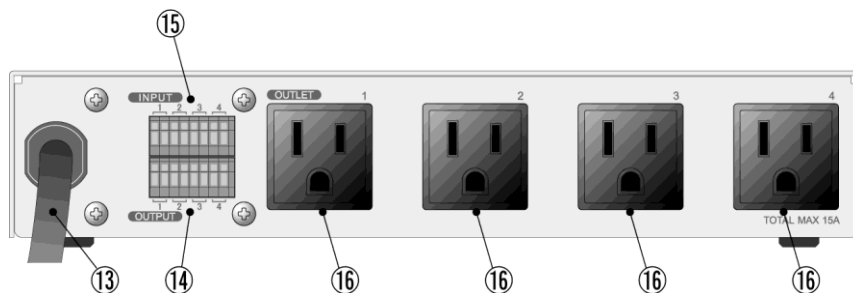
- 1) 4個の100V AC電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - ・WEBからの電源制御と設定（ボタン押下後, 即時制御実行も可能に）
 - ・SSH/Telnetからの電源制御と設定
- 3) シリアルからの電源制御と設定
- 4) スケジュールによる制御
 - ・年間スケジュールによる電源制御
- 5) 監視機能
 - ・電源状態の監視
 - ・ICMPによる死活監視(Ping監視)
 - ・ハートビートによる監視
 - ・温度状態の監視(要オプション:RP-TS004)
- 6) 無停電電源装置 (UPS) との連携によるシャットダウン処理
- 7) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・本体電源投入時に, 指定した順番, タイミングによる各デバイスの起動
- 8) メールによる制御や通知
- 9) センター通知機能
 - ・電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
 - ・RPC EYE V4への通知(別売ソフト)
- 10) SNMPエージェント機能
- 11) 通信による遠隔バージョンアップ
- 12) 通信中継機能(Telnet通信)
 - ・Telnetクライアント, シリアルコンソールとして通信
- 13) マジックパケットによる起動
- 14) スクリプト通信によるOSのシャットダウン
- 15) ガードタイム設定時, 多重ログイン, 各種制御許可
- 16) 弊社サービス「電源管理クラウド365」との連携による電源状態/監視状態管理, 電源制御

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リアパネル



① LAN	LANケーブル(8ピンRJ45)を接続します。
② 100/10 LED	LANの通信速度を表示します。
③ LINK/ACT LED	通信状態を表示します。
④ COM	初期設定用及びUPS及びシリアル接続用通信ポートとして使用します。
⑤ TEMP	温度センサーを接続します。
⑥ SW.1	リモートスイッチを接続します。
⑦ DIPスイッチ	運用や初期化など各種モードの切替に使用します。
⑧ RESETスイッチ	出力電源に影響を与えずにCPUを初期化します。
⑨ PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
⑩ OUTLET LED	ACアウトレットの電源出力状態を表示します。
⑪ SW.2	リモートスイッチと同じ動作をします。
⑫ FUSE	ガラス管ヒューズ15Aを使用します。
⑬ 電源コード	商用電源, UPS(正弦波出力タイプ)などに接続します。
⑭ OUTPUT	接点出力(4ポート) [本装置側:無電圧] -- 接続相手:有電圧(負荷・電源) ※接続先に電源が必要です。
⑮ INPUT	接点入力(4ポート) [本装置側:有電圧] -- 接続相手:無電圧(接点のみ) ※外部から電圧を入力しないでください。故障の原因となります。
⑯ ACアウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

注意 TEMPには弊社温度センサー(RP-TS004)以外差し込まないでください。
また、温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

3. DIPスイッチの設定

DIPスイッチの機能(OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	運転モード
	ON	UPS(接点信号式)連携運転モード, 中継機能専用モード, 初期化
2	OFF	運転モード
	ON	中継機能専用モード
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード, 初期化
4	OFF	OFFに固定
	ON	未使用

DIPスイッチの設定

DIPスイッチNO.		1	2	3	4
通常運転時	OFF	■	■	■	■
	ON				
UPS連携運転時	OFF		■	■	■
	ON	■			
初期設定時	OFF	■	■		■
	ON			■	
初期化時	OFF		■		■
	ON	■		■	
中継機能専用モード	OFF			■	■
	ON	■	■		

※ 中継機能専用モードでは, シリアルからのコマンドを受け付けなくなります。

注意 DIPスイッチのレバーを操作する時には, 金属製のものや鋭利なものを使用せず, 先端が丸みを帯びている木製のものを使用してください。

DIPスイッチを操作するときは, 本体のACアウトレットから全デバイスを取り外してください。

DIPスイッチ操作また設定終了後は, 必ず, 本体前面のRESETスイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

初期設定は, 第3章1.初期設定を参照にして設定してください。

4. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LINK/ACT 100/10 LED

通信状態を表示します。

LED	LED点灯状態	状 態
LINK/ACT LED	点灯	リンク時
	消灯	データ受信時(連続データでは点滅)
100/10 LED	点灯	100BASE-TXでリンク時
	消灯	10BASE-Tでリンク時

2) PILOT LED

Cold Start時(本体に電源が投入された時) 橙→緑→消灯→橙→緑の順で点灯します。

本体に電源投入されている場合、緑が点灯します。

Warm Start時(CPUリセットを行った時やRESETボタンを押した時) 橙→緑の順で点灯します。

全アウトレットの死活監視リポート回数の合計が設定値を越えたら緑が点滅します。(初期値は12回)

メール受信サーバーへのアクセスエラー時は、緑が点滅します。

3) OUTLET LED

① ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

② OFF遅延中, 1秒点滅

③ Ping監視

1. 動作が「リポート」または「ログのみ」の場合

(ア)監視異常中(出力ON)は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し, その後点灯します。(出力はON)

2. 動作が「ON」の場合

(ア)監視異常中(出力ON)は, 2秒点灯→0.25秒消灯→2秒点灯

(イ)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒消灯→0.25秒点灯を繰り返し, その後消灯します。(出力はOFF)

3. 動作が「OFF」の場合

(ア)監視スタート後, 全てのPing監視対象から応答を確認するまでの間, 1秒点灯→0.25秒消灯を繰り返し, その後点灯します。(出力はON)

Ping監視時の動作「ON」「OFF」の設定はブラウザーからは行えません。

Telnet やシリアルで, 変数[debOlWdogAction]を直接変更する必要があります。

第2章 設置・取付

1. 設置・取付

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。設置場所は、単相100VAC/15A以上のコンセントに直接差し込める場所で、本体背面に電源プラグが差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面のLAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取付

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本装置を設置します。
- 3) 本体前面LAN用コネクタにLANケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本装置固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴(4箇所)を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M3×8 L(MAX)をご利用ください。

注意 壁面に取り付ける場合は、オプションの取付金具ATT02が便利です。
弊社ホームページにて紹介しておりますのでご覧ください。
<https://www.meikyo.co.jp/product/?ca=5>

第3章 初期設定

1. 初期設定

[1] 使用条件の確認と同意

本製品の使用にあたっては、初めに使用条件に同意していただく必要があります。

外部のネットワークから接続するために固定のIPアドレスを設定します。

設定用PCと本装置とは、LAN用コネクタにLANケーブルで接続します。

PCがオートMDI/MDI-X非対応の場合は、クロスLANケーブルを使用してください。

1) LANやVPN上に192.168.10.1および192.168.10.2のIPアドレスを持つホストがないことを確認します。

2) 設定用PCのIPアドレスとサブネットマスクを以下の通り設定します。

IPアドレス : 192.168.10.2

サブネットマスク : 255.255.255.0

3) 本体前面のDIPスイッチ3をONにします。

(メンテナンスモードになり、IPアドレスが192.168.10.1となります。)

注意 メンテナンスモードの場合、LANの通信速度は10BASE-Tでつながる設定になっている必要があります。

4) 本体前面のRESETスイッチを押します。

5) 設定用PCのWebブラウザを起動します。

http://192.168.10.1 を指定し、本装置にアクセスします。

注意 ブラウザーはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」の「ブラウザにはどれを使用すればいいですか?」をご覧ください。

<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

6) ブラウザー依存のポップアップ画面が表示されます。ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。

注意 ブラウザーによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

- 7)【ご確認のお願い】の画面が表示されます。内容を確認の上[上記の内容に同意します。]をチェックし、[次へ]をクリックします。

ご確認のお願い

以下の文面をお読みになり、同意される場合のみ
遠隔制御機能を有効化できます。

RSC-MT4HS

電気用品安全法により、遠隔操作に伴い感電・事故・傷害の発生する危険がある機器の遠隔操作は禁じられています。

したがって、電気用品の中には、遠隔制御により感電、火災及び傷害の生じる可能性があるものがありますので、そのような機器を、本装置のアウトレットに接続してはなりません。

特に、電気ストーブや電熱器など熱を発生するものは、火災の原因となりますので絶対に接続しないでください。

接続機器が突然動作した時に接続された機器の近傍にいる人が危険になるような機器を接続しないでください。

また、通信回線の故障などにより遠隔制御が行えなくなった場合でも、安全状態が維持されるように、遠隔制御可能な装置のみを接続してください。接続される機器の安全性に関しては、接続される機器のUSB、PoE給電ポート、接点出力等のアウトレットにも遠隔操作によって危険がないことを

☐ 上記の内容に同意します。

次へ

- 8)【メンテナンスモード 機器設定】画面が表示されます。

メンテナンスモード 機器設定

モデル名	RSC-MT4HS
バージョン	4.00A.230315
MAC アドレス	00:09:EE:00:AA:63
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバアドレス	
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☐ 有効 ☒ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00

適用

- 9)ご利用になるLANに適切なIPアドレスとして

- ・運用時にIPアドレスを固定にして利用する場合、「DHCP機能」を[無効]にチェックしたままで、「IPアドレス」に適切なIPアドレスを入力します。
- ・DHCPを使用して動的にIPアドレスを割り当てる場合は、「DHCP機能」を[有効]にチェックして、[適用]をクリックします。

- 10)その他「Telnet機能」など必要に応じて設定を行います。設定が終了しましたら、[適用]をクリックします。

- 11)本体前面のDIPスイッチ3をOFFにします。(運用モードにします。)

- 12)本体前面のRESETスイッチを押します。

- 13)Webブラウザを閉じます。

14)設定用PCのIPアドレスを元に戻します。

注意 設定後は、必ず[適用]をクリックし、RESETスイッチを押してください。RESETスイッチを押さないと設定が反映されません。

本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTPサーバーの設定(第4章2.[2](4)〈3〉NTP設定)を行ってからご使用ください。

2. 初期化の方法

本装置を初期化して出荷状態に戻します。

(まだ電源コードをコンセントに接続しないでください。)

- 1) 本体前面のDIPスイッチ1と3のみON(下)にします。
- 2) 電源コードをコンセントに接続し、電源を供給します。
- 3) 本体前面のLINK/ACT LEDが5秒間点灯します。点灯中に本体前面のRESETスイッチを1秒程度、押します。
- 4) 初期化が成功するとLINK/ACT LEDとPILOT LEDが点灯します。
- 5) RESETスイッチを押す前にLINK/ACT LEDが消灯した場合は一旦電源コードを抜き、電源を供給からやり直してください。
- 6) 初期化後は、DIPスイッチを全てOFF(上)にし、再度電源を供給してからご使用ください。
- 7) 以上で初期化が終わりましたので、前項目の「初期設定」から実行してください。

注意	初期化中には本体の電源を切らないで下さい。
----	-----------------------

第4章

Webブラウザでの 設定, 制御

1. ログイン

[1] IPアドレスを固定にして利用する場合

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。(PROXY経由ではご利用になれません)

注意 ブラウザーはJavaScriptとフレームに対応している必要があります。
 推奨ブラウザは弊社HP「よくある質問」をご覧ください。
<https://www.meikyo.co.jp/faq/>

- 1) Webブラウザを起動し、本装置に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。
 (例 IPアドレス : 192.168.10.1)

HTTPポート番号「80」デフォルトの場合
<http://192.168.10.1>

HTTPポート番号「500」に設定した場合
<http://192.168.10.1:500>

- 2) ブラウザー依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

注意 ブラウザーによっては、ポップアップ画面がアドレス入力画面の裏に隠れている場合があります。

- 3) ユーザーIDとパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
 ユーザーID : admin (デフォルト)
 パスワード : magic (デフォルト)

- 4) 簡易情報表示画面が表示されます。

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			ON
2	Outlet2			ON
3	Outlet3			ON
4	Outlet4			ON

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。

デフォルトの[排他制御方式]の場合、電源制御可能な他のユーザー(Admin, Control権限)がログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Ident, Supervisor権限ではログインすることが可能です。(ユーザーアカウントの設定については、本章の2.[2](7)「セキュリティ設定」をご確認ください。)

[ガードタイム方式]を選択することで、Admin, Control権限による多重ログインを許可することができます。

スマートフォンでご使用の場合、「横向き」が標準仕様となります。(「縦向き」でご使用になると、横スクロールの必要が生じます。)

リポーターの画面をWEBブラウザで開いている際、セキュリティの観点から別タブにて別ページを閲覧しないようにしてください。

[2] RPCサーチソフトを利用する場合

弊社ホームページ(<https://www.meikyo.co.jp/archive/>)よりRPCサーチソフトをダウンロードし、ご利用いただければDHCP機能を利用した本装置を検索し接続することができます。

設定用PCと本装置をDHCPサーバーの存在するLANに接続します。

- 1)RPCサーチソフトを起動し、[検索]ボタンをクリックします。



- 2)機器一覧にある本装置を選択し、[WEB接続]ボタンをクリック、または[Telnet接続]ボタンをクリックし、本装置に設定されたユーザー名とパスワードを入力してアクセスします。
- 3)ユーザー名(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力します。

注意:[WEB接続]の場合はブラウザ依存のユーザー名/パスワード入力用のポップアップ画面が表示されます。

4)簡易情報表示画面が表示されます。

注意 「100/10」「LINK/ACT」LEDが、いつまでも交互に点滅している時は、DHCPによるアドレス取得ができない状態です。DHCPサーバーを確認するか、IPアドレスを固定にしてご利用ください。

本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。第4章2.[2](4)〈3〉 NTP設定 を行ってからご使用ください。

2. 設定項目

[1] 入力可能な半角文字について

WEB画面の各種設定項目にて「半角英数記号__字以内」となっている項目については基本的には下記の図のとおりとなります。

		下1桁															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
上1桁	20	space	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
	40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_
	60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

→ 使える文字
 → 使えない文字
 → 各種権限ID, パスワードには使用不可

そして「半角__字以内」となっている項目は、上記の表の文字に加えて、半角カナも使用可能です。

ただし、

- ・[ネットワーク設定]-[メール設定]-[メールサーバー設定]の「パスワード」
- ・[システム設定]-[詳細設定]-[シャットダウン設定]-[スクリプト設定(アウトレットx)]の「パスワード」

に関しては、

		下1桁															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
上1桁	20	space	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
	40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_
	60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

→ 使える文字
 → 使えない文字

となります。

[2] システム設定

(1) 基本設定

本装置の基本的な設定をします。

メインメニューの[基本設定]をクリックします。

← システム設定 / 基本設定
↻

基本設定

接点入力設定

接点出力設定

時刻設定

詳細設定

セキュリティ

※特殊記号は利用不可

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット設定

No.	アウトレット名称	OFF	REBOOT	ON	START
1	Outlet1	0	10	1	1
2	Outlet2	0	10	2	2
3	Outlet3	0	10	3	3
4	Outlet4	0	10	4	4
全アウトレットREBOOT時間 (秒)				10	
電源制御時の動作確認				なし	

OFFを「-1」にするとOFF操作を使用不可にします。
ONを「-1」にすると全アウトレットON時、電源出力しません。
STARTを「-1」にすると自動で電源出力を開始しません。

アウトレット連動設定

No.	アウトレット連動
1	-
2	-
3	-
4	-

フロントパネル設定

OUTLET LED点滅	☒ 有効 ☐ 無効
ブザー音	☐ 有効 ☒ 無効

温度センサー設定

温度センサー	☐ 有効 ☒ 無効
メンテナンスモード	☐ 有効 ☒ 無効
記録間隔 (分)	10
温度ログ	☐ 全ログクリア

〈1〉 機器情報

機器名称 : 機器名称を設定します。(全角10文字, 半角英数記号20文字以内)
 設置場所 : 設置場所を設定します。(全角31文字, 半角英数記号63文字以内)

〈2〉 アウトレット設定

- No. : アウトレット番号1~4
 背面のアウトレットの番号を示し, 電源コードに近い側より順番に1, 2, 3, 4となります。
- アウトレット名称: 個別アウトレットの名称を設定します。
 (全角10文字, 半角英数字20文字以内)
- OFF : 個別アウトレットの電源出力を停止する際のOFF遅延時間(秒)を設定します。
 シャットダウンスクリプトを利用する場合は, スクリプトが動作してシャットダウンが終了するまでに必要とされる十分な時間を設定してください。
 デフォルト 0(秒) 設定可能値 -1~3600(秒)
 この遅延時間は以下の操作を行う際に適用されます。
 ・個別アウトレット制御のOFF操作
 ・全アウトレット制御のOFF操作
- 設定値による動作の違い
 -1 : リブート操作のみ有効
 0 : 即座に電源出力を停止
 1~3600 : 指定した時間遅延させた後, 電源出力を停止
 「-1」は誤操作による電源OFF操作を避けたい, ルーターやハブなどの制御に便利です。
 (電源切断により, ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。)
- REBOOT : 個別アウトレットの電源出力を停止後, 開始するまでの時間(秒)を設定します。
 この設定により, 接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。
 デフォルト 10(秒) 設定可能値 8~3600(秒)
 個別アウトレット制御のリブート操作を行う際に適用されます。
- ON : 全アウトレット制御でONする際に個別アウトレットの電源出力を開始するまでの時間(秒)を設定します。
 この設定により, 指定した順番に, 指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。
 デフォルト No.1 1(秒)
 No.2 2(秒)
 No.3 3(秒)
 No.4 4(秒)
 設定可能値 -1~3600(秒)
 この時間は以下の操作を行う際に適用されます。
 ・全アウトレット制御のON操作
 ・全アウトレット制御のリブート操作
- 設定値による動作の違い
 -1 : 全アウトレット制御でONしても電源出力しません
 0 : 即座に電源出力を開始します
 1~3600 : 指定した時間遅延させた後, 電源出力を開始します
 ☆次ページの「全アウトレットREBOOT時間」に関連情報があります。
- START : 本体電源投入時, 個別アウトレットの電源ON遅延時間(秒)を設定します。

この設定により, 指定した順番に, 指定したタイミングで個別アウトレットの電源出力を開始させることができます。

この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

デフォルト No.1 1(秒)
No.2 2(秒)
No.3 3(秒)
No.4 4(秒)

設定可能値 -1~3600(秒)

設定値による動作の違い

- 1 : 本体起動時に電源出力しません
- 0 : 即座に電源出力を開始します
- 1~3600 : 指定した時間遅延させた後, 電源出力を開始します

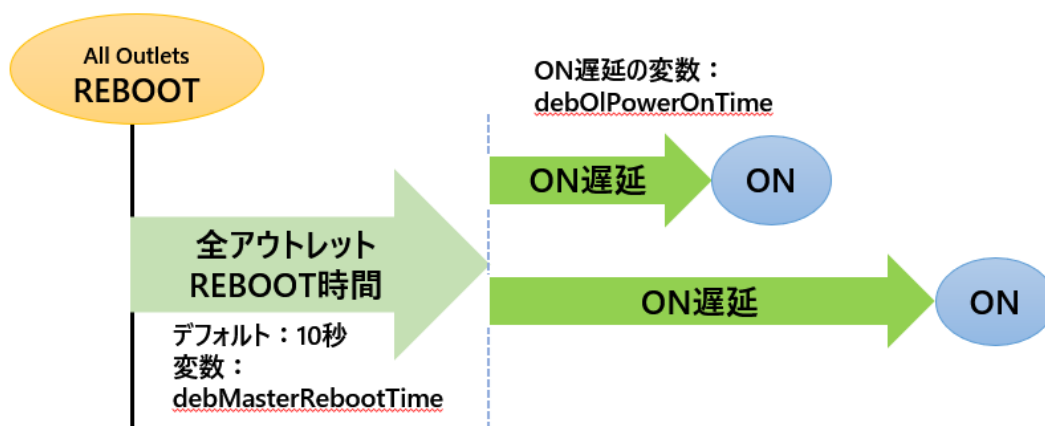
全アウトレットREBOOT時間(秒) : 全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。

デフォルト 10(秒) 設定可能値 8~3600(秒)

この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・全アウトレット制御のリブート操作

※個別アウトレットのREBOOT時間は反映されません。



電源制御時の動作確認 : あり なし (デフォルト あり)

「電源制御」項目下の「電源制御」「仮想制御」において, 各アウトレット, 仮想アウトレットに制御コマンドボタンをクリックした際, デフォルトでは下図のような確認のポップアップが表示され, [OK]をクリック後, 制御コマンドが実行されます。



この項目を[なし]に設定すると, 各アウトレット, 仮想アウトレットに制御コマンドボタンをクリック後, (許可を求めるポップアップが表示されることなく)すぐに制御コマンドが実行されます。

〈3〉 アウトレット連動設定

選択したアウトレットの動作(ON, OFF, REBOOT)に連動します。

〈4〉 フロントパネル設定

OUTLET LED点滅 : 有効 無効 (デフォルト 有効)

有効 : OFF遅延やPing監視に関連して各LEDが点滅します。

無効 : OUTLET LEDの点滅動作はなくなり, 点灯または消灯となります。

ブザー音 : 有効 無効 (デフォルト 無効)

〈5〉 温度センサー設定

温度センサー : 有効 無効 (デフォルト 無効)

メンテナンスモード : 有効 無効 (デフォルト 無効)

有効にすると, 温度監視による電源変化を行いません。

記録間隔 (分) : イベントログに記録する間隔 (デフォルト:10分)

温度ログ : 全ログクリアにチェックを入れて[適用]をクリックすると, 温度ログが消去されます。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 TEMPには弊社温度センサー(RP-TS004)以外差し込まないでください。また, 温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

本体起動時のアウトレット出力はスケジュール設定に従います。スケジュール設定がない場合は本体電源断時の状態に戻します。

(2) 接点入力設定

本装置の接点入力に関する設定します。

[システム設定]-[接点入力設定]をクリックします。接点入力設定画面が表示されます。

接点入力設定画面

接点入力設定 (INPUT)			
接点入力 名称	1	NV Input1 	
	2	NV Input2	
	3	NV Input3	
	4	NV Input4	
動作 モード	1	ノーマル ▼	パルス ▼ 45 msec
	2	ノーマル ▼	レベル ▼
	3	ノーマル ▼	パルス ▼ 45 msec
	4	ノーマル ▼	レベル ▼
連動電源制御 コマンド		Short	Open
	1		
	2		
	3		
連動接点制御 コマンド	1		
	2		
	3		
	4		
連動接点制御 ブザー音	1	無効 ▼	接点ON時 ▼
	2	無効 ▼	接点ON時 ▼
	3	無効 ▼	接点ON時 ▼
	4	無効 ▼	接点ON時 ▼

〈1〉 接点入力設定(INPUT)

接点入力に関する設定をします。

- | | | |
|---------------|---|--|
| 接点入力名称1-4 | : | 接点入力名称を設定します。
全角7文字, 半角英数字14文字以内 |
| 動作モード | : | ノーマル, リバース / レベル, パルス
[パルス]選択→適用後, []×10ミリ秒 |
| 連動電源制御コマンド1-4 | : | PONn, POFn, PORn, PSRn (n=1~4)
MPON, MPOF, MPOR |
| 連動接点制御コマンド1-4 | : | SONn, SOFn (n=1~4), MSON, MSOF |
| Short | : | 接点入力 [※] 短絡 |

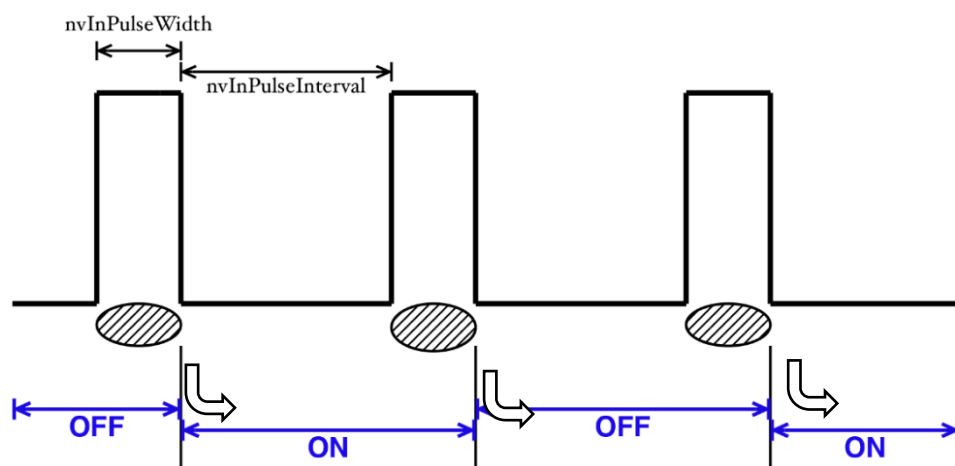
Open : 接点入力が開放
連動接点制御ブザー音 : [接点ON時]または[接点OFF時]のブザー音
[無効] [連続] [0.5秒間隔] [1秒間隔]

接点入力

接点入力信号が入力された時、連動電源制御コマンド及び連動接点制御コマンドを実行します。
 (「レベル」モードの場合、接点が1秒(デフォルト)以上短絡、又は開放された場合を入力と判断します。)

「パルス」モード

状態表示は、パルスが入力されるごとに[ON]→[OFF]→[ON]→[OFF]→……と変化します。
(トグル動作)



入力パルスの幅(変数:nvInPulseWidth。ミリ秒単位で変更可能。)はWEB画面で変更可能です。WEB画面での入力可能値は45~32767[ミリ秒]です。

パルスの間隔の幅はデフォルトでは1秒となっています。別の値を指定したいときはTelnetで変数nvInPulseIntervalによって指定することが可能です。(秒単位で)

設定が終了しましたら「適用」をクリックします。

(3) 接点出力設定

本装置の接点出力に関する設定します。

[システム設定]-[接点出力設定]をクリックします。接点出力設定画面が表示されます。

接点出力設定画面

接点出力設定 (OUTPUT)	
接点出力名称	1 NV Output1
	2 NV Output2
	3 NV Output3
	4 NV Output4
動作モード	1 リバース ▾ レベル ▾
	2 リバース ▾ レベル ▾
	3 ノーマル ▾ パルス ▾ 50 x10ms
	4 ノーマル ▾ レベル ▾
接点出力連動設定	連動無し ▾
アウトレット 連動接点番号	1 連動無し ▾
	2 連動無し ▾
	3 連動無し ▾
	4 連動無し ▾
温度上限警報	連動無し ▾
温度下限警報	連動無し ▾
ハートビート	連動無し ▾
死活監視	連動無し ▾

〈1〉 接点出力設定(OUTPUT)

接点出力に関する設定をします。

- | | | |
|--------------|---|--|
| 接点出力名称1-4 | : | 接点出力名称を設定します。
全角7文字, 半角英数字14文字以内 |
| 動作モード | : | ノーマル, リバース / レベル, パルス
[パルス]選択→適用後, []×10ミリ秒 |
| 接点出力連動設定 | : | 連動なし
電源状態に連動
温度監視に連動
死活監視に連動
ハートビートに連動 |
| アウトレット連動接点番号 | : | 連動なし, 接点出力1-4 |
| 温度上限警報 | : | 連動なし, 接点出力1-4 |
| 温度下限警報 | : | 連動なし, 接点出力1-4 |
| ハートビート | : | 連動なし, 接点出力1-4 |
| 死活監視 | : | 連動なし, 接点出力1-4 |

接点出力

接点出力連動設定で設定した条件で接点出力されます。(接点出力とは接点を短絡することを意

味します。)

動作モードで「リバーズ」を選択しますと接点出力は「接点出力開放」状態で出力されます。

また「レベル入力」「パルス入力」の設定ができます。「パルス」の際, その長さも指定できます。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

(4) 時刻設定

[システム設定]-[時刻設定]をクリックします。時刻設定画面が表示されます。



時刻設定画面の構成要素:

- 時刻内容**

PC時刻	2018/10/16 13:57:34
機器時刻	2018/10/16 13:57:50
- 時刻設定**

PC時刻と同期	2018/10/16	同期
	13:58:20	
- NTP設定**

NTPサーバーアドレス		適用
NTPサーバー同期間隔	6 (1=10分)	

〈1〉 時刻内容

PC内蔵時計の時刻と本装置内蔵時計の時刻を表示します。

〈2〉 時刻設定

[同期]をクリックすると接続されたPCの時刻に設定されます。

〈3〉 NTP設定

NTPサーバーアドレス : NTPサーバーアドレスを入力します。

NTPサーバー同期間隔 : NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。
デフォルト値 : 6 [=60分] (入力値×10分)

注意 本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTPサーバーの設定を行ってからご使用ください。

NTPサーバーの接続に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。
(失敗した時点でエラーログが1回残ります。その後、接続に成功しなければ、24時間置きにエラーログが表示されます。)

(5) 詳細設定

[システム設定]-[詳細設定]をクリックします。詳細設定画面が表示されます。

詳細設定画面

No.	アウトレット名称	MAC アドレス
1	Outlet1	00:00:00:00:00:00
2	Outlet2	00:00:00:00:00:00
3	Outlet3	00:00:00:00:00:00

〈1〉 レジストリリスト

[Textリスト]をクリックすると、Web画面上に全変数が表示されます。

〈2〉 機器制御

ファームウェア管理 : [ファームウェア更新]をクリックすると、現在のファームウェアを確認でき、明京サーバーから最新版にアップグレードすることができます。(FWの更新情報は、弊社のホームページでご確認ください。)

ファームウェア書き換え設定 (デフォルト 有効)

無効 : ファームウェア更新機能を無効にします。

ファイルのみ : ファームウェア更新をローカルからのみ有効にします。

オンラインのみ : ファームウェア更新を明京サーバーからのみ有効にします。

有効 : ファームウェア更新をローカル/明京サーバーの両方から有効にします。

[ファームウェア更新]をクリックすると、以下のメニューが開きます。

1) 現在のファーム情報

現在のバージョンとモデル名が表示されます。

2) バージョンアップ方法の選択

オンラインアップデート : [開始]をクリックすると、弊社サーバーに接続してアップグレードします。

ローカルファイルの選択 : コンピュータに保存したアップグレード用のファイルを選択してアップグレードします。

★何かのアクシデントでバージョンアップに失敗した場合★

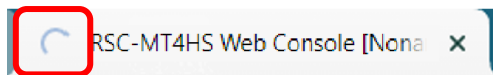
本装置はバージョンアップに失敗しても「データ再送」画面が表示されるか、バージョンアップ前のファームウェアで動作する仕様となっています。アップデートの途中で停電や通信途絶が発生し、バージョンアップに失敗した場合、以下の手順でデータ再送を行ってください。

この時に、**本装置のRESETボタンを押さないようにしてください。**

通信途絶/回復の頻度とタイミングによっては、RESETボタンを押すとお客様の手元での再書き込みが不可能な状態になってしまうおそれがあります。(不可能状態に陥った場合、弊社カスタマーサポートにご連絡ください。)

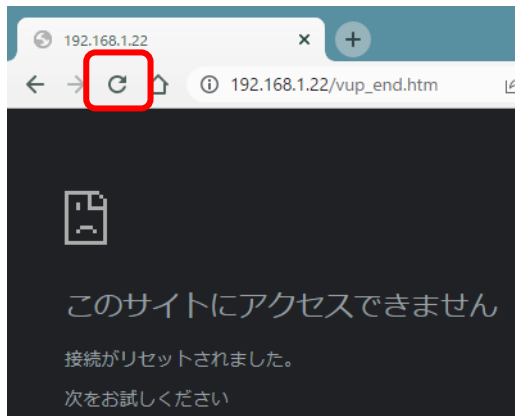
発生した状況に合わせて、以下の対応を行ってください。

- 通信途絶したが、WEBブラウザが待機中となっている場合



↑待機中はそのままお待ちください。

- 通信途絶の時間が長く、WEBブラウザからHTTPリクエストが途絶えた場合
例)Chromeの場合



↑「再読入」ボタンをクリック(その後、[続行]やそれに類するボタンをクリック)してください。

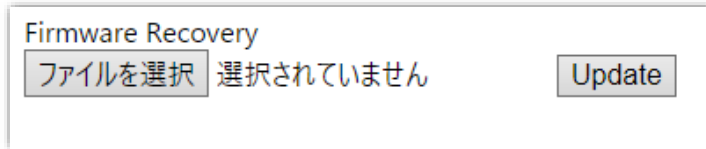
- 停電やコンセント抜けでリブーターの電源がOFFとなった場合
一度WEBブラウザを閉じてから、再度WEBブラウザを開いてリブーターにアクセスしてください。ログアウト画面が表示された場合は、ログインボタンをクリックしてください。
- 更新中にWEBブラウザを閉じた場合
WEBブラウザを開き、リブーターにアクセスしてください。

そうしますと、WEB画面に以下のいずれかの画面が表示されます。

- ログイン画面が表示され、ログイン後はメニューと簡易情報表示画面になる
そのままご使用いただけますが、使用前にシステム情報を開き、バージョンを確認してください。旧

バージョンの場合は、再度バージョンアップを行ってください。

●WEB画面に以下の表示が出る



この場合は「ローカルファイル選択によるアップデート」を実施する必要があります。

バージョンアップファイルは明京電機株式会社ホームページにあります。

<https://www.meikyo.co.jp/archive/>の、「アップデート(ファームウェア & ソフトウェア)」のセクションから該当機種のバージョンアップファイルをダウンロードしてください。

WEB画面の[ファイルを選択]をクリックし、用意したバージョンアップファイルを選択します。

その後、[Update]をクリックし、アップデートを実施します。

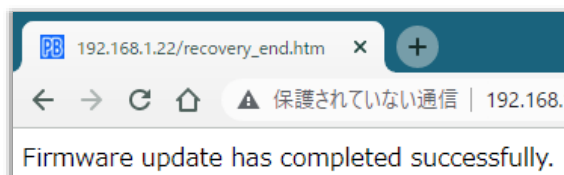
[Update]クリック後は、しばらくお待ちください。

↓ Webブラウザにて「待機中」になっている間はそのままお待ちください。



1分以上経過しても表示が変わらない場合のみ、本体RESETボタンを押して再び実行してください。
(初期化は絶対にしないでください。正常稼働しなくなります。)

成功すると、



と表示されます。この後、リブーターのIPアドレスにアクセスし、「CPUリセット」を実行します。

〈3〉 アウトレット連動送信 Wake on LAN

Wake on LAN対応の機器を電源出力開始と同時にマジックパケットを送信し、ブートアップさせることができます。

注意 アウトレットの電源状態がOFFからONになるときにマジックパケットが送出されます。そのため、**アウトレットがONの状態時に「電源ONコマンド」を実行してもWoLは実行されません。**「電源REBOOTコマンド」であれば、WoLを実行できます。または、仮想アウトレット制御をご使用ください。

アウトレット名称 : アウトレット設定で設定したアウトレット名称が表示されます。
 MACアドレス : Wake on LANで起動を行いたい機器のMACアドレスを入力します。
 デフォルト 00:00:00:00:00:00

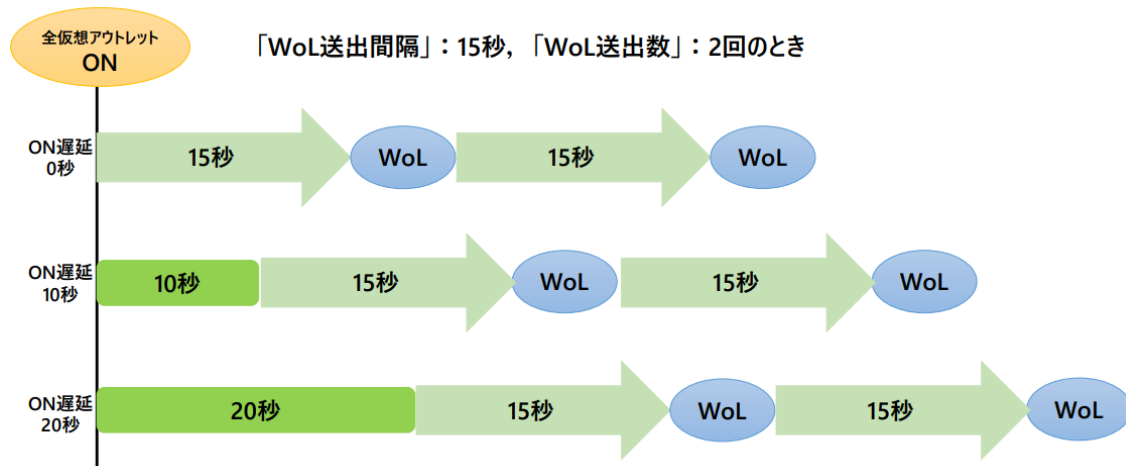
〈4〉 仮想アウトレット設定[Wake on LAN]

仮想アウトレットとは実際には存在しないアウトレットです。MACアドレスを指定してマジックパケットを送出し、Wake on LAN 対応機器の電源をONにする機能です。仮想アウトレットを使用して対象機器の電源をOFFにすることはできません。

仮想アウトレット名称 : 仮想アウトレット名称を設定します。
 全角10文字, 半角英数字20文字以内
 MACアドレス : 00:00:00:00:00:00 (デフォルト)
 遅延(秒) : ON遅延(※)の秒数です。
 デフォルト 0

(※)「ON遅延」について

「電源制御-仮想制御-仮想アウトレット(WoL)」で「全仮想アウトレット」をONにしたときに、このON遅延が発生します。

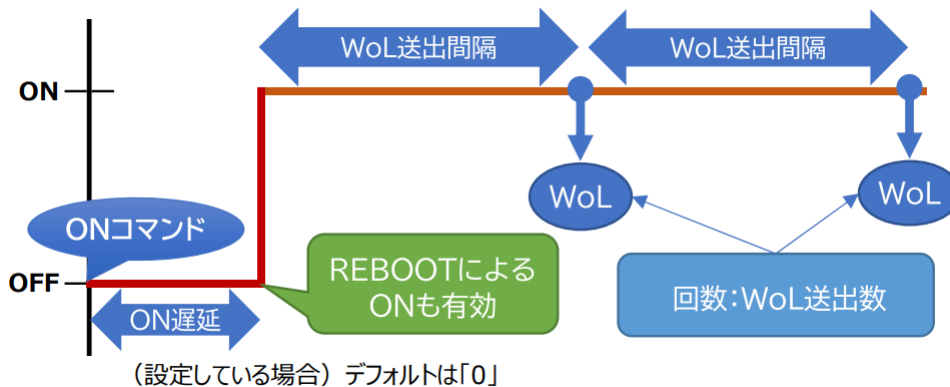


注意 本装置の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。(イベントログには「コールドスタート」「電源操作(ON) 仮想アウトレット ALL」が記録されます。)

〈5〉 Wake on LAN

「アウトレット連動送信Wake on LAN」,「仮想アウトレット設定[Wake on LAN]」共通の設定となります。

WoL送出数 : 2 (デフォルト)
WoL送出間隔(秒) : 15 (デフォルト)



〈6〉 COMポート設定

COMポートに関する設定をします。

COM通信速度 : 9600bps
19200bps
38400bps (デフォルト)
COMキャラクター長 : 7bits
8bits (デフォルト)
COMストップビット : 1bit (デフォルト)
2bits
COMパリティ : none (デフォルト)
odd
even

〈7〉 リモートスイッチ設定

リモートスイッチ(RP-SW001)が3秒間押されると, 設定したコマンドを, 1から4までコマンド送信間隔ごとに実行します。送信後待機時間が終了するまで次のスイッチ入力は無視します。

リモートスイッチ(RP-SW001)のブザーがONの場合は, 送信後待機時間が完了するまでリモートスイッチ(RP-SW001)本体のブザーが鳴動します。

実行コマンド1-4 : PSR1-4 (デフォルト)
次のコマンドが実行できます。
PONn, POFn, PORn, PSRn (n=1~4)
MPON, MPOF, MPOR

1->2 送信間隔(秒) : 実行コマンド1と実行コマンド2のコマンド送信間隔 (デフォルト 1)
設定可能範囲 1 ~ 3600(秒)

2->3 送信間隔(秒) : 実行コマンド2と実行コマンド3のコマンド送信間隔 (デフォルト 1)
設定可能範囲 1 ~ 3600(秒)

3->4 送信間隔(秒) : 実行コマンド3と実行コマンド4のコマンド送信間隔 (デフォルト 1)
設定可能範囲 1 ~ 3600(秒)

送信後待機時間(秒) : 最後の実行コマンド終了のための待機時間(デフォルト 5)
設定可能範囲 3 ~ 3600(秒)

注意 リモートスイッチ(RP-SW001)はオプション製品です。
本装置前面のSW2スイッチを押下してもリモートスイッチと同じ動作ができません。ブザー音が有効の場合は、内部のブザーが鳴ります。
 (SW2スイッチから操作を行った場合は、RP-SW001のブザーは鳴りません)

〈8〉 UPS連動設定

UPSの連動に関する設定をします。

UPS連動機能を使用する場合は、本設定の他に本体前面DIPスイッチ1をONにしてください。

- UPS名称 : 全角19文字 半角英数字19文字以内
- モニタ間隔(秒) : UPSからの信号を再確認する時間です。再確認後に異常判断します。
 デフォルト:10秒
- シャットダウン開始(秒) : バッテリー駆動が開始してからシャットダウン開始するまでの待機時間です。
 デフォルト:120秒
- 停電検知レベル : 負 正 (デフォルト 正) UPS側の設定と揃えてください。**※1**
- ローバッテリー検出レベル : 負 正 (デフォルト 正) UPS側の設定と揃えてください。**※1**
- シャットダウン信号レベル: 負 正 (デフォルト 正) UPS側の設定と揃えてください。**※1**
- シャットダウン有効化 : 無効 有効(デフォルト 無効)
- 無効 : UPS連動で各Outlet出力をOFFした後、そのまま待機します。本装置を再起動する必要はなく、UPSからの信号が解除され次第、出力をOFFにしたOutletをONにします。
- 有効 : UPS連動で各Outlet出力をOFFした後、UPS側にシャットダウン(ER)信号を送信します。ER信号に対応しているUPSはシャットダウンを開始し、無駄な電力放出を無くします。
 正常動作に戻すためには本装置の再起動が必要になり、再起動後、出力をOFFにしたOutletをONにします。

※1. 停電検知レベル・ローバッテリー検出レベル・UPSシャットダウン信号の「正負」に関して

「停電検知レベル」はUPSからのCS信号,「ローバッテリー検出レベル」はUPSからのCD信号,「シャットダウン信号レベル」はUPSへのER信号を表しています。
 各レベルの「正負」はUPS側の設定と揃える必要がありますが、基本的には下記のような違いがあります。

	正	負
正常時 (CS:通電中 CD:正常電圧 ER:起動中)	電圧Low	電圧High
異常時 (CS:停電中 CD:低電圧 ER:終了後)	電圧High	電圧Low

例えば、誤って信号線用ケーブルが抜けてしまった時の動作に違いが生じます。ケーブルが抜けた場合に受信側は「電圧Low」と判断します。よって、「正」設定の時「正常」,「負」設定の時「異常」と判断します。用途・目的に応じて使い分けてください。

詳細は 第10章 無停電電源装置(UPS)との連携 をご参照ください。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

(6) シャットダウンスクリプト設定

本装置にシャットダウンスクリプトに関する設定をします。

[システム設定]-[詳細設定]-[シャットダウン設定]をクリックします。スクリプト設定画面が表示されます。

基本設定

詳細設定

セキュリティ

シャットダウン設定

アウトレット1

アウトレット2

アウトレット3

アウトレット4

スクリプトデータ

シャットダウン スクリプト

スクリプト編集

スクリプト設定 (アウトレット1)

スクリプト機能	☐ 有効 ☒ 無効
スクリプト番号	1
対象IPアドレス	
ポート	0
ユーザーID	
パスワード	

シャットダウンPing設定 (アウトレット1)

シャットダウンPing実行先アドレス	
シャットダウンPing間隔(秒)	0
シャットダウンPing無応答回数	0
シャットダウンPing最大送信数	0

スクリプトMsg表示 (アウトレット1)

メッセージ

適用

〈1〉 スクリプトデータ

[スクリプト編集]をクリックします。

スクリプト ファイル

スクリプト番号

No.1

エラー情報

```

TELNET
timeout 600
1:
recv 30 exit 91
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 30 exit 92
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3
send "shutdown /s&#247;"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit&#247;"
exit

```

スクリプト説明

スクリプト ファイル設定

1	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
2	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
3	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load
4	Text	ファイルの選択	ファイルが選択されていません	Load

スクリプトエラー時の終了コードによる電源OFF

右の数値以下の終了コードで電源OFFする

255

SSHでのシャットダウン限定適用項目

WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒)

60

SSHでのシャットダウンスクリプト実行中のみ、
[ネットワーク設定]-[html表示設定]-[自動ページ更新時間(秒)]の設定秒数に、
上記の秒数を追加してWEBページ自動更新を行います。
SSHでのシャットダウン処理中、自動更新が生じないよう
十分な時間を設定してください。

適用

1) スクリプトファイル

スクリプト1番にWindows用シャットダウンスクリプトがデフォルトで登録されています。

スクリプトファイル設定の[Text]をクリックすると、その番号に登録されているスクリプトを確認することができます。

[スクリプト説明]をクリックすると、テキスト作成の制限, スクリプト関数一覧の説明を見ることができます。

2) スクリプトファイル設定

Text : 各番号に登録されている内容を「スクリプトファイル」のウィンドウに呼び出します。

Load : [ファイルの選択]で作成済みのスクリプトファイルを選択し, [Load]をクリックして登録します。登録した内容は上のウィンドウに表示されます。

3)スクリプトエラー時の終了コードによる電源OFF

終了コードがこの値を超えていたら, 電源をOFFしません。

「0」なら, 終了コードが0のときのみOFF, 「255」ならすべての終了コードでOFFとなります。

4)SSHでのシャットダウン限定適用項目

WEB自動ページ更新 追加延長時間(秒) : 60(デフォルト)

SSHでのシャットダウンスクリプト実行中のみ, [ネットワーク設定]-[html表示設定]-[自動ページ更新時間(秒)]の設定秒数に, 上記の秒数を追加してWEBページ自動更新を行います。SSHでのシャットダウン処理中, 自動更新が生じないように十分な時間を設定してください。

☆詳細は 第9章 シャットダウンスクリプト をご参照ください。

スクリプトデータ	
シャットダウン スクリプト	スクリプト編集
スクリプト設定 (アウトレット1)	
スクリプト機能	☐ 有効 ☒ 無効
スクリプト番号	1
対象IPアドレス	
ポート	0
ユーザーID	
パスワード	
シャットダウンPing設定 (アウトレット1)	
シャットダウンPing実行先アドレス	
シャットダウンPing間隔(秒)	0
シャットダウンPing無応答回数	0
シャットダウンPing最大送信数	0
スクリプトMsg表示 (アウトレット1)	
メッセージ	

〈2〉 スクリプト設定(アウトレット1~4)

「アウトレット1」~「アウトレット4」のうち, 設定を行うアウトレットをクリックします。

スクリプト機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)

スクリプト番号 : 1 (デフォルト)

※スクリプト1番にWindows用シャットダウンスクリプトがデフォルトで登録されています。

IPアドレス : シャットダウンさせたいPC(STB)のIPアドレスを設定します。
ポート : 0 (デフォルト)
ユーザーID : 最大半角16文字
パスワード : 最大半角16文字

〈3〉 シャットダウンPing設定(アウトレット1~4)

「シャットダウン確認としてのICMPエコー要求」を「シャットダウンPing」と呼びます。

シャットダウンPingアドレス : シャットダウンPingを送信したいIPアドレスまたはネームアドレスを設定します。

シャットダウンPing間隔(秒) : シャットダウンPingを送信する間隔を設定します。
デフォルト 0(秒)

シャットダウンPing無応答回数 : アウトレットOFFを実行する, シャットダウンPingへの無応答連続回数を設定します。
デフォルト 0(回)

シャットダウンPing最大送信数 : アウトレットOFFを実行する, シャットダウンPing連続回数を設定します。(Ping応答の有無は考慮しません)
デフォルト 0(回)

〈4〉 スクリプトMsg表示(アウトレット1~4)

メッセージ : スクリプト内に「set 文字列」があると, シャットダウンスクリプト実行後, 「文字列」がここに表示されます。

設定が終了しましたら, [適用]をクリックします。

(7) セキュリティ

[システム設定]-[セキュリティ]をクリックします。

基本設定 詳細設定 セキュリティ

フィルター

共通設定

電源制御方式 排他制御方式 変更

http Ident (表示のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1		
2		

http Control (表示 & 電源制御のみ)

No.	ユーザーID	パスワード
1		
2		

http Admin

No.	ユーザーID	パスワード
1	admin	
2		

http Supervisor

No.	ユーザーID	パスワード
1	super	
2		

MPMPコマンド制御

No.	ユーザーID	パスワード
1		
2		
3		

(1) 共通設定

- 電源制御方式 : [排他制御方式]と[ガードタイム方式]を選択します。
デフォルト 排他制御方式
- ★排他制御方式 : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者のみに限定します。
WEB画面, シリアル通信, (有効ならば)Telnet, SSH通信いずれかで, 一者が電源制御を行いログインし続けている状態の時には, (他の通信手段であっても)他者のログインを許可しません。
- ★ガードタイム方式 : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者に限定せず, 多重ログインを許可します。(同一通信方式にて最大2接

続まで。)

「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」は[ガードタイム方式]設定時のみ実行可能です。(MPMPによる電源制御も[ガードタイム方式]の時にしか実行できません)

一者が電源制御を行った場合, 他者もログインしてWEB画面を見たりTelnetなどで通信を行うことはできますが, 別の電源制御コマンドをガードタイム中に送信しても無効となります。ガードタイム経過後であれば, 他者からの電源制御コマンドも実行できます。

ガードタイムには2種類あり, 「電源ON/REBOOTコマンド後」と「電源OFFコマンド後」のガードタイムを個別に設定できます。

- 方式の切替時, [変更]ボタンを押下すると次の警告文が表示されます。警告の内容に同意の上, [OK]を押し, ふさわしいガードタイムを設定してください。

192.168.1.1 の内容

以下の文面をお読みになり, 同意される場合にのみ電源制御方式を変更できます。【RSC-MT4HS】

排他制御方式では多重ログインは不許可, ガードタイム方式では許可となります。ガードタイム方式の場合, 他の操作者により, ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため, リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。

【 同意しますか? 】

[ガードタイム方式]に切り替えると, ガードタイムを設定できるようになります。

共通設定	
電源制御方式	ガードタイム方式 ▼ 変更
ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)	10 設定
OFF後, ガードタイム(秒)	10

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒) : デフォルト10(秒)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「PONn」「MPON」「PORn」「MPOR」, 現状OFFになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

OFF後, ガードタイム(秒) : デフォルト10(秒)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「POFn」「MPOF」, 現状ONになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

●ガードタイム仕様●

- ・「ON/REBOOT後, ガードタイム」「OFF後, ガードタイム」ともに, 設定値は各アウトレット共通となります。(アウトレット個別に, 異なる長さのガードタイムを設定することはできません。)
- ・「ON/REBOOT後, ガードタイム」の間は, OFFコマンド, REBOOTコマンドがブロックされます。
- ・「OFF後, ガードタイム」の間は, ONコマンド, REBOOTコマンドがブロックされます。

- ・1つのアウトレットが

「ON/REBOOT後, ガードタイム」中に, MPOF, MPORコマンドが

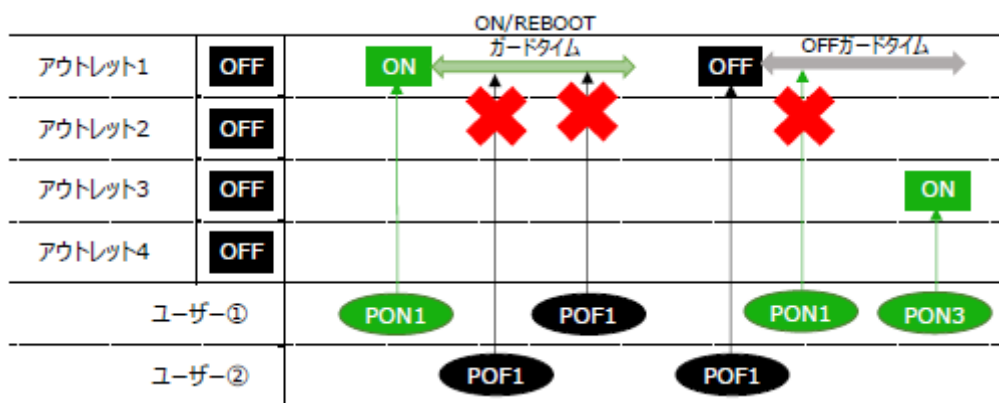
または「OFF後, ガードタイム」中に, MPON, MPORコマンドが

実行されても, そのコマンドは無効とされ, ガードタイムがかかっていないアウトレットの電源状態は変化しません。

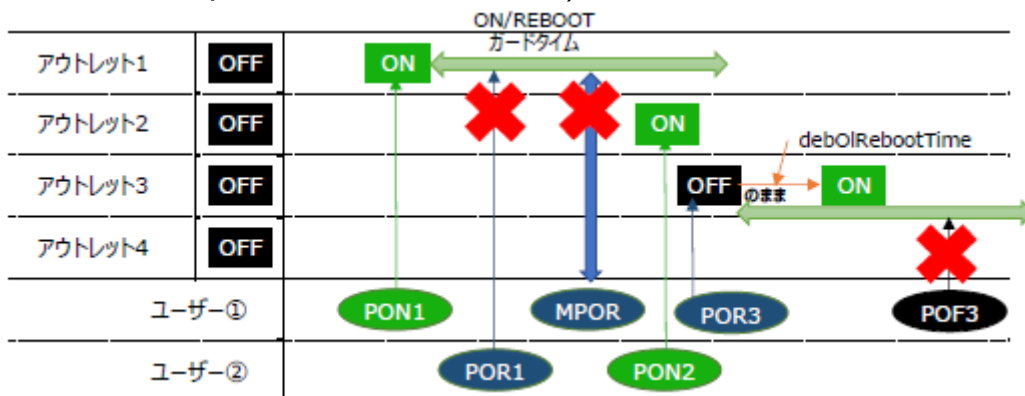
- ・各種監視(Ping, メールサーバー, ハートビート, 温度), UPS連携, スケジュール, リモートスイッチ連動, 接点入力連動によるアウトレット操作はガードタイムの対象外となります。

- ・ガードタイム発動時, 接続している全てのユーザーからの電源制御が制限を受けます。

■「ON/REBOOT後, ガードタイム」「OFF後, ガードタイム」と電源ON/OFFコマンド



■ガードタイム中の全アウトレットへのコマンド, リブートとガードタイム



〈2〉 各種権限

【すべて「HTTP接続用」です。】

http Ident : システム情報参照のみ (※ 最大10件登録)

http Control : システム情報参照と電源の制御のみ (※ 最大10件登録)

http Admin : すべての権限 (※ 最大5件登録)
ユーザーID(デフォルト:admin) パスワード(デフォルト:magic)

http Supervisor : Ident権限にCPUリセット機能を追加 (※ 最大5件登録)
ユーザーID(デフォルト:super) パスワード(デフォルト:illusion)

ユーザーID : 最大半角英数記号8文字 (重複不可)(@は不可)

パスワード : 最大半角英数記号16文字 (重複可)

	Ident	Control	Admin	Supervisor
簡易状態表示	○	○	○	○
監視状態表示	○	○	○	○
イベントログ	×	×	○	○
電源制御	×	○	○	×
各種設定	×	×	○	×
CPUリセット	×	×	○	○

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 Telnet, シリアル通信, SSH通信用のID, パスワードは別途変更する必要があります。

- Telnet, シリアル通信用 第5章その他の設定 をご覧ください。
- SSH通信用 [ネットワーク設定]-[詳細設定]-[SSH設定]-「SSHサーバー設定」にて設定できます。

〈3〉 MPMPコマンド制御

明京オリジナルプロトコル MPMP(Meikyo Products Management Protocol)を使用して, 電源制御, 接点出力制御, 仮想アウトレット制御, CPUリセットを実行させることができます。

MPMPによる制御に使用するID, PASSを8セット, 設定することができます。

ユーザーID : 半角英数記号5文字以内

パスワード : 半角英数記号7文字以内

注意 MPMPによる制御に関しては弊社営業部に一度ご相談ください。

(8) フィルター

IP フィルター設定	
IP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
アドレス1	192.168.10.0
アドレス2	
アドレス3	

Ident / Control ユーザー 表示設定	
詳細監視表示	☐ 隠す ☒ 表示
接点制御	☐ 隠す ☒ 表示
仮想アウトレット制御	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 ON ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 OFF ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
電源制御 REBOOT ボタン	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット1 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット2 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット3 関連	☐ 隠す ☒ 表示
アウトレット4 関連	☐ 隠す ☒ 表示
全アウトレット制御ボタン	☐ 隠す ☒ 表示

(1) IPフィルター設定

IPフィルター機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 アドレス1～10 : 192.168.10.0(デフォルト)
 (最大10アドレス)

登録するアドレスは、最後のビットを0にします。

アドレス1のデフォルト値[192.168.10.0]ですと、

192.168.10.1～192.168.10.254からのみ接続可能となります。

(0に設定した部分は、あらゆる数値をとれる、ということになります)

■IPフィルターについて

細かに設定する場合、Telnetで変数を用いて設定する必要があります。

関係する変数名

IPフィルターアドレス : ipFilterAddr (WEB画面でも設定可能)

IPフィルターマスク : ipFilterMask (WEB画面には項目がない)

IPフィルター機能はビット単位のマスク機能です。(IPv4のサブネットマスク)

基本的にマスクを「255」にすると「必ずその値でなければならない」となり、

「0」にすると「その部分はあらゆる数値をとれる」となります。

ですので、ipFilterMask=255.255.255.0

ipFilterAddr=192.168.10.0 とすると、

「192.168.10.1～192.168.10.254」から接続可能になります。

1) 指定のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例:「192.168.1.119」「10.149.15.12」「10.46.48.111」の3つのアドレスからのアクセスのみ受け付けたい。

ipFilterMask=255.255.255.255 にすることで、そのアドレスのみ可能にできます。

Telnetやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

```
ipFilterMask=255.255.255.255,255.255.255.255,255.255.255.255
```

```
ipFilterAddr=192.168.1.119,10.149.15.12,10.46.48.111
```

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

2) ある範囲のIPアドレスからのみアクセスできるようにする場合

例1 「192.168.10.1～192.168.10.150」まで接続可能にしたい場合

まず「192.168.10.」の部分は「必ずその値であるべき」なのでマスクは「255.255.255.」で始めます。最後の1桁に関して2進法を使って設定していきます。

「150」を2進法で表すと「10010110」となります。つまり、128+16+4+2です。【2進法の「1」に注目しています。】

このとき「128」,「128+16=144」,「128+16+4=148」,「128+16+4+2=150」の4つを区切りとして考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」,「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
1～127	0xxxxxxx	1 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0	→	128	0
128～143	1000xxxx	1 1 1 1 0 0 0 0	1 0 0 0 0 0 0 0	→	240	128
144～147	100100xx	1 1 1 1 1 1 0 0	1 0 0 1 0 0 0 0	→	252	144
148～149	1001010x	1 1 1 1 1 1 1 0	1 0 0 1 0 1 0 0	→	254	148
150	10010110	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 0	→	255	150

となるので、Telnetやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

```
ipFilterMask=255.255.255.128,255.255.255.240,255.255.255.252,255.255.255.254,255.255.255.255
```

```
ipFilterAddr=192.168.10.0,192.168.10.128,192.168.10.144,192.168.10.148,192.168.10.150
```

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

例2 「192.168.10.151～192.168.10.254」まで接続可能にしたい場合

これも最後の1桁だけ考えます。

「151」を2進法で表すと「10010111」となります。この数字から255を目指すので、今度は2進法の

「0」に注目すると、あと「8+32+64」あれば255になります。(IPアドレスで255は使用しません。ただフィルターのマスクを考えるにあたっては便宜上255をイメージします)

このとき「151」, 「151+8=159」, 「151+8+32=191」, 「151+8+32+64=255」の4つで考えます。

【ipFilterMaskルール】

2進法にして「0」→「0,1両方可」, 「1」→「固定部分」とマスクをかける。

	x=0,1どちらでも 網掛け=固定	ipFilterMask 2進法	ipFilterAddr 2進法		ipFilterMask 10進法	ipFilterAddr 10進法
151	10010111	1 1 1 1 1 1 1 1	1 0 0 1 0 1 1 1	→	255	151
152~159	10011xxx	1 1 1 1 1 0 0 0	1 0 0 1 1 0 0 0	→	248	152
160~191	101xxxxx	1 1 1 0 0 0 0 0	1 0 1 0 0 0 0 0	→	224	160
192~255	11xxxxxx	1 1 0 0 0 0 0 0	1 1 0 0 0 0 0 0	→	192	192

となるので、Telnetやシリアルコンソールで、次の変数を書き込みます。

(変数なので、初めに「.(ピリオド)」が必要です。)(区切りに「,(コンマ)」を使っています)

.ipFilterMask=255.255.255.255.255.255.255.248.255.255.255.224.255.255.255.192

.ipFilterAddr=192.168.10.151.192.168.10.152.192.168.10.160.192.168.10.192

この後「>」の後に「write」を入力してEnterを押すことで設定が書き込まれます。

これで「192.168.10.151~192.168.10.254」だけが接続できるようになりました。

〈2〉 Ident/Controlユーザー表示設定

詳細監視表示	: 隠す, 表示
接点制御	: 隠す, 表示
仮想アウトレット制御	: 隠す, 表示
電源制御ONボタン	: 隠す, 表示
電源制御OFFボタン	: 隠す, 表示
電源制御REBOOTボタン	: 隠す, 表示
アウトレット1-4関連	: 隠す, 表示
全アウトレット制御ボタン	: 隠す, 表示

デフォルトは「表示」です。「隠す」にチェックするとWEB接続時、Ident、Control権限でのログイン時の各表示を隠すことができます。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 [適用]をクリックしないと設定した内容が有効になりません。

[3] ネットワーク設定

本装置のネットワークに関する設定をします。

(1) 基本設定

半角英数のみ

ネットワーク基本設定	
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
HTTP 認証方式	Digest ▼
Realm 名	RSC-MT4HS
Nonce 時間 (秒)	180
Telnet	☐ 有効 ☒ 無効
Telnet ポート	23
リモート Telnet IP	
リモート Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
RPCサーチ	☒ 有効 ☐ 無効
自動ログアウト	☒ 有効 ☐ 無効

HTML 表示設定	
ログインタイムアウト (秒)	600
自動ページ更新設定	☐ 有効 ☒ 無効
自動ページ更新時間 (秒)	30

ダイレクトWEBコマンド設定	
ダイレクトWEBコマンド機能 [?]	☐ 有効 ☒ 無効

★「ガードタイム方式」かつ「電源制御時の動作確認：なし」設定時のみ電源制御が可能です。[システム設定]-[セキュリティ]及び[システム設定]-[基本設定]-[アウトレット設定]から設定してください。

〈1〉 ネットワーク基本設定

IPアドレス : 192.168.10.1
 サブネットマスク : 255.255.255.0
 デフォルトゲートウェイ : 0.0.0.0
 DNSサーバーアドレス : 0.0.0.0

DHCP	:	有効 無効 (デフォルト 無効)
HTTP	:	有効 無効 (デフォルト 有効)
HTTPポート	:	80
HTTP認証方式	:	None Basic Digest (デフォルト Digest)
認証領域(realm)名	:	RSC-MT4HS (半角20文字以内)
Nonce時間(秒)	:	180 設定可能値 30 ~ 30000
Telnet	:	有効 無効 (デフォルト 無効)
Telnetポート	:	23
通信速度	:	100Mbps Full Duplex 100Mbps Half Duplex 10Mbps Full Duplex 10Mbps Half Duplex 自動接続 (デフォルト 自動接続)
RPCサーチ	:	有効 無効 (デフォルト 有効)
自動ログアウト	:	有効 無効 (デフォルト 有効)

※特に記載の無い内容はデフォルト値となります。

注意 HTTP認証を「None」に設定するとブラウザでアクセス時にログイン画面が表示されます。
「Basic」または「Digest」に設定するとブラウザ依存のポップアップ画面にIDとパスワードを入力する方式になります。

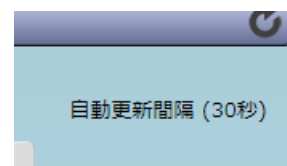
外部のネットワークから接続するためIPアドレスを固定にしてルーターのポートフォワーディング機能を利用する場合は、DHCPを無効にしてください。

注意 DHCP利用中、IPアドレスの取り直しが行われると本装置は自動的にCPUリセットを行います。

〈2〉 HTML表示設定

ログインタイムアウト(秒) : 自動ログアウトまでの時間を設定します。
デフォルト:600 設定可能値:30~30000

★画面右上に“自動更新間隔(*秒)”の表示がある画面を開いている場合は自動ログアウトされません。



自動ページ更新設定 : 簡易状態表示画面, 詳細状態表示画面について, 自動更新の有無を設定します。
有効 : 自動更新を行う

無効 : 自動更新を行わない(デフォルト 無効)

★この項目を[無効]にしても【電源制御】画面は必ず「自動更新」になります。

自動ページ更新時間(秒) : Webと電源制御画面の自動更新間隔時間を設定します。
デフォルト:30

〈3〉 ダイレクトWEBコマンド設定

ダイレクトWEBコマンド機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)

注意 ダイレクトWEBコマンドについては 第6章 4. WEBコマンドからの制御をご確認ください。
 ダイレクトWEBコマンドで「電源制御」するには
 ●ガードタイム方式 ●電源制御時の動作確認:なし に設定する必要があります。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

(2) 詳細設定

[ネットワーク設定]-[詳細設定]をクリックします。ネットワーク詳細設定画面が表示されます。

ネットワークテスト

各種送信テストページ
送信テスト

基本 SNMP 設定

SET GET 設定	☐ 有効 ☒ 無効
GET Community Name	public
SET Community Name	public
TRAP Community Name	public
Manager Trap	☐ 有効 ☒ 無効
Authentication Trap	☐ 有効 ☒ 無効
Trap IP アドレス1	
Trap IP アドレス2	
Trap IP アドレス3	

SNMP フィルター設定

SNMP フィルター機能	☐ 有効 ☒ 無効
フィルター IP アドレス	フィルターマスク
1	
2	
3	

状態通知機能

状態通知機能		無効
1	アドレス	
	ポート	5000
2	アドレス	
	ポート	5000
8	アドレス	
	ポート	5000
送信間隔(秒)		300

アウトレット連動一斉制御送信

	制御	動作
1	指定無し	無動作
2	指定無し	無動作
3	指定無し	無動作
4	指定無し	無動作

〈1〉 ネットワークテスト

[送信テスト]をクリックすると次の画面が表示されます。

〈2〉 機能テスト

ブザー音の確認ができます。

〈3〉 Wake on LAN送信テスト

設定されているMACアドレスにマジックパケットを送信できます。

〈4〉 テストメール

通知先設定で設定したメールアドレスにテストメールを送信します。

何らかの不具合が出た場合「エラーメッセージ」が表示されます。

[クリア]をクリックしますと、エラーメッセージがクリアされます。

〈5〉 Ping送信テスト

対象IPアドレスにICMPエコー要求パケットを送信し、その結果を表示します。

対象IPアドレスの欄に確認を行いたいIPアドレスを入力し、[送信]をクリックします。

Ping送信中は以下の表示となります。

送信状態	PING 送信中
------	----------

測定結果は以下のように表示されます。

結果	Reply from 192.168.1.232 --- time=1ms
----	---------------------------------------

正常 :Reply from xxx.xxx.xxx.xxx --- time=yyy ms

xxx.xxx.xxx.xxx :測定先アドレス
 yyy :応答時間(ミリ秒)
 異常 :Request timed out.
 応答が異常
 異常 :Domain name not found.
 ドメイン名が存在しない

〈6〉 基本SNMP設定

SNMPに関する設定をします。

SET GET 設定 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 GET Community Name : public
 (全角20字 半角20字以内)
 SET Community Name : public
 (全角20字 半角20字以内)
 TRAP Community Name : public
 (全角20字 半角20字以内)
 Manager Trap : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 Authentication Trap : 有効 無効 (デフォルト 無効)

★[有効]にすると、SET/GETリクエストにおいて、上記で設定された以外のコミュニティ名でリクエストがあったときに「authenticationFailure」という認証エラーTRAPを送ることができます。

Trap IP アドレス : 0.0.0.0
 (最大8 IPアドレス)

※特に記載の無い数値等はデフォルト値となります。

注意 「SET GET設定」を変更するには、[適用]クリック後、「CPUリセット」を行う必要があります。

〈7〉 SNMPフィルター設定

SNMPフィルター機能 : 有効 無効 (デフォルト 無効)
 フィルターIPアドレス : 0.0.0.0
 フィルターマスク : 255.255.255.255
 (最大10アドレス)

〈8〉 状態通知機能

状態通知方法 : 無効 (デフォルト)
 SYSLOG
 MPMP
 RPC EYE
 アドレス1-8 : IPアドレス、ドメイン名どちらでも入力することができます。

ポート1-8 : 5000
送信間隔(秒) : 300

※特に記載の無い数値についてはデフォルト値となります。

状態通知機能については, 第12章 ネットワーク稼働監視 をご参照ください

●MPMP(Meikyo Products Management Protocol)とは, 従来の明京電機状態通知プロトコルを拡張したものです。規模の大きい状態監視システムを構築する時や接点情報を活用した監視システムをするときに役立ちます。また, 各種制御にも応用が可能です。対応ソフトウェアについては営業にご相談ください。

〈9〉 アウトレット連動一斉制御送信

制御	: 指定無し 1~8グループ (デフォルト 指定無し)
動作	: 無動作 連携なし(デフォルト)
	電源ON 電源ON時にON一斉制御送信
	電源OFF 電源ON時にOFF一斉制御送信
	リブート 電源ON時にリブート一斉制御送信
	同期 { 電源ON時にON一斉制御送信, 電源OFF時にOFF一斉制御送信, 電源リブート時にはリブート一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信

アウトレット連動一斉制御送信とは, 設定アウトレットの電源操作に連動して設定されている機器グループに対して一斉制御命令を送信する機能です。

〈10〉 一斉電源制御受付 (子機機能) 設定

一斉電源制御につきましては, 第7章 一斉電源制御 をご参照ください。

本メニューは電源制御方式が「ガードタイム」に設定されている時のみ, 表示されます。

子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

注意 設定内容によっては, [適用]クリック後, 「CPUリセット」を行う必要があります。

(3) SSH設定

SSHサーバー機能の設定, SSHサーバーまたはクライアントでのKeyの削除を行います。

[ネットワーク設定]-[詳細設定]-[SSH設定]をクリックします。SSH設定画面が表示されます。

ネットワーク設定 / 詳細設定 / SSH 設定

基本設定 詳細設定 メール設定 サーバー連携

SSH設定

SSH KEY【SSHサーバー時】

sshPublicDsaKey Key削除

sshPublicRsaKey Key削除

SSH KEY【SSHクライアント時】

sshKnownHost1 Key削除

sshKnownHost2 Key削除

sshKnownHost3 Key削除

sshKnownHost4 Key削除

SSHサーバー設定

SSHサーバー ☐ 有効 ☒ 無効

SSHサーバー ポート 22

タイムアウト(分) 10

	SSH ユーザーID	SSH パスワード
Admin	admin	
Supervisor	super	

〈1〉 SSH KEY【SSHサーバー時】

sshPublicDsaKey : SSH.DSA公開鍵を表示します。
 sshPublicRsaKey : SSH.RSA公開鍵を表示します。

〈2〉 SSH KEY【SSHクライアント時】

sshKnownHost1-4 : シャットダウンスクリプト実行時, SSHクライアン

トとして接続したときにサーバーから受け取ったキーを表示します。

注意 SSHサーバーに対してシャットダウンスクリプトを実行しても失敗する場合、[Key削除]にてknown_hostsのエントリを消すことで改善されることがあります。

〈3〉 SSHサーバー設定

SSHサーバー : サーバー機能の有効/無効
(デフォルト:無効)

SSHサーバー ポート : SSHサーバーのポート番号
(デフォルト:22)

タイムアウト(分) : SSHサーバーの無通信時間
(デフォルト:10分)

SSHユーザーID : SSHサーバーログイン用のユーザー名
(Admin権限=デフォルト:admin)
(SV権限=デフォルト:super)

SSHパスワード : SSHサーバーのパスワードを設定
(Admin権限=デフォルト:magic)
(SV権限=デフォルト:illusion)

●「SSHユーザーID」「SSHパスワード」とともに、Admin権限、Supervisor権限それぞれ別のID、PASSを設定してください。(両方に同じ文字列を設定しないでください)

設定が終了しましたら[適用]をクリックします。

SSHサーバー機能を使うためにはDSAキーとRSAキーを作成する必要があります。Telnetまたはシリアル通信でログインした後、次のコマンドを実行します。

KEYGEN _ DSA

KEYGEN _ RSA (_ はスペース)

作成中[.]が表示されます。作成には数分間必要です。CPUリセット後有効になります。

注意 SSHは、OpenSSH 5.1p1を使用しています。
SSHプロトコルのバージョンは、クライアント、サーバーともに「バージョン2」ですが、公開鍵認証には対応しておりません。

(4) メール設定

メール機能に関する設定をします。

[ネットワーク設定]-[メール設定]をクリックします。

〈1〉 メールサーバー設定

ユーザー名, パスワード, メールアドレス, 受信サーバー名, 受信ポート, 送信サーバー名, 送信ポートは, プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

メールサーバー設定	
ユーザー名	
パスワード	
メールアドレス	
受信サーバー	
受信ポート	110
送信サーバー	
送信ポート	25
メール確認間隔(分)	3
再接続時間(秒)	10
形式	☐ IMAP ☒ POP3
SMTP Auth	☐ 有効 ☒ 無効 ☒ CRAM-MD5 ☒ LOGIN ☒ PLAIN
IMAP Auth	☒ CRAM-MD5 ☒ LOGIN

注意 **本製品はSSL/TLS通信に対応しておりません。**そのため, この「メールサーバー設定」(**リブーター側に設定する**メールアドレス)にGmailなどのSSL/TLSを用いたメールを設定することはできません。

ただし, 「**通知先アドレス**」には, **SSL/TLSを用いたメールを設定することができます。**

メール確認間隔(分) : サーバーのメールチェック間隔を指定します。
デフォルト 3

再接続時間(秒) : メールリトライ間隔を設定します。
デフォルト 10

→(変数mailRetryCountで設定した回数送信します。デフォルト:3回)

メールサーバー形式 : IMAP POP3 (デフォルト POP3)

SMTP Auth : 有効 無効 (デフォルト 無効)
認証方式を選択します。

IMAP Auth : CRAM-MD5 LOGIN PLAIN
 CRAM-MD5 LOGIN

〈2〉 メール制御設定

メール制御設定	
メール制御コマンド [?]	☐ 有効 ☒ 無効
★「ガードタイム方式」時のみメールでの電源制御可能です。 [システム設定] - [セキュリティ] から設定してください。 ★「通知先アドレス」に登録されているアドレスからのみメール制御可能です。	
メール制御ユーザー名	
メール制御パスワード	
送信メール 件名	機器名称
送信メール 本文1行目	日時又は積算時間
送信メール 本文2行目	設置場所
送信メール 本文3行目	IPアドレス
送信メール 本文4行目	MACアドレス
送信メール 本文5行目	ユーザー任意1
送信メール 本文6行目	イベント内容
送信メール 本文7行目	表示無し
送信メール 本文8行目	表示無し
ユーザー任意1	\r\n
ユーザー任意2	
ユーザー任意3	
接点入力ON時	SHORTEN
接点入力OFF時	OPENED
接点出力OFF時	OPENED

メール制御コマンド : 有効 無効 (デフォルト 無効)

★「メールサーバー監視」(第4章2.[4](2))を行うには「有効」を選択してください。

★メール制御は、次の〈3〉通知先アドレス に設定したメールアドレスからのみ有効です。

★メール制御で「電源制御」を行う場合、「ガードタイム方式」を選択する必要があります。

メール制御ユーザー名 : 半角英数記号63文字以内

メール制御パスワード : 半角英数記号63文字以内

送信メール 件名 [表示無し][機器名称][設置場所][IPアドレス][MACアドレス][イベント内容][ユーザー任意1~3](*)より選択します。

送信メール 本文1行目 日時又は積算時間

送信メール 本文2行目
 送信メール 本文3行目
 送信メール 本文4行目
 送信メール 本文5行目
 送信メール 本文6行目
 送信メール 本文7行目
 送信メール 本文8行目
 ユーザー任意1~3

上記(*)の9点から選択

任意のメール通知文を設定
 (全角21文字, 半角43文字以内)

接点入力ON時
 接点入力OFF時
 接点出力OFF時

接点に関するメール通知の際の表示を設定することができます。

(全角7字, 半角英数14字以内)

<接点出力ON時は状態によって通知する表示が変化します。表示の変更ができない仕様です。>

〈3〉 通知先設定

通知先設定		
No.	種類	通知先アドレス
アドレス1	TO ▼	
アドレス2	TO ▼	
アドレス3	TO ▼	
アドレス4	TO ▼	
アドレス5	TO ▼	
アドレス6	TO ▼	
アドレス7	TO ▼	
アドレス8	TO ▼	

通知先となるメールアドレスを設定します。最大8件設定できます。

種類 : TO CC BCC (デフォルト TO)

通知先アドレス : 通知するメールアドレスを設定します。

★メール制御は, ここに登録されているメールアドレスからしか実行できません。

●「通知先アドレス」には, SSL/TLSを用いたメールを設定することができます

〈4〉 送信条件フラグ

送信条件フラグ								
No.	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8
アドレス1	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス2	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス3	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス4	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス5	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス6	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス7	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
アドレス8	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
ログ送信回数	0							
F1 Ping,Mail F2 温度 F3 スケジュール F4 UPS F5 接点入力 F6 M-SW F7 ハートビート F8 ログ								
接点入力状態変化通知		ALL ▼						

8種類([Ping, Mail][温度][スケジュール][UPS][接点入力][M-SW(手動スイッチ)][ハートビート][ログ])から選択できます。チェックしたフラグに連動してメールが送信されます。例えば、「Ping」では死活監視が「異常」または「回復」に変化した時にメールを送信します。

- ログ送信回数 : 設定した数だけログが更新されると通知先アドレスにログを送信します。
(MAX:20)(デフォルト 0の時は送信しません。)
- 接点入力状態変化通知 : F5[接点入力]にチェックを入れているメールアドレスへの通知を設定できます。(デフォルト:ALL)
 無効 ON/OFF両方とも通知しない
 OFFのみ OFFになったことだけ通知する
 ONのみ ONになったことだけ通知する
 ALL ON/OFF両方とも通知する

〈5〉 メールサーバーエラーメッセージ

メールサーバーエラーメッセージ	
エラーメッセージ	
	クリア ☐

メールに失敗したエラー情報を表示します。

クリアにチェックして[適用]をクリックすると、エラー情報を消去できます。

※メールサーバーのチェックは[ネットワーク設定]-[詳細設定]-[ネットワークテスト]の[送信テスト]から行います。

注意 [適用]ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。設定によっては、「CPUリセット」を行う必要があります。ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

リブーターの仕様上、「ユーザー名」「パスワード」が空欄の場合、リブーターからのメール送信は実行されません。そのため、メール制御は実行しないがメール通知は実行したい場合は、「ユーザー名」「パスワード」にダミーデータを設定する必要があります。

リブーター側に設定したメールアドレスのメールサーバー内のメールは、メールチェック間隔でメールサーバー内のメールをチェックした後、削除されます。ですので、リブーターに設定するメールアドレスは専用のものを1つご用意ください。

メールでの「電源制御」を行う場合、「ガードタイム方式」でなければ実行できません。

(5) サーバー連携

こちらのメニューは 電源管理クラウド365 をご契約された方向けのメニューとなります。
[ネットワーク設定]-[サーバー連携]をクリックします。

〈1〉 排他制御/ガードタイム方式切替

こちらの項目は本章の2. [2](7)〈1〉共通設定 と共通の内容となります。

電源制御方式 : [排他制御方式]と[ガードタイム方式]を選択します。
(デフォルト [排他制御方式])

★[排他制御方式] : 電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者のみに限定します。
WEB画面、(有効ならば)Telnetいずれかで、一者が電源制御を行いログインし続けている状態の時には、(他の通信手段であっても)他者のログインを許可しません。

- ★[ガードタイム方式]：電源制御できる権限(Admin, Control権限)で同時にログインできるのを一者に限定せず, 多重ログインを許可します。(同一通信方式にて最大2接続まで。)

サーバー連携機能を有効にするには[ガードタイム方式]を選択する必要があります。(「メール制御」「ダイレクトWEBコマンド」, MPMPIによる電源制御も[ガードタイム方式]の時のみ実行できます)

一者が電源制御を行った場合, 他者もログインしてWEB画面を見たりTelnetなどで通信は行えたりしますが, 別の電源制御コマンドをガードタイム経過せずに送信しても無効となります。ガードタイム経過後であれば, 他者からの電源制御コマンドも実行できます。

ガードタイムには2種類あり, 「電源ON/REBOOTコマンド後」と「電源OFFコマンド後」のガードタイムを個別に設定できます。

- 方式の切替時, [変更]ボタンを押下すると次の警告文が表示されます。
警告の内容に同意の上, [OK]を押し, ふさわしいガードタイムを設定してください。

192.168.1.110 の内容

以下の文面をお読みに, 同意される場合にのみ電源制御方式を変更できます。**【RSC-MT4HS】**
 排他制御方式では多重ログインは不許可, ガードタイム方式では許可となります。ガードタイム方式の場合, 他の操作者により, ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため, リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。

【同意しますか?】

OK
キャンセル

[ガードタイム方式]に切り替えると, ガードタイムを設定できるようになります。

排他制御/ガードタイム方式切替

電源制御方式	ガードタイム方式 ▼	変更
ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)		10
OFF後, ガードタイム(秒)		10

ON/REBOOT後, ガードタイム(秒)：10 (デフォルト)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「PONn」「MPON」「PORn」「MPOR」, 現状OFFになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

OFF後, ガードタイム(秒)：10 (デフォルト)
(WEB画面での入力可能値:1~9999)

- 「POFn」「MPOF」, 現状ONになっているアウトレットへの「PSRn」コマンド実行後に適用されます。

〈2〉 NTP設定

こちらの項目は本章の2. [2](4)〈3〉NTP設定 と共通の内容となります。

NTPサーバーアドレス：NTPサーバーアドレスを入力します。
 NTPサーバー同期間隔：NTPサーバーと何分おきに同期するかを設定します。
 ([入力数]×10分, となります)

〈3〉 電源管理クラウド365連携

サーバー連携 : 有効 無効 (デフォルト 無効)

★実際に電源管理クラウド365を使用される時には、電源管理クラウド365の取扱説明書の手順に沿って設定してください。

[4] 監視設定

本装置の監視に関する設定をします。

(1) Ping監視

[監視設定]をクリックします。

Ping 監視設定					
	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	1	☐	10	10	1 ▼
	2	☐			
	3	☐			
	4	☐	無動作 ▼	1	1
2	1	☐	10	10	1 ▼
	2	☐			
	3	☐			
	4	☐	無動作 ▼	1	1
3	1	☐	10	10	1 ▼
	2	☐			
	3	☐			
	4	☐	無動作 ▼	1	1
4	1	☐	10	10	1 ▼
	2	☐			
	3	☐			
	4	☐	無動作 ▼	1	1
Ping 送信間隔 (分)			1		
死活監視レポートによる警告 (回)			12		
回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限 (回)					
1	0	2	0	3	0
4	0				

〈1〉 Ping監視設定

No. : 一番左側の数字1~4はアウトレット番号を示します。
 アウトレット番号の右の数字1~4は, 監視先番号を示します。

監視先アドレス : 監視するIPアドレスまたはドメイン名を設定します。
 各アウトレットに最大4ヶ所設定できます。

例 IPアドレス : 192.168.0.1

例 ドメイン名 : www.meikyo.co.jp

DG : チェックでデフォルトゲートウェイを監視先に指定します。(デフォルト チェック無し)

送信 : 判断するための送信する回数を設定します。(デフォルト 10)
 設定可能値 : 1~100 (回)

無答 : 送信回数内で異常と判断する無応答回数を設定します(デフォルト 10)
 設定可能値 : 1~100 (回)

対象 : 異常な監視先アドレスが何箇所になったら動作を実行するか設定します。(デフォルト 1)
 プルダウンメニューで選択 : 1~4

動作 : 動作を選択します。(デフォルト 無動作)
 無動作 : Ping監視を行いません。
 Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
 Reboot : ログに記録し, 電源出力をOFF→ONします。
 Ping監視での動作「ON」「OFF」の設定はブラウザからは行えません。
 変数[debOlWdogAction]を直接変更する必要があります。

回数 : 再Reboot回数を設定します。(デフォルト 1)

間隔 : 再Reboot間隔(分)を設定します。(デフォルト 1)
 ※「再Reboot」について詳しくは次ページの【Ping監視の仕組みと動作】をご覧ください。

Ping送信間隔(分) : ICMPエコー要求パケットの送信間隔を設定します。(デフォルト 1)
 設定可能値 : 1(分)~60(分)

Ping監視リポートによる警告(回) : 全アウトレットの死活監視リポート回数が設定値を超えると,
 PILOT LEDを点滅させます。(デフォルト 12)

〈2〉 回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)

各アウトレット番号:デフォルト 0(無制限)

★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」で「1回目」とカウントされるのは, Ping監視で異常検知されて最初に行われるRebootとなります。

(「回数」(再Reboot回数)を複数回設定している場合は, この複数回のRebootで1回となります)

そのため, 「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」を「1」と設定すると, 異常検知時に最初に実行したReboot(再Reboot設定時は1セット)だけを実行し, その後は繰り返されないことになります。

詳細は, 次ページの【Ping監視の仕組みと動作】をご覧ください。

設定が完了しましたら, [適用]をクリックします。

監視設定が有効なアウトレットはアウトレット番号の背景色が「青色」に変わります。

また, Ping監視が正常な場合は監視番号の背景色が「青色」に変わり, 異常が発生している場合は「赤色」, 回復中は「黄色」に変わります。

注意 指定したアウトレットが電源OFF状態の時, Ping監視は行いません。(ICMPエコー要求パケットも送信しません)

応答のない状態が続いた場合は, 約1時間ごとに設定された動作を実行します。再度, 条件が成立しても動作は1時間に1度しか実行しません。
(詳しくは次項をご覧ください。)

温度監視やハートビート監視が有効設定されているアウトレットには, Ping監視は実行されません。

メールサーバー監視とは同時に実行できます。

【Ping監視の仕組みと動作】

監視先アドレスに対して[Ping送信間隔]で設定した間隔でICMPエコー要求パケットを1個送出し、応答を待ちます。

設定した[送信]回数内で設定した[無答]回数、無応答であるとその監視先を「異常」と判断します。

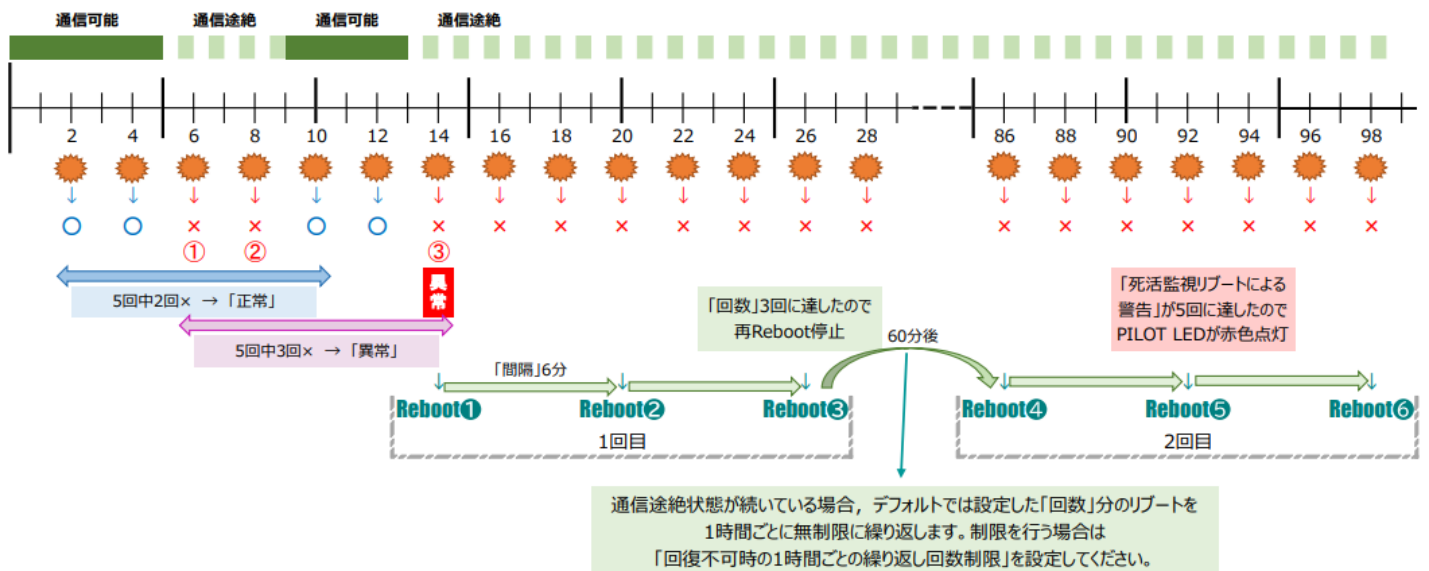
「異常」と判断された監視先が[対象]数に達すると、そのアウトレットを異常と判定し、設定した[動作]を実行します。

[動作]が[Reboot]の場合、「再Reboot間隔(分)」ごとに「再Reboot回数」だけリブートを繰り返します。

(例)「Ping送信間隔」を「2(分)」,
「死活監視レポートによる警告」を「5(回)」,
「送信」を「5(回)」,
「無答」を「3(回)」,
「動作」を「Reboot」,
「回数」を「3(回)」,
「間隔」を「6(分)」に設定した場合。

	監視先アドレス	DG	送信	無答	対象
1	192.168.1.xxx	☐	5	3	1
2		☐			
3		☐	動作	回数	間隔
4		☐	Reboot	3	6

PING 送信間隔 (分)	2
死活監視レポートによる警告 (回)	5



- ★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」が「1」のとき、Reboot①～③だけを行い、その後は繰り返しません。
- ★「回復不可時の1時間ごとの繰り返し回数制限(回)」が「2」のとき、Reboot①～③、④～⑥を行い、その後は繰り返しません。

(2) メールサーバー監視

[監視設定]-[メールサーバー]をクリックします。

メールサーバー監視設定	
メールサーバー	
1	接続エラー回数 0 動作 無動作 ▼
メールサーバー	
2	接続エラー回数 0 動作 無動作 ▼
メールサーバー	
3	接続エラー回数 0 動作 無動作 ▼
メールサーバー	
4	接続エラー回数 0 動作 無動作 ▼
メールサーバー状態表示	
エラー回数	0
メールサーバー確認間隔 (分)	3

〈1〉 メールサーバー監視設定

No. : アウトレット番号を示します。

接続エラー回数 : メール受信サーバーを異常と判断する回数を設定します。

動作 : 動作を選択します。(デフォルト 無動作)
 動作はPing監視と共通の設定になります。
 無動作 : 監視を行いません。
 Logのみ : ログに記録します。電源は制御しません。
 Reboot : ログに記録し、電源出力をOFF→ONします。

●[動作]の設定内容はPing監視と共通となります。

〈2〉 メールサーバー状態表示

エラー回数 : メールサーバー接続障害回数を表示します。

メールサーバー確認間隔(分) : メールサーバーのチェック間隔
 デフォルト 3

(「ネットワーク設定-メール設定」の「メール確認間隔(分)」の設定が反映されます)

設定が完了しましたら, [適用]をクリックします。

注意 メールサーバー監視を行う場合は「メールサーバー設定」で受信サーバーを正しく設定する必要があります。また「メール制御設定」でメール制御コマンドを有効にしておく必要があります。（「通知先設定」のメールアドレスは空白でも構いません。）

メールサーバー監視とPing監視の両方を設定すると、いずれかが異常になった時点で動作を実行します。

温度監視やハートビート監視を有効にしたアウトレットには、メールサーバー監視は実行されません。

(3) ハートビート監視

[監視設定]-[ハートビート]をクリックします。

UDPのハートビートパケット受信を利用した監視方法です。

ハートビート設定	
ハートビート	☒ 有効 ☐ 無効
監視IPアドレス制限 (空欄→全て受信)	
受信ポート	9100
送信ポート	9100
リポート後、無監視時間(秒)	30
ハートビート監視間隔(秒)	8
TimeOut判定数	3
動作最大回数	3
電源供給アウトレット	なし ▼

監視条件設定	
ハートビート監視設定	
1	動作 無動作 ▼
ハートビート監視設定	
2	動作 無動作 ▼
ハートビート監視設定	
3	動作 無動作 ▼
ハートビート監視設定	
4	動作 無動作 ▼

ハートビートパケット状態	
状態	待機中
送信IPアドレス	
タイムアウト回数 (0 - 32767 loop)	0

〈1〉 ハートビート設定

- ハートビート : 有効 無効 (デフォルト 無効)
- 監視IPアドレス制限 : ハートビートパケットが送られてくるIPアドレスを制限します。
空欄の場合はすべてのパケットを受け付けます。
- 受信ポート : リブーター側パケット待ち受けポート(デフォルト:9100)
- 送信ポート : PC側(HB側)の送信ポート(デフォルト:9100)

リブート後, 無監視時間(秒) : TimeOut判定によって「リブート」動作実行になった時点から
ハートビートパケットを待ち受ける間隔(秒)
デフォルト:30 設定可能値:1~999(秒)

ハートビート監視間隔(秒) : ハートビートパケットを受ける間隔
デフォルト:8 設定可能値:1~99(秒)

TimeOut判定数 : 「TimeOut」と判定する「未受信カウント(※)」数。
デフォルト : 3 設定可能値1~99(回)

(※)未受信カウント: 「ハートビート監視間隔」で設定した秒数内にハートビートパケットが受信できなかった時, 「未受信カウント」が1つ上がります。ハートビートパケットを受信すると, 「未受信カウント」は「0」に戻ります。

動作最大回数 : 動作が[リブート]の場合の実行回数限度
デフォルト:3 設定可能値:1~99(回)

電源供給アウトレット : ハートビートパケットを送出してくるPCなどが接続されているアウトレットを指定できます。スケジュールでの電源OFFなどとハートビート監視を併用する時に関係します。(デフォルト なし)
[なし] [Outlet1~4]

★意図的な電源OFF時のハートビート監視一時停止★

PCなどハートビートパケット送出元の電源が接続されているアウトレットに, 使用者が意図して「電源OFF」コマンドを投げ(またはスケジュール機能で「電源OFF」し), そのまま「電源OFF」を維持してほしい場合, 「ハートビートパケットが送られてこなくても, それは正常である」と認識させる必要があります。

【もし設定しないと】意図的な「電源OFF」を行った後, そのアウトレットに接続されたPCからハートビートパケットが送られてこないためTimeOut判定になり, そのアウトレットがリブートされ, 意図的にOFFを行ったPCの電源がONになります。

【設定方法】

ハートビート送出元のPCなどの電源がとられているアウトレットに関して,

- 1)「電源供給アウトレット」で, そのアウトレット番号を指定する。
- 2)そのアウトレットのハートビート監視「動作」を[ON][Reboot]に設定する

この状態で, 該当アウトレットが(ハートビート監視での動作以外で)「電源OFF」となった後は, 監視状態は「監視一時停止(Pause)」となり, ハートビート監視を一時停止します。(「未受信カウント」もそこで停止になります)

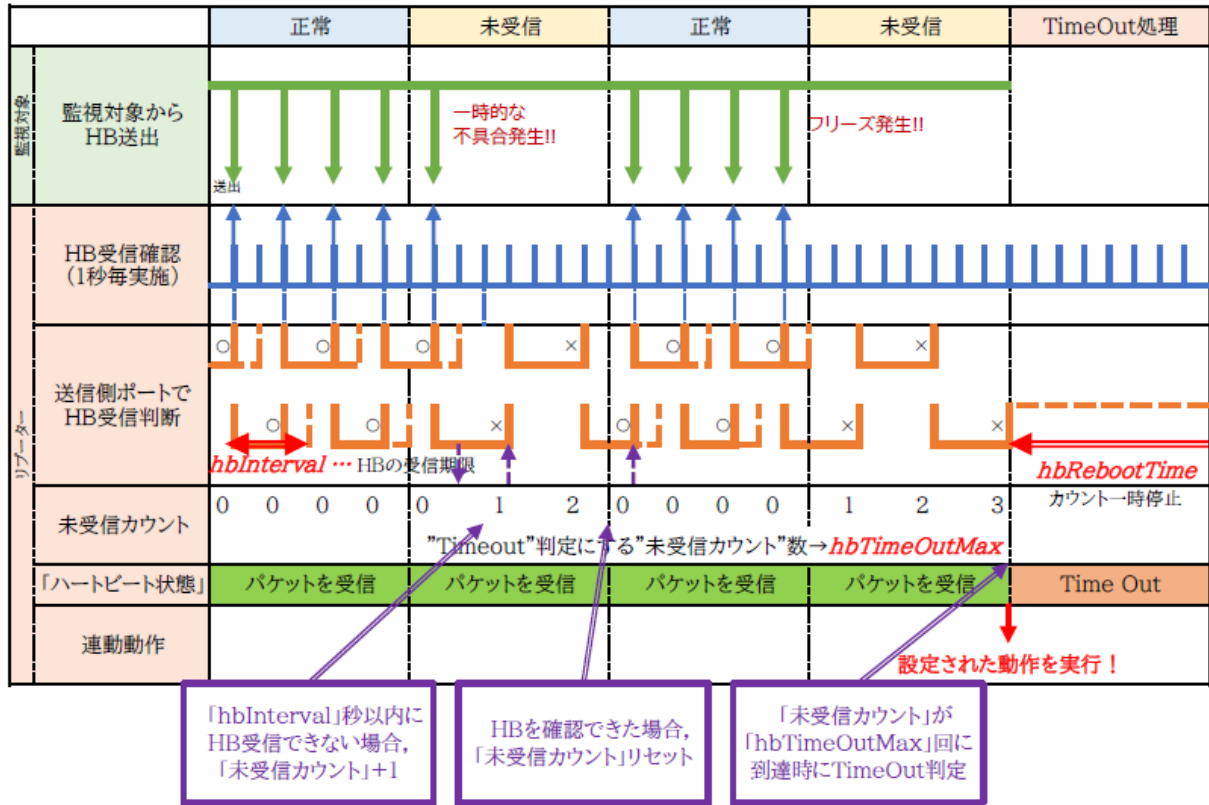
そして, そのアウトレットが「電源ON」になった時にハートビート監視を再開します。

注意 「監視一時停止(Pause)」状態時にCPUリセットを行うと(「電源供給アウトレット」に指定されたアウトレットが電源OFFのままでも)ハートビート監視が再開されます。

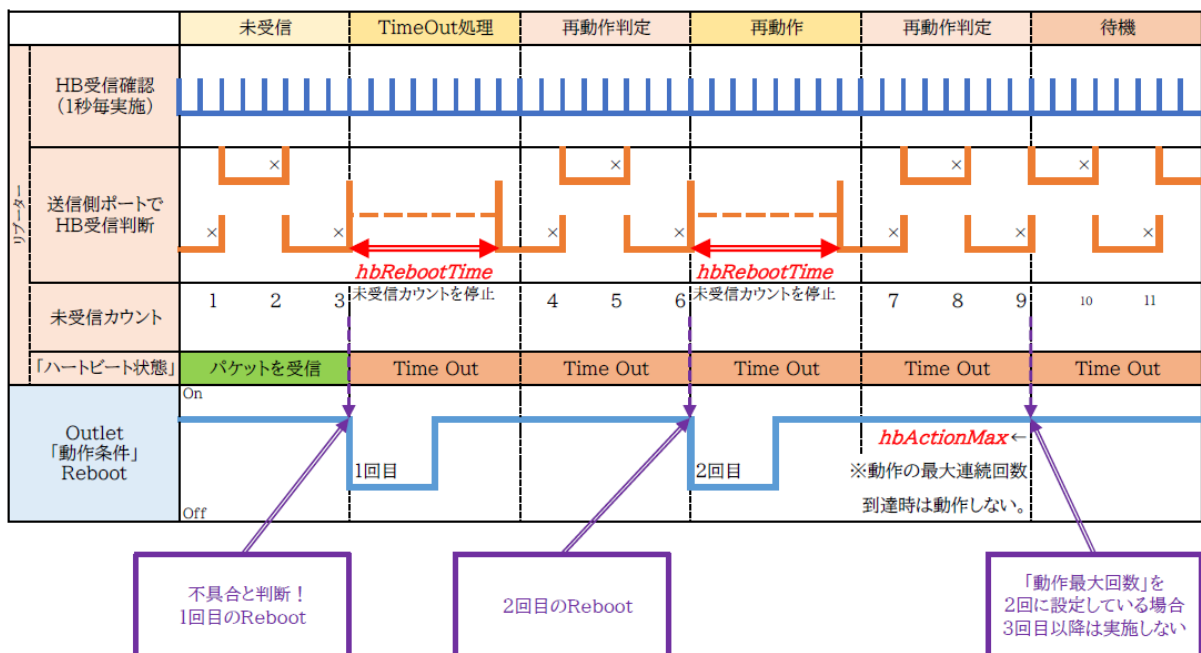
★「ハートビート監視間隔」「TimeOut判定数」「リブート判定後, 無監視時間」の設定がどのように関連しているかは下の図をご覧ください。

図中では変数名で表記されています。

変数 hbInterval 「ハートビート監視間隔」
 hbRebootTime 「リブート後, 無監視時間」
 hbTimeoutMax 「TimeOut判定数」



●ハートビート packets が受信できない状態が続くようになった時



〈2〉 監視条件設定

アウトレットごとの動作を選択します。

	パケットを受信	TimeOut発生中
無動作	無変化	無変化
On	無変化	Onに変化
On追従	On→Offへ	Off→Onへ
Off	無変化	Offに変化
Off追従	Off→Onへ	On→Offへ
Reboot	無変化	Reboot
Logのみ	無変化[ログを残す]	無変化[ログを残す]

●次ページのハートビートパケット受信状況との関連図をご覧ください。

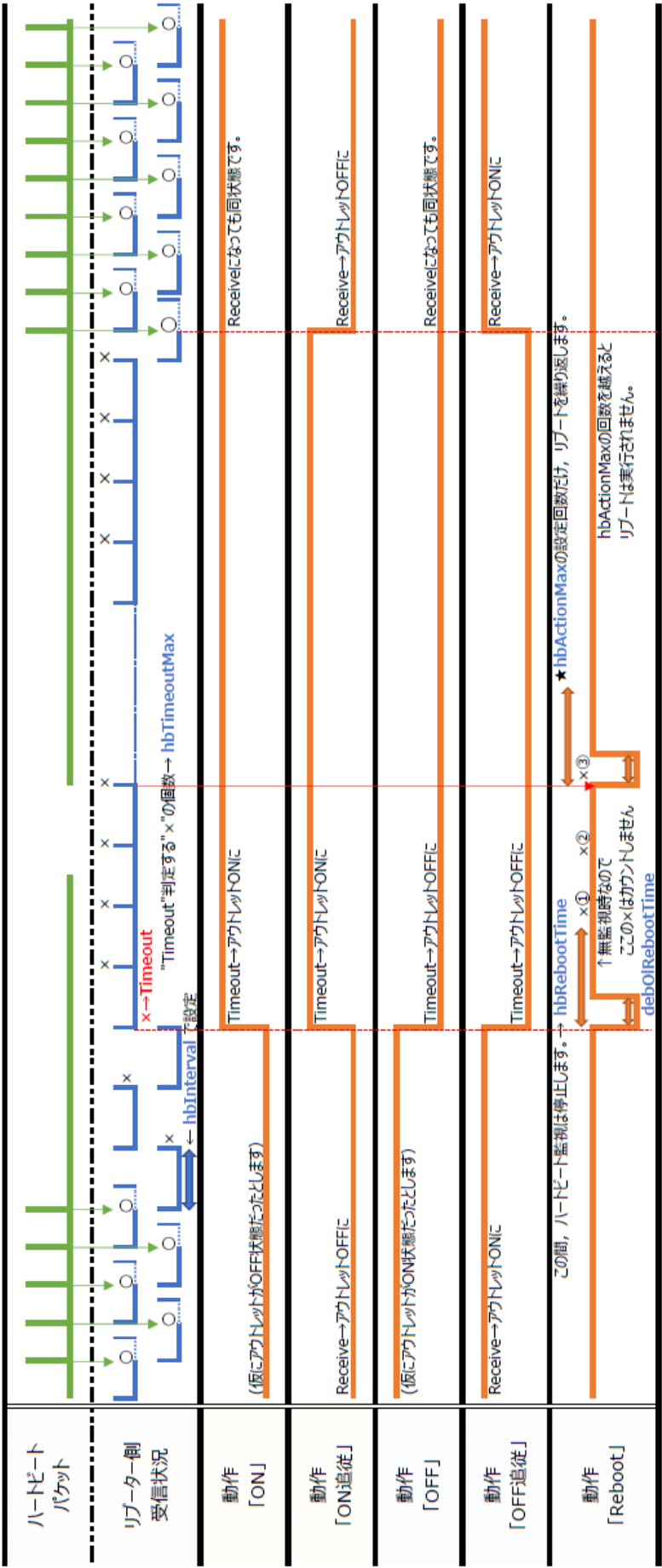
〈3〉 ハートビートパケット状態

状態 : 待機中／パケットを受信／タイムアウト発生中／動作停止中
 送信IPアドレス : ハートビートが送られてきたIPアドレスを表示します。
 タイムアウト回数 : 未受信カウントを表示します。

【ハートビートに必要なパケット形式】

UDPパケットのデータ“xxxxxxHB”+CRLFの9文字を受け, “xxxxxxACK”の8文字を返します。
 (xxxxxxは任意)

注意 ハートビート監視を実行するアウトレットは, Ping監視・メールサーバー監視を実行することは出来ません。
 温度監視を実行するアウトレットには, ハートビート監視を実行することはできません。
 ハートビートを利用するには「ハートビート」を[有効]にチェックし[適用]をクリックします。その後, 「CPUリセット」を行う必要があります。



(4) 温度監視

注意 TEMPには弊社温度センサー(RP-TS004)以外差し込まないでください。
また, 温度センサーを差し込んでいない時は「温度センサー」を「無効」にしておいてください。

「温度監視」を行うには別売の温度センサー(RP-TS004)が必要です。
また, [システム設定]-「基本設定」-[温度センサー設定]で「温度センサー」の項目を「有効」にしてください。

[監視設定]-[温度監視]をクリックします。温度監視設定画面が表示されます。

監視条件設定	
設定状態	
1	動作 無動作 ▼
設定状態	
2	動作 無動作 ▼
設定状態	
3	動作 無動作 ▼
設定状態	
4	動作 無動作 ▼
温度状態 (℃)	
状態	正常
現在温度	19.0
最大温度	2022/12/20 15:53 19.2
最小温度	2022/12/20 16:01 18.8
指定温度設定	
上限警報	45
上限注意	35
上限Hys	2
下限警報	-5
下限注意	0
下限Hys	2

〈1〉 監視条件設定

動作 : 警報の時の動作を設定します。(デフォルト 無動作)
 [無動作] [上限警報ON] [下限警報ON]
 [上限警報OFF] [下限警報OFF]

〈2〉 温度状態(°C)

① 温度に関する設定をします。

状態 : 現在の温度が, 〈3〉で設定した温度範囲のうち, どの状態にあるか表示します。

正常 / 上限注意 / 上限警報 / 下限注意 / 下限警報

現在温度 : 現在の温度を表示します。

最大温度 : 温度計測開始後, 最高温度を表示します。日時は始めに最高温度が計測された日時となります。※

最小温度 : 温度計測開始後, 最低温度を表示します。日時は始めに最低温度が計測された日時となります。※

※ 時刻設定がされていない場合は通電時間が表示されます。

〈3〉 指定温度設定

上限警報 : 高温の警報温度を設定します。
デフォルト: 45°C

上限注意 : 高温の注意温度を設定します。
デフォルト: 35°C

上限Hys : 高温のヒステリシス温度を設定します。
デフォルト: 2°C

下限警報 : 低温の警報温度を設定します。
デフォルト: -5°C

下限注意 : 低温の注意温度を設定します。
デフォルト: 0°C

下限Hys : 低温のヒステリシス温度を設定します。
デフォルト: 2°C

【範囲表示について】

「正常」範囲 : 下限注意から上限注意までの温度

「注意」範囲 : 上限注意から上限警報までの温度
 下限警報から下限注意までの温度

「警報」範囲 : 上限警報以上の温度
 下限警報以下の温度

注意 温度監視を有効にしたアウトレットでは, Ping監視, メールサーバー監視, ハートビート監視は実行できません。

温度監視の仕組みと動作

状態は, 指定した温度により, 「正常」から「注意」, 「注意」から「警報」に変化します。

しかし, 「警報」から「注意」, 「注意」から「正常」への状態変化には, 指定した温度にヒステリシス温度を加えた変化が必要です。これにより閾値近辺で状態が頻繁に変化することを防ぎます。

メールは, 温度にチェックがあると, 「正常」「注意」「警報」の状態に変化があると送信されます。

電源制御は, 「警報」になった場合に実施されます。

[5] スケジュール設定

注意 本装置は時計を内蔵していますが、開梱時には時刻ずれが生じていることが予想されます。NTP設定(第4章2.[2](4)<3>))を行ってからご使用ください。

スケジュールは、一日のパターンを分単位で作成し、そのパターンを指定の曜日、月日に割り当てることにより作成します。パターンは最大20個まで作成でき、週中と週末のパターンの設定や、特定日・休日用パターンの作成ができます。

はじめてスケジュール設定を行う場合、以下の手順で設定を行ってください。

- ①パターン作成 一日のパターンを分単位で作成します。最大20個設定できます。
- ②休日テーブル編集 休日の追加等の修正を行います。休日はアウトレット共通となります。
デフォルトでは、FWリリース時点の祝日が休日として設定されています。
- ③スケジュール配置 アウトレットごとに、作成したパターンを設定します。
曜日指定の他に、特定の日や、休日用のパターンを配置することができます。
- ④スケジュール動作 アウトレットごとに、スケジュールの実行、停止を行います。
スケジュール動作で実行することではじめて対象のアウトレットにスケジュールが実行されます。

(1) スケジュール動作

(2)(3)で作成・配置したスケジュールの[実行][停止]を設定します。

スケジュール動作			
1	停止	実行	停止
2	停止	実行	停止
3	停止	実行	停止
4	停止	実行	停止

(2) スケジュール配置

スケジュール配置では、アウトレットごとにパターンをカレンダーに割り当てて作成します。スケジュールを設定するアウトレットの[設定]をクリックします。

スケジュール配置			
1	Outlet1	登録数 0	設定
2	Outlet2	登録数 0	設定
3	Outlet3	登録数 0	設定
4	Outlet4	登録数 0	設定

〈1〉 スケジュールリスト(*)

*にはシステム設定で設定したアウトレット名称が入ります。

次項の〈2〉スケジュール編集で設定されたパターンが、カレンダー形式で表示されます。

表示されている日付をクリックすると、下段に日付、パターン、編集ボタンと、1日のパターンの概略図が表示されます。編集ボタンクリックで、パターン編集画面に移動できます。

〈2〉 スケジュール編集

登録済みスケジュールリストに、曜日指定以外の設定スケジュールが一覧で表示されます。曜日指定のみの場合は空欄となります。

- 曜日指定 : 曜日ごとにパターンを設定します。
- 毎月 : 日付指定でパターンを設定します。毎月繰り返します。
- 毎第 : 月の第何週の曜日のみパターンを設定します。毎月繰り返します。
- 毎年 : 月日指定でパターンを設定します。毎年繰り返します。

- 休日指定 : 休日に設定されている日にパターンを設定します。
- 一度指定 : 指定日のパターンを設定します。一度のみ実行し, 繰り返しません。
- 読込 : プルダウンメニューからアウトレットを指定して, 他のアウトレットに指定されたメニューを読み込むことができます。
- 削除 : 登録済みスケジュールリストに表示されている, 登録済みのスケジュールを削除できます。スケジュール左側に表示されている番号をプルダウンメニューで指定して削除してください。

設定を行いましたら, [適用保存]をクリックして変更内容の更新をしてください。

注意 スケジュールの優先度は, 一度指定 > 休日指定 > 毎年 > 毎第n週x曜日 > 毎月 > 毎x曜日 となっています。

スケジュール設定が設定されるとカレンダーの日付数字の隣にスケジュールパターンの英字が付きます。

またカレンダーの日付をクリックして指定するとその日のスケジュールパターンが表示されます。

週間スケジュール以外の特定日設定は20個までとなります。

(3) スケジュール作成

スケジュール作成	
1日のスケジュールを分単位で作成	パターン作成
休日カレンダーのテーブルを編集	休日テーブル編集
スケジュール関連のデータファイルを管理	データファイル管理

〈1〉 パターン作成

[パターン作成]をクリックすると, 1日のスケジュールを分単位で作成することができます。

1日パターン表示 (パターン A)	
00:00	
01:00	
02:00	
03:00	
04:00	
05:00	
06:00	
07:00	
08:00	
09:00	
10:00	ON
11:00	ON
12:00	ON
13:00	ON
14:00	ON
15:00	ON
16:00	ON
17:00	ON
18:00	ON
19:00	
20:00	
21:00	
22:00	
23:00	

読込 A ▼ 読込 パターン 全OFF 全ON

配置範囲

開始	0	時	0	分
終了	24	時	0	分

ON ▼ 配置

保存先 A ▼ 適用保存 戻る

- 読込 : 編集するパターンを, A~J, a~jから選択して[読込]をクリックします。
- パターン : [全OFF]クリックで, 全日OFFにします。
[全ON] クリックで, 全日ONにします。
- 配置範囲 : 開始時間と終了時間を指定して[ON][OFF]を選び, [配置]でパターン配置します。
- 保存先 : 作成したパターンの保存先を, A~J, a~jから選択し[適用保存]をクリックします。

〈2〉 休日テーブル編集

[休日テーブル編集]クリックで、カレンダーの休日を設定することができます。

休日カレンダー編集ではオリジナルの休日テーブルを作成します。初期値は一般のカレンダー通りです。
[前月][翌月]ボタンをクリック, または, 年月を入力し, [移動]をクリックして, 編集を行う年月に移動します。

- 休日指定 : 表示されている月の休日の追加, 削除できます。
指定する日付を入力し, 追加または削除を選択した上で[設置]をクリックします。
- 年間カレンダー : [初期化]をクリックすることで, 表示されている年の1月~12月のカレンダーの休日設定を初期値に戻します。

設定が終了しましたら, [適用保存]をクリックしてください。

注意 [適用保存]ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。
休日テーブルは, 「CPUリセット」ボタンをクリックしないと設定した内容が有効になりません。

〈3〉 データファイル管理

データファイル管理では, 設定されているスケジュールをテキスト形式で表示することができます。合わせて, テキスト形式で保存したファイルを読み込むことができます。

[スケジュール]-[スケジュール作成]-[データファイル管理]をクリックします。

〈4〉 データファイルの保存, 読込

データファイルの保存、読込		
全スケジュール	ファイルを選択 選択されていません 読込	表示
	schdata.txt TEXT形式で表示	
全パターン	ファイルを選択 選択されていません 読込	表示
	ptndata.txt TEXT形式で表示	
全カレンダー	ファイルを選択 選択されていません 読込	表示
	caldata.txt TEXT形式で表示	
ファイル保存は表示ボタンを押した後にブラウザの名前を付けて保存を行って保存してください。 ファイル名は固定です。変更しないでください		

全スケジュール : 全スケジュールファイルの表示, 読み込みができます。

ファイル名 schdata.txt

全パターン : 全パターンファイルの表示, 読み込みができます。

ファイル名 ptndata.txt

全カレンダー : 全カレンダーファイル(休日カレンダー情報含む)の表示, 読み込みができます。

ファイル名 caldata.txt

保存方法

[表示]をクリックすると、別のブラウザが開き設定内容が表示されます。

ブラウザの機能を利用して、「名前をつけて保存」します。(テキストファイル)

ファイル名は変更しないでください。

読込方法

[ファイルを選択]をクリックしてファイルを選びます。保存したファイルを選択します。

ファイル名が表示されたら[読込]をクリックします。

注意 ファイルの読み込みを行っただけではスケジュールは動作しません。「スケジュール動作」でアウトレットごとに「実行」する必要があります。P85の(1) スケジュール動作 をご参照ください。

(4) コマンドによるスケジュールデータファイル保存/読込

Telnet通信及びシリアル通信を介してコマンドによるスケジュールデータファイル保存, 読込が出来ます。

- アップロードの開始
 SCHUPLOAD _n (短縮形: SCHUL) (※_はスペースを表します。)
 n : パラメータ
 1 : スケジュールデータ
 2 : パターンデータ
 3 : カレンダーデータ
 リザルトコード
 230 : コマンド受理, データ転送待ち状態
 231 : 正常終了
- アップロードを中断
 SCHUPLOADCANCEL (短縮形: SCHULC)
 リザルトコード
 232 : 正常終了
- ダウンロードの開始
 SCHDOWNLOAD _n (短縮形: SCHDL) (※_はスペースを表します。)
 n : パラメータ
 1 : スケジュールデータ
 2 : パターンデータ
 3 : カレンダーデータ

注意 Telnet通信及びシリアル通信の接続は 第5章 その他の設定を参照してください。

なお, Telnet接続はデフォルトでは[無効]です。使用するためには[有効]にする必要があります。

[6] システム情報

本装置に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。

基本システム情報	
機器名称	Noname
バージョン	4.20A.230905/RSC.230510
モデル名称	RSC-MT4HS
アウトレット数	4
アウトレット1名称	Outlet1
アウトレット2名称	Outlet2
アウトレット3名称	Outlet3
アウトレット4名称	Outlet4
接点出力1名称	NV Output1
接点出力2名称	NV Output2
接点出力3名称	NV Output3
接点出力4名称	NV Output4
接点入力1名称	NV Input1
接点入力2名称	NV Input2
接点入力3名称	NV Input3
接点入力4名称	NV Input4
仮想アウトレット1名称	
仮想アウトレット2名称	
仮想アウトレット3名称	
仮想アウトレット4名称	
仮想アウトレット5名称	
仮想アウトレット6名称	
仮想アウトレット7名称	
仮想アウトレット8名称	
MACアドレス	00:00:00:00:00:00
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
機器内部時間	2023/09/13 10:57:33
NTPサーバーアドレス	ntp.nict.jp: {OK}
HTTP機能	有効
HTTPポート	80
Telnetサーバー機能	有効
Telnetポート	23
LAN速度	100.0Mbps
RS-232C 通信速度	38400bps
RS-232C キャラクター長	8 bits
RS-232C ストップビット	1 bit(s)
RS-232C パリティ	None
DIP-SW	1:OFF 2:OFF 3:OFF 4:固定

[7] 簡易説明

本装置の簡易説明が確認できます。

[簡易説明]をクリックします。



(1) Menu

各項目をクリックすると、以下のメニューが開きます。

〈1〉 E-mail又はWEBコマンド制御の説明

- ・メールを利用して電源制御
メール制御を行うための文章例を記載しています。
- ・WEBによるコマンドの送信方法
WEBコマンドの送信方法を記載しています。
また、権限の違いによる利用可能コマンドの違いを記載しています。

〈2〉 コマンドリスト一覧

- ・コンソール制御
Telnet等のコンソール接続時に利用可能な制御コマンドを記載しています。

(2) オープンソースソフトウェア ライセンス

クリックで、以下のライセンス条件を確認することができます。

- ・OpenSSH (5.1p1) のライセンス条件
- ・OpenSSL (0.9.8i) のライセンス条件

3. 状態表示項目

[1] 簡易情報表示

現在の本装置の電源情報, 接点入出力情報, 温度状態を表示します。

メインメニューの[簡易情報表示]をクリックします。

簡易状態表示

機器情報

機器名称	Meikyo-MT4HS
設置場所	MeikyoOffice

アウトレット状態

No.	名称	設定	状態	電源
1	Outlet1			OFF
2	Outlet2			OFF
3	Outlet3			OFF
4	Outlet4			OFF

温度 (°C)

25.4

温度センサー1
 2017/06/12 10:37:50

2017/06/12 10:35	25.5	MAX
2017/06/12 10:34	25.3	MIN

2017/06/12 10:34	25.45	
2017/06/12 10:34	25.40	
2017/06/12 10:34	25.40	
2017/06/12 10:34	25.40	

接点情報

接点出力連動設定		連動無し	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF
2	NV Output2		OFF
3	NV Output3		OFF
4	NV Output4		OFF

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF
2	NV Input2	OFF
3	NV Input3	OFF
4	NV Input4	OFF

注意 簡易情報表示は現在の本装置の状態を表示する画面で実際に制御することは出来ません。
温度センサーを「有効」に設定しないと温度状態は表示されません。

[2] 詳細状態表示

現在の本装置の監視状態を表示します。
メインメニューの[詳細状態表示]をクリックします。

機器情報				
機器名称	Noname			
設置場所	Nowhere			

アウトレット状態				
No.	名称	監視状態	実行回数	電源状態
1	Outlet1	異常	1	ON
2	Outlet2		0	OFF
3	Outlet3		0	OFF
4	Outlet4		0	OFF

監視設定内容				
No.	送信数	無応答	対象	動作
1	1	1	1	Reboot
2	10	10	1	No Action
3	10	10	1	No Action
4	10	10	1	No Action

監視状態								
No.	対象1		対象2		対象3		対象4	
	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答	状態	無応答
1	NG	1						
2								
3								
4								

PING 応答時間								
No.	対象1		対象2		対象3		対象4	
	応答時間	無応答	応答時間	無応答	応答時間	無応答	応答時間	無応答
1	9999 ms							
2								
3								
4								

温度監視設定 (℃)		
25.4 温度センサー1 2017/06/12 10:39:03	2017/06/12 10:35	25.5 MAX
	2017/06/12 10:34	25.3 MIN

	2017/06/12 10:34	25.45
	2017/06/12 10:34	25.40
	2017/06/12 10:34	25.40
	2017/06/12 10:34	25.40

接点情報			
接点出力連動設定		死活監視に連動	
No.	接点出力名称	連動	接点
1	NV Output1		OFF
2	NV Output2		OFF
3	NV Output3		OFF
4	NV Output4	死活監視	OFF
No.	接点入力名称		接点
1	NV Input1		OFF
2	NV Input2		OFF
3	NV Input3		OFF
4	NV Input4		OFF

ハートビート状態表示			
No.	動作	実行回数	パケット
1	無効	0	タイムアウト発生中 未受信力カント 181 (32767超えた場合0に戻ります)
2	無効	0	
3	無効	3	
4	無効	0	

メールサーバー監視状態	
エラー回数	0

UPS連動情報	
UPS名称	
給電状態	未設定
バッテリー状態	未設定
商用入力異常回数	0

〈1〉 機器情報

機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。
 設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉 アウトレット状態

No. : アウトレット番号を示します。
 名称 : 設定されたアウトレット名称を表示します。
 監視状態 : 「Ping監視」および「メールサーバー監視」の判定結果を表示します。
 正常 : 異常な監視先が対象数未満, かつメールサーバー正常。
 異常 : 異常な監視先が対象数以上, あるいはメールサーバー異常。
 回復中 : 動作後, 異常な監視先が対象数未満だが, 異常な監視先が残っている。メールサーバーは正常。
 実行回数 : Ping監視とメール受信サーバー監視の実行された動作の回数を表示します。
 電源 : 電源の状態を表示します。

〈3〉 監視設定内容

No. : アウトレット番号を示します。
 送信数 : Ping監視のICMPエコー要求送信回数設定値を表示します。
 無応答 : Ping監視の無応答回数設定値を表示します。
 対象 : Ping監視の対象数設定値を表示します。
 動作 : 「Ping監視」と「メールサーバー監視」の動作を表示します。
 ハートビートまたは温度監視を設定したアウトレットについては, 設定の内容にかかわらず「無動作」と表示されます。

〈4〉 監視状態

No. : アウトレット番号を示します。
 状態 : アウトレット毎に各監視先の応答状態を表示します。
 無応答 : ICMPエコー要求送信に対する無応答回数を表示します。

〈5〉 Ping応答時間

No. : アウトレット番号を示します。
 応答時間 : 監視先の応答時間を表示します。

〈6〉 温度監視設定(℃)

緑の枠内の温度 : 現在の温度を表示します。
 ログの枠内 : 20件のログを表示します。それより過去のものは消去されます。
 最初の2行に「最高温度」「最低温度」を表示します。
 No. : アウトレット番号を示します。
 動作設定 : 温度監視の動作設定を表示します。
 警報 : 設定されている警報温度を表示します。
 注意 : 設定されている注意温度を表示します。
 Hys : 設定されているヒステリシス温度を表示します。
 状態 : アウトレットごとに各監視先の状態を表示します。

〈7〉 接点情報

No.	: 接点出力番号を示します。
接点出力連動設定	: 接点出力連動の有無を表します。
接点出力名称	: 設定されている各接点出力の名称を表示します。
連動	: 連動している条件を表します。 「リバース」を選択している時は「R」が表示されます。
接点	: 現在の接点の状態を表します。 更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります。
No.	: 接点入力番号を示します。
接点入力名称	: 設定されている各接点入力の名称を表します。
接点	: 現在の接点の状態を表します。 更新ボタンをクリックすることで最新の表示になります。

〈8〉 ハートビート状態表示

No.	: アウトレット番号を示します。
動作	: 設定されている動作状態を表示します。
実行回数	: 動作の実行回数を表示します。
パケット状態	: パケット状態を表示します。

〈9〉 メール受信サーバー監視状態

エラー回数	: メールサーバーを異常と判断した回数と、エラー内容が表示されます。 メールサーバー回復後もエラーメッセージは表示されたままとなります。 表示を消去したい場合は、[ネットワーク設定]-[詳細設定]-[送信テスト]の エラーメッセージクリアを行ってください。
-------	---

〈10〉 UPS連動情報

UPS連動時(本体前面DIPスイッチ1 ON)のみ表示されます。	
UPS名称	: 現在設定されている名称を表示します。
給電状態	: 未設定／正常／バックアップ
バッテリー状態	: 未設定／正常／低電圧
商用入力異常回数	: 商用電源からの入力の異常回数を表示します。

[3] イベントログ

現在までのイベントログを表示します。

メインメニューの[イベントログ]をクリックします。

ログリスト				
315	2017/06/16 13:59:28	WEBアクセス	192.168.1.158	
316	2017/06/16 13:59:29	WEBログイン	192.168.1.158	admin
317	2017/06/16 14:15:56	WEBログアウト	192.168.1.158	
318	2017/06/16 14:25:03	WEBアクセス	192.168.1.158	
319	2017/06/16 14:25:09	WEBログイン	192.168.1.158	admin
320	2017/06/16 14:35:22	WEBログアウト	192.168.1.158	
321	2017/06/16 14:54:25	WEBアクセス	192.168.1.158	
322	2017/06/16 14:54:25	WEBアクセス	192.168.1.158	
351	2017/06/16 16:30:55	手動SW起動(UPT)	アノットレット2	
352	2017/06/16 16:30:58	設定変更	debOlShutdownEnabled	admin
353	2017/06/16 16:30:58	設定書込(WRITE)		admin
354	2017/06/16 16:31:01	設定変更	debOlShutdownEnabled	admin
355	2017/06/16 16:31:01	設定書込(WRITE)		admin

表示領域	機器時刻
315 - 414 (総数 414)	2017/06/19 09:28:48

前ページ	次ページ	先頭ページ	最終ページ
Text 表示	全ログクリア		

- 前ページ : 前ページを表示します。
- 次ページ : 次ページを表示します。
- 先頭ページ : 先頭ページを表示します。
- 最終ページ : 最終ページを表示します。
- Text表示 : Web画面上でテキスト表示します。
それをコピーしたり保存したりできます。
- 全ログクリア : ログを消去します。

注意 1ページは100項目単位で表示します。最大10ページ, 1000項目のログを表示可能です。

本製品の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。そのため、「コールドスタート」に続いて「全仮想アウトレットON」のログが記録されます。

4. 電源制御

本装置に接続されたデバイスの電源制御をします。

[1] 電源制御

(1) 電源制御

メインメニューの[電源制御]をクリックします。

自動更新間隔 (30秒)

電源制御
仮想制御
一斉制御

接点制御

機器情報

機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

アウトレット情報

No.	名称	制御	電源状態
1	Outlet1	ON OFF Reboot	ON
2	Outlet2	ON OFF Reboot	ON
3	Outlet3	ON OFF Reboot	ON
4	Outlet4	ON OFF Reboot	ON
	All Outlets	ON OFF Reboot	

注意 !
 SSHでのシャットダウンスクリプトを設定している場合、
 対象のOFFボタンをクリックして、OFFを実行した後は、
 処理が完了し、自動更新により電源状態が反映されるまで
 WEB画面の操作を何も行わないようにしてください。

〈1〉 機器情報

機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。

設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉 アウトレット情報

No. : アウトレット番号を示します。

名称 : 設定されたアウトレット名称を表示します。

制御(アウトレットNo.1~4) : 個別アウトレットの制御を行います。

制御(All Outlets) : 全アウトレットの制御を行います。

ON : 電源出力を開始します。

OFF : 電源出力を停止します。

Reboot : 電源出力をOFF→ONします。

電源状態 : 現在の電源状態を表示します。

画面更新されないと最新の状態が表示されません。

- デフォルトの設定では,
上記の[ON], [OFF], [Reboot]ボタンをクリック後,
「[アウトレット名称]にPower ON(OFF)しますか」「[アウトレット名称]にRebootを行いますか」という「確認」のポップアップが表示され, そこで[OK]を押下した後, 電源制御コマンドが実行されます。

[システム設定]-「基本設定」-「アウトレット設定」において
「電源制御時の動作確認」を[なし]に設定し, [適用]をクリックすると,
[ON], [OFF], [Reboot]ボタンをクリック後すぐにコマンドが実行されます。

画面右上の更新マークをクリックすると最新の電源状態を取得します。

注意

電源制御画面は [ネットワーク設定]「基本設定」「HTML表示設定」で「**自動ページ更新設定**」が「**無効**」であっても「**自動ページ更新時間(秒)**」に基づき**自動で更新**されます。

画面表示と実際の電源状態が異なる場合があります。電源状態は画面右上の更新アイコンをクリックして最新の状態を確認してください。

全アウトレットONの時, デフォルトでは個別アウトレットは1秒の間隔でONします。リブートのOFF時間はデフォルトで10秒です。

遅延時間, OFF時間及びOFF禁止などの設定は変数の変更により可能です。

(2) 接点制御

[電源制御]-[接点制御]をクリックします。

「接点出力」に関して, ON, OFFの制御ができます。

また, 接点出力1~4すべてをON, OFFに制御することもできます。

電源制御	仮想制御	一斉制御
接点制御		

機器情報	
機器名称	Noname
設置場所	Nowhere

接点情報					
接点出力連動設定			連動無し		
No.	接点出力名称	連動	制御		接点
1	NV Output1		ON	OFF	OFF
2	NV Output2		ON	OFF	OFF
3	NV Output3		ON	OFF	OFF
4	NV Output4		ON	OFF	OFF
		ALL	ON	OFF	

No.	接点入力名称	接点
1	NV Input1	OFF
2	NV Input2	OFF
3	NV Input3	OFF
4	NV Input4	OFF

〈1〉 機器情報

機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。

設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉 接点情報

接点出力連動設定 : [システム設定]-[接点出力設定]-[接点出力設定 (OUTPUT)]-[接点出力連動設定]にて設定されている内容を表示します。

No. : 接点出力番号を示します。

接点出力名称 : 設定された接点出力名称を表示します。

連動 : 接点別に設定されている連動を表示します。

制御(接点出力No.1~4) : 接点出力の制御を個別に行います。

制御(All) : 全接点出力の制御を行います。

ON : 接点出力を開始します。

OFF : 接点出力を停止します。

接点 : 現在の接点状態を表示します。
画面更新されないと最新の状態が表示されません。

No.	: 接点入力番号を示します。
接点入力名称	: 設定された接点入力名称を表示します。
接点	: 現在の接点状態を表示します。 画面更新されないと最新の状態が表示されません。

●デフォルトの設定では,
上記の[ON], [OFF]ボタンをクリック後,
「[接点出力名称]に接点ON(OFF)を行いますか」という「確認」のポップアップが表示され,
そこで[OK]をクリックした後, 接点制御コマンドが実行されます。

[システム設定]-「基本設定」-「アウトレット設定」において
「電源制御時の動作確認」を[なし]に設定し, [適用]をクリックすると,
[ON], [OFF]ボタンをクリック後すぐにコマンドが実行されます。

画面右上の更新マークをクリックすると最新の接点状態を取得します。

(3) 仮想制御

仮想アウトレットとは実際には存在しないアウトレットです。MACアドレスを指定してマジックパケットを送出し、Wake on LAN 対応機器の電源をONにする機能です。仮想アウトレットを使用して対象機器の電源をOFFにすることはできません。

注意 本製品の仕様で、本体主電源投入時に「全仮想アウトレットON」のコマンドが発報されます。そのため、「コールドスタート」に続いて「全仮想アウトレットON」のログが記録されます。

[電源制御]-[仮想制御]をクリックします。

機器情報		
機器名称	Noname	
設置場所	Nowhere	
仮想アウトレット (WoL)		
No.	仮想アウトレット名称	WoL 送信
1		ON
2		ON
3		ON
4		ON
5		ON
6		ON
7		ON
8		ON
全仮想アウトレット		ON

〈1〉 機器情報

機器名称 : 現在設定されている機器名称を表示します。

設置場所 : 現在設定されている設置場所名称を表示します。

〈2〉 仮想アウトレット (WoL)

No. : 仮想アウトレット番号を示します。

仮想アウトレット名称 : 設定された仮想アウトレット名称を表示します。

WoL送信(アウトレットNo.1~8) : 個別の仮想アウトレットに対してマジックパケットを送出します。

WoL送信(全仮想アウトレット) : 全仮想アウトレットに対してマジックパケットを送出します。

- デフォルトの設定では、上記の[ON]ボタンをクリック後、
「[仮想アウトレット名称]にWoL送信を行いますか」という「確認」のポップアップが表示され、

そこで[OK]をクリックした後, WoL送信間隔を待つてパケットが送出されます。

[システム設定]-「基本設定」-「アウトレット設定」において

「電源制御時の動作確認」を[なし]に設定し, [適用]をクリックすると,

[ON]ボタンをクリック後, 確認のポップアップは出ずに, WoL送信間隔を待つてパケットが送出されます。

(4) 一斉電源制御

一斉電源制御とは、複数の本装置を子機として最大8グループに分け、親機から各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することができる機能です。制御には、ブロードキャストパケットを利用しています。(操作した電源制御の結果、負荷機器が動作したことを視認[直に、もしくは監視カメラなど越しに]できる状態でこの機能をご使用ください。)

1グループにつき、10台まででご使用ください。

[電源制御]-[一斉制御]をクリックします。

〈1〉 一斉制御コマンド

本装置を一斉制御の親機として制御を行う場合は、こちらのメニューを使用します。

グループ指定 : 制御するグループを選択します。

Group 1～Group 8

デフォルト Group 1

制御 : 実行する動作を選択します。

PowerON PowerOFF Reboot

デフォルト PowerON

送信 : クリックで一斉制御コマンドを送信します。

クリック後、一度カウント画面に遷移した後、結果表示されます。

【返答情報】

「--- waiting response --- [IPアドレス]--- command executed」

該当IPアドレスのリブーターにて、コマンドを受信した。

※ 子機を複数台接続している場合は、コマンド実行された台数分の

「[IPアドレス]--- command executed」が表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

「--- waiting response ---」

コマンドを受信しなかった。3秒内で返答パケットが届かなかった。

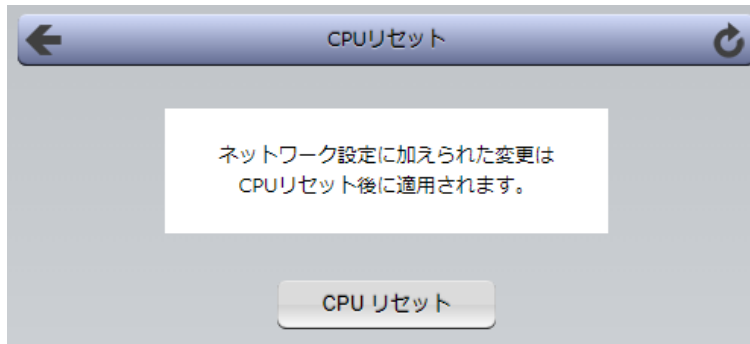
(対象リブーターの通信状況を確認してください)

☆本装置を子機として設定したい場合は、第7章3. 子機として使用する場合 に詳細がございますのでご覧ください。

「排他制御方式」選択時の子機設定は、メンテナンスモードでの設定が必要となります。また、一斉電源制御を受け付ける状態になると、WEB画面での操作はできなくなります。Telnet通信においてSupervisor権限でのログインは可能です。(「ガードタイム方式」であればWEB画面にもアクセスできます。)

5. CPUリセット

一部の機能については、機能を有効にするために設定変更後にCPUリセットが必要となります。
メインメニューの[CPUリセット]をクリックします。



画面中央の[CPUリセット]をクリックすると、確認のポップアップが表示されますので、[OK]をクリックします。待機画面が表示されます。
カウントが0になりましたら、CPUリセット完了です。

注意 [CPUリセット]をクリックすると設定した内容が有効になります。なお、[CPUリセット]ボタンをクリックすると通信が切断されますが、アウトレットの状態は現状のまま保持されます。

第5章 その他の設定

1. Telnetによる設定

[1] Telnetでの接続方法

- 1)PCの「スタート」を右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、本装置にアクセスします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1

Telnetポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※_はスペースを表します。

- 2)プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220 RSC-MT4HS (Noname) server ready

- 3)任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

- 4)ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

注意 ブラウザー接続時のパスワードとTelnet接続時のパスワードは別になります。Telnet接続時とシリアル接続時のパスワードは共通になります。コマンド(ID, PASS)で変更して利用することをおすすめします。

デフォルトのままですとセキュリティホールになる危険があります。

「排他制御方式」選択時は、電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法で新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。「ガードタイム方式」選択時は、Telnet通信でも多重ログインが可能になります。(Telnetサーバーとしては最大接続数2)

[2] Telnetコマンドによる設定

- 1)PCの「スタート」を右クリックして、「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを指定し、Telnetで本装置にログインします。

- 2)コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

■ Telnet通信の設定関係コマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定をFROMに書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。
変数名=値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPUをリセットします。(電源状態は変化しません。)

※変数については 第13章 ■ 変数一覧表 をご覧ください。

■ 「&SAVE」コマンドについて

環境(変数全体)を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」をテキストデータとして出力します。このテキストデータを設定データとして保存し、のちに送信しますと、保存した設定になります。Telnet用のパスワードなど、いくつかの変数は保存されませんのでご注意ください。設定データをテキストエディタで変更して利用することもできます。なお、「&SAVE」には、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。(最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。)ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を0または1とします。

※保存されないもの

- ・Telnet用のパスワード
- ・(Read Only)の変数
- ・スケジュールデータ[schOl(n)Schxxx]
- スケジュールの保存方法は第4章2.[5](3)データファイル管理をご覧ください。
- ※シャットダウンスクリプトの内容は保存されます。

■ プロンプトやコマンドについて

Telnetからアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を0または1とします。

```

変数名      :  promptMode
値          :  0(プロンプト表示無し)
              1(「>」のプロンプト表示 )
              2(「 機器名 > 」のプロンプト表示 )

```

■ SSH通信からの設定について

Telnetと同じようにSSH通信からも設定を行うことができます。

ただし「ping [IP アドレス]」「telnet」などのコマンドは仕様上使用できません。

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル(D-sub 9ピンメス)で接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	: 38400bps
データビット	: 8ビット
ストップビット	: 1ビット
パリティ	: なし

3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。

4) ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。

5) 設定したいコマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。

6) 設定内容を有効化します。

「write」コマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

注意 設定変更後は、必ず「write」コマンドを実行してください。コマンドがないと設定が反映されません。また項目によりCPUリセット後に設定が反映されます。設定は「CPURESET」コマンドまたは本体RESETボタン押下後に反映されます。

「排他制御方式」選択時は、電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法で新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。「ガードタイム方式」選択時は、シリアル通信でも多重ログインが可能になります。(シリアル通信で最大接続数2)

7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

シリアル通信のコマンドはTelnetと共通です。ただしPASSコマンドはご利用いただけません。

第6章 その他の制御

1. Telnet接続による制御

本装置はTelnetサーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。(SSH通信でも同じことが行えます。)

[1] Telnet接続による制御

- 1)PCの「スタート」を右クリックして「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
「初期設定」で設定したIPアドレスを以下のように指定し、Telnetで本装置にログインします。

192.168.10.1の場合

IPアドレス : 192.168.10.1
Telnetポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」

※_はスペースを表します。

- 2)プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

220 RSC-MT4HS (Noname) server ready

- 3)任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4)ユーザーID(デフォルト:admin)とパスワード(デフォルト:magic)を入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 5)制御コマンドを入力して、<Enter>キーで実行します。
☆制御コマンドについては、第13章 ■ 制御コマンド一覧表 をご覧ください。

注意 「排他制御方式」の場合、電源制御可能な他のユーザーがログイン中の場合、当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし、Supervisor権限ではログインすることが可能です。

「ガードタイム方式」選択時は、Telnet通信でも多重ログインが可能になります。(Telnetサーバーとしては最大接続数2)

☆詳しくは第4章2.[2](7)セキュリティ をご覧ください。

応答コマンド

正常受付 : Command OK

不正なコマンド : Unrecognized command

前コマンドの処理中のためコマンド実行せず : Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力で電源制御ができます。

- 1) 本体前面のCOMポートと設定用PCのCOMポートをパソコン用クロスケーブル(D-sub 9ピンメス)専用ケーブルで接続します。
- 2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	: 38400bps
データビット	: 8ビット
ストップビット	: 1ビット
パリティ	: なし

- 3) 任意のキーを入力します。IDとパスワードが要求されます。
- 4) ユーザーID(デフォルト:admin), パスワード(デフォルト:magic)を入力し, <Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
Supervisor権限の場合は, ID:super ,PASS:illusion となります。
- 5) 制御コマンドを入力し<Enter>キーで実行します。「1.Telnet接続による制御」と共通です。
☆制御コマンドについては第13章■ 制御コマンド一覧表 をご覧ください。

注意 [排他制御方式]の場合, 電源制御可能な他のユーザーがログイン中は当該方法にて新たにログインすることはできません。ただし, Supervisor権限ではログインすることが可能です。

「ガードタイム方式」選択時は, 多重ログインが可能になります。

☆詳しくは第4章2. [2](7)セキュリティ をご覧ください。

3. メールからの制御

メールを利用して電源制御ができます。

メールからのコマンドを利用するには、通信設定ならびにメール設定を正しく行う必要があります。

- 注意
- 「ネットワーク設定-メール設定-通知先設定」の[通知先アドレス]に設定したメールアドレスからのみメール制御できます。
 - HTMLメールではメール制御できません。必ずテキスト形式メールをご使用ください。

1)本装置に、テキスト形式メールを送信します。

件名(タイトル)は特に必要ありません。

本文1行目に「メール制御ユーザー名」を入力します。

本文2行目に「メール制御パスワード」を入力します。

本文3行目以降にコマンドを入力します。

コマンドを入力し改行を入れます。

●コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。

使えるコマンドは 第13章 ■制御コマンド一覧表をご覧ください。

本文最終行に「QUIT」コマンドを入力します。

「Q」または「E」の1文字だけでもログアウトできます。

2)数分後、本装置から結果を知らせるメールが届きます。

注意 メール制御ユーザー名とパスワードについては
第4章 2.[3](4)<2>メール制御設定 をご確認ください。

★[ガードタイム方式]設定時のみメールでの「電源制御」可能です。
[ガードタイム方式]を設定せずに「電源制御」を実行しようすると、
「511 Command failed. Select the appropriate mode.」という
エラーメッセージが表示されます。

[排他制御方式]選択時、電源制御可能な他のユーザーがWEBブラウザ、
Telnet接続などでログイン中の場合、メールでのコマンド実行(OLSやSONI
など)はできません。WEBブラウザ、Telnet接続などから必ずログアウト
してから、メールでコマンドを実行してください。

4. WEBコマンドからの制御

WEBからダイレクトコマンドで電源制御ができます。

WEBコマンドでの制御方法

WEBコマンドは主に電源制御のためのコマンドであり、設定の変更は出来ません。

cmd.htm の後に下記のフォーマットで記入します。

[[HTTP認証]が「None」の場合]

?userid=[ユーザーID] &password=[パスワード] &command= [利用コマンド]

例)ユーザーID:admin / パスワード:magic / コマンド:por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?userid=admin&password=magic&command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?i=admin&p=magic&c=por3

●1回実行すると、HTTPのセッションが切れ、ログアウト状態に戻ります。

[[HTTP認証]が「Basic」「Digest」の場合]「ユーザーID」「パスワード」不要になります

?command= [利用コマンド]

例)コマンド:por3

http://192.168.10.1/cmd.htm?command=por3

(変数名は省略可能です。「userid」→「i」,「password」→「p」,「command」→「c」)

→ http://192.168.10.1/cmd.htm?c=por3

●実行時、ポップアップでID、PASSが求められます。実行後もHTTPのセッションを保持します。
ログアウトする場合、http://[IPアドレス]/logout を実行してください。

ダイレクトWEBコマンドでの利用可能コマンド

利用可能ユーザーLv[admin / supervisor / control / ident]

VER	POS	XPOS	OLS	OLSn
TEMP	TOS	TOSn	TSP	
SONn	SOFn	MSON	MSOF	
SSO	SSOn	SSI	SSIn	

利用可能ユーザーLv[admin / control]

PONn	POFn	PORn	
MPON	MPOF	MPOR	PSRn
MPONV	PONVn		

WEBからダイレクトコマンドで電源制御すると結果がテキスト形式で表示されます。

注意 第4章 2.[2](1)<2>アウトレット設定, [3](1)<3>ダイレクトWEBコマンド設定
の各項目を設定してご利用ください。

★[ガードタイム方式]かつ「電源制御時の動作確認:なし」の時のみ、電源制御可
能です。

5. MPMPでの制御

明京電機オリジナルプロトコルMPMPパケット(UDP)を使用して、電源や接点の制御, CPUリセットを遠隔で実行できます。

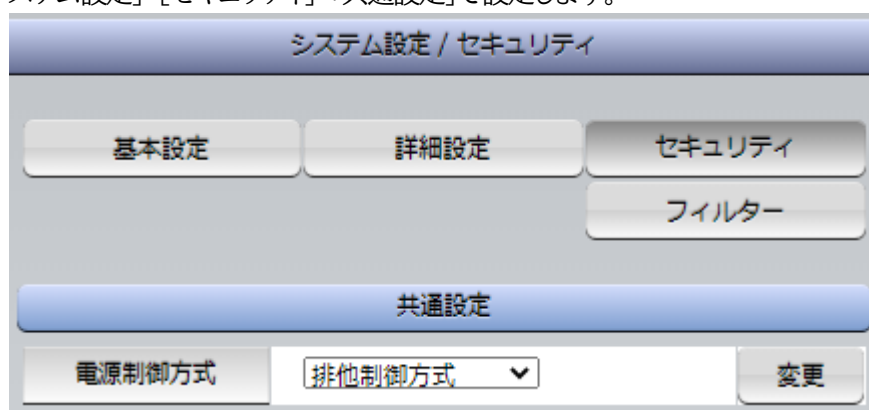
[1] リブーター側の設定

MPMPでの電源制御を行えるようにするためには以下の設定が必要です。

- (1) 「電源制御方式」を[ガードタイム方式]に設定する。
- (2) MPMPでの制御に使用する「ID」「PASSWORD」を設定する。
- (3) 結果通知を有効にするため、「状態通知機能」で[MPMP]を選択し、通知を受信する端末のIPアドレスを登録しておく。

(1) ガードタイム方式の設定

[システム設定]-[セキュリティ]-「共通設定」で設定します。



「電源制御方式」を「ガードタイム方式」に切り替え, [変更]ボタンをクリックします。

(デフォルトは[排他制御方式])

ポップアップで表示される注意文の内容に同意の上, [OK]をクリックしてください。

その後, 各種ガードタイムを設定できます。

(2) MPMP制御用ID, パスワード

[システム設定]-[セキュリティ]-「MPMPコマンド制御」で設定します。

ユーザーID : 半角英数記号5字以内

パスワード : 半角英数記号7字以内

★3セット, 登録できます。

(3) 結果通知先IPアドレス登録

[ネットワーク設定]-[詳細設定]-「状態通知機能」で設定します。

状態通知機能 : [MPMP]を選択 (デフォルト 無効)

アドレス : 通知を受信する端末のアドレスを設定してください。

(2)でID, パスワードを登録した「No.」に入力してください。

ポート : 5000(デフォルト)

[2] MPMPパケット送信

UDP/IPの設定を以下として、MPMPパケットを送信します。

ローカルポート : 前頁[1](3)で設定したポート番号 (デフォルト:5000)
送信先ポート : 15580 (ポート番号は固定)
送信先IPアドレス : 本装置のIPアドレス

コマンドで実行できるのは以下です。

- ・電源制御
- ・接点出力制御
- ・CPUリセット
- ・仮想アウトレット(WoL)

注意 実際の運用方法をお考えの場合、弊社営業部にお問い合わせください。

★[ガードタイム方式]でなければ制御可能になりません。

第7章

一斉電源制御

1. 一斉電源制御とは

[1] 概要

一斉電源制御とは、複数の本装置を子機として最大8グループに分け、親機から各グループ単位で一斉制御コマンドを送り、電源を制御することができる機能です。制御には、ブロードキャストパケットを利用しています。(操作した電源制御の結果、負荷機器が動作したことを視認[直に、もしくは監視カメラなど越しに]できる状態でこの機能をご使用ください。)

1グループにつき、10台まででご使用ください。

親機、子機の組み合わせについては、弊社リブーターで一斉制御機能があるものであれば、機種問わず組み合わせることができます。

子機[一斉電源制御受付状態の機器]の時、「ガードタイム」方式設定時はWEB画面でログインすることができますが、「排他制御」設定時はWEB画面にアクセスすることができなくなります。その場合はTelnet通信にてsupervisor権限でログインして設定を行います。

☆「ガードタイム」「排他制御」については第4章2. [2] (7) (1) 共通設定をご覧ください。

一斉制御のコマンドを実行すると、親機から以下の2種の応答があります。

親機側の応答 : 親機から子機へ一斉制御コマンドを送信した
子機側の応答 : 一斉制御コマンドを受信した

応答通知は親機の制御方法(WEB, Telnet, シリアル)により異なります。

次に続く、各制御方法の応答内容をご確認ください。

2. 親機として使用する場合

[1] 設定

(1)MACアドレスの確認

本装置のMACアドレスを確認し、メモ等に控えます。

MACアドレスは、製品底面に貼付されたシリアルラベルの記載内容を確認するか、「機器設定」の「システム情報」から確認することができます。

グループの設定とMACアドレスの入力は子機側で行います。

☆次に続く3. 子機として使用する場合をご参照ください。（子機側の機種、バージョンによって画面構成、項目名が異なります。該当機種の詳細取説をご確認ください。）

[2] WEBでの制御

(1)一斉制御コマンド

[電源制御]-[一斉制御]をクリックします。

本装置を一斉制御の親機として制御を行う場合は、こちらのメニューを使用します。

グループ指定 : 制御するグループを選択します。

Group 1～Group 8

デフォルト Group 1

制御 : 実行する動作を選択します。

PowerON PowerOFF Reboot

デフォルト PowerON

送信 : クリックで一斉制御コマンドを送信します。

クリック後、一度カウント画面に遷移した後、結果表示されます。

(2) 返答情報

応答結果は返答情報として画面表示されます。

・コマンド受信成功

電源制御 / 一斉制御

電源制御 仮想制御 一斉制御

一斉制御コマンド

グループ指定 Group 1

制御 PowerON

送信

返答情報

--- waiting response --- 192.168.1.100 --- command executed
192.168.1.110 --- command executed

--- waiting response --- [IPアドレス]--- command executed

※子機を複数台接続している場合は、コマンド実行された台数分の
[IPアドレス]--- command executed が表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

・コマンド受信失敗, またはコマンド受信成功したが, 電源制御は実行せず

電源制御 / 一斉制御

電源制御 仮想制御 一斉制御

一斉制御コマンド

グループ指定 Group 1

制御 PowerON

送信

返答情報

--- waiting response ---

--- waiting response ---

※親機からのコマンドは届いているが、ガードタイム中や遅延時間中などでコマンド実行を行わなかった場合や、子機から3秒内で返答パケットが届かなかった場合もこの表示となります。

実行に時間を置かず、通信状況の確認を行ってください。

[3] Telnetでの制御

(1) コマンド実行

Telnetで一斉制御を行う際、使用するコマンドは以下のものです。(x=1~8, xはグループ番号を示します)

BPONx : 該当グループ全アウトレットの電源出力開始
BPOFx : 該当グループ全アウトレットの電源出力停止
BPORx : 該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート)

(2) 返答情報

親機として一斉制御コマンド(BPONx, BPOFx, BPORx)をTelnetで実行の後は、親機のコマンド実行結果応答に加えて、子機の応答結果が表示されます。

以下は、グループ1に2台設定した場合の例となります。

・コマンド受信成功

```
Noname> BPON1 220 Command OK.  
--- waiting response ---  
Noname> 192.168.1.100 --- command executed  
Noname> 192.168.1.110 --- command executed  
--- waiting response ---  
[IPアドレス]--- command executed
```

※子機を複数台接続している場合は、コマンド受信した台数分の

[IPアドレス]--- command executed が表示されます。

表示されない子機がある場合は、対象リブーターの通信状況を確認してください。

・コマンド受信成功したが、電源制御は実行せず

```
Noname> BPON1 220 Command OK.  
--- waiting response ---  
Noname> 192.168.1.100 *** command failed  
Noname> 192.168.1.110 *** command failed  
--- waiting response ---  
[IPアドレス]*** command failed
```

ガードタイム中や遅延時間中にコマンドを実行した場合に表示されます。

ガードタイムや遅延時間によって電源制御コマンドが受け付けられなかったことを表します。

・コマンド受信失敗

```
Noname> BPON3 220 Command OK.  
--- waiting response ---  
--- waiting response ---
```

未設定のグループへコマンド実行した場合や、通信状態が悪い場合に表示されます。

・コマンドが誤っている

```
--- waiting response ---  
[IPアドレス]*** invalid command
```

3. 子機として使用する場合

[1] 設定

(1) 受付状態設定方法

(1) メンテナンスモードのWEB画面にて設定を行う方法

1) 本体起動後、本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし、RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。

「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。

アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモード機器設定画面の下部(赤の枠)で以下の項目を設定します。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	RSC-MT4HS
バージョン	4.00A.230315
MAC アドレス	00:09:EE:00:AA:63
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバーアドレス	
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☐ 有効 ☒ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス: 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを指定します。

3) 「適用」を押し、DIPスイッチをすべてOFF(上)にして、RESETボタンを押すと一斉電源制御受付状態になります。

注意

デフォルト設定の「排他制御方式」時には、一斉電源制御受付状態になるとWEB画面にアクセスすることができません。本装置と通信するためにはTelnet通信においてSupervisor権限でログインする必要があります。ただし、Telnet機能はデフォルトでは「無効」となっています。(画像の緑の枠)

(ガードタイム方式であれば、受付状態であってもWEB画面にアクセス可能です)

「排他制御方式」設定で一斉電源制御受付状態にする場合は、「Telnet機能」を「有効」に設定にしておいてください。

〈2〉 「ガートタイム方式」選択時, (運用モード)WEB画面にて設定する方法

1)[ネットワーク設定]-[詳細設定]をクリックします。

2)一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで, 以下の項目を設定します。

一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

子機グループ : Disabled Group1~8
デフォルト Disabled

親機MACアドレス : 一斉電源制御コマンドが送られてくる親機のMACアドレスを入力します。

3)[適用]をクリックし, CPUリセットを行います。

〈3〉 Telnet通信にて設定を行う方法

1)Telnet通信でログインしてください。

2)ログイン後, 「.broadGroup=1」と入力し, エコーが返ってきたなら, 「write」コマンドで書き込みます。

3)「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

(2) 受付状態解除方法

〈1〉 「排他制御」選択時, WEB画面にて解除を行う方法

1) 本体起動後, 本体前面のDIPスイッチ3のみON(下)にし, RESETボタンを押します。これで「メンテナンスモード」になります。

「メンテナンスモード」はIPアドレスが192.168.10.1固定です。

アクセスする機器のIPアドレスを192.168.10.2などに設定する必要があります。

2) メンテナンスモード機器設定画面の下部(赤の枠)で子機グループをDisabledにします。

メンテナンスモード 機器設定	
モデル名	RSC-MT4HS
バージョン	4.00A.230315
MAC アドレス	00:09:EE:00:AA:63
IP アドレス	192.168.10.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
DNS サーバアドレス	
DHCP 機能	☐ 有効 ☒ 無効
HTTP 機能	☒ 有効 ☐ 無効
HTTP ポート	80
Telnet 機能	☐ 有効 ☒ 無効
Telnet ポート	23
通信速度	自動接続 ▼
IP フィルター	☐ 有効 ☒ 無効
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

※親機MACアドレスは入力されたままでも構いません

3) 「適用」を押し, DIPスイッチをすべてOFF(上)にして, RESETボタンを押します。

〈2〉 「ガートタイム方式」選択時, WEB画面にて解除する方法

1) [ネットワーク設定]-[詳細設定]をクリックします。

2) 一斉電源制御受付(子機機能)設定メニューで, 子機グループをDisabledに切り替えます。

一斉電源制御受付(子機機能)設定	
子機グループ	Disabled ▼
親機MACアドレス	00:00:00:00:00:00
適用	

※親機MACアドレスは入力されたままでも構いません

3) [適用]をクリックし, CPUリセットを行います。

〈3〉 Telnet通信にて解除する方法 [「排他制御方式」選択時など]

- 1) Telnet通信において, Supervisor権限でログインしてください。
- 2) ログイン後, 「.broadGroup=0」と入力し, エコーが返ってきたなら, 「write」コマンドによって受付状態無効を書き込みます。
- 3) その後, 「cpureset」と入力しEnterキーを押してください。

受付状態が無効になったため, WEB画面にアクセスすることが可能になっています。

[2] 待受状態時の制御・設定

「排他制御」設定の場合, 一斉制御待受状態時, WEB画面にアクセスできず, 電源制御や設定変更などが行えなくなります。(「ガードタイム方式」設定であればWEBアクセス可能です。)

Telnet通信ではsupervisor権限でしかログインができません。(変数による設定変更は可能ですが, 電源制御は行えません。)(「ガードタイム方式」であれば, admin権限でもログインできます。)

注意	子機側の各アウトレットに設定されたリブート時間, ON遅延時間, またガードタイム時間の設定によって, 一斉制御のコマンドが届くタイミングによっては実行されないことがあります。
----	--

第8章 ログイン機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを1000件記録します。1000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは、コマンドで表示・確認できます。

1) Telnetによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、それぞれのコマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode
コマンド : .logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp
コマンド : .logDisp

③ 接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

[1] ログ制御変数のビット構成

値は最下位を0ビットとし、31ビットの構成になっています。

0:無, 1:有

ビット

30 : 不使用
29 : 手動スイッチ押下
28 : 接点出力状態変化
27 : 接点入力状態変化
26 : 不使用
25 : スクリプト実行/失敗
24 : 不使用
23 : SSHサーバー接続/切断
22 : 不使用
21 : NTPアクセス
20 : シリアルログイン・ログアウト
19 : 不使用
18 : 温度状態変化
17 : 変数設定, write
16 : サーバー関連イベント
15 : 不使用

ビット

14 : 不使用
13 : Telnetログイン・ログアウト
12 : Telnet接続・切断
11 : Webログイン・ログアウト
10 : Web接続
9 : メールログイン・ログアウト
8 : メール不正アクセス
7 : ユーティリティログイン・ログアウト
6 : ユーティリティ接続・切断
5 : 電源障害等
4 : 電源制御コマンド
3 : 不使用
2 : ping監視によるイベント
1 : ping無応答
0 : ping送信

Telnet通信による設定例

・ping監視によるイベント, 電源制御コマンド, 電源障害のログを記録する場合

.logMode=000000000000000000000000110100

・全て表示する場合

.logDisp=11111111111111111111111111111111(デフォルト)

・接続中に「変数設定」だけ表示とする場合

変数を変更せずにLOGDISPコマンドで表示を変更できます。

LOGDISP=00000000000010000000000000000000

[2] ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示(連番号順)
LOG n	ログの表示(最新n個)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒=現在時刻 e0 = t0 NTP接続までの経過秒=最初の取得時刻 NTP無効の場合はeのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は20項目です。

<Enter>キーで続きの20項目を表示します。

[3] ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c

nnn	: 連番号
ttt	: NTP無効時:記録開始からの時間(秒)
yy.mm.dd hh:mm:ss	: NTP有効時:年月日時分秒
a	: アウトレット番号
b	: Ping送信先番号(1~4番)
xxxxxxx	: イベント
c	: IPアドレス

RSC-MT4HS	0	Ping送信	0	0
	1	Ping無応答	0	1
	2	Ping監視によるイベント	1	1
	3	不使用	0	1
	4	電源制御コマンド	1	1
	5	電源障害等	1	1
	6	(UTY接続/切断)	1	1
	7	(UTYログイン/アウト)	1	1
	8	メール不正アクセス	1	1
	9	メールログイン/アウト	1	1
	10	WEB接続	1	1
	11	WEBログイン/アウト	1	1
	12	Telnet接続/切断	1	1
	13	Telnetログイン/アウト	1	1
	14	不使用	1	1
	15	不使用	1	1
	16	サーバー関連イベント	1	1
	17	変数設定,write	1	1
	18	温度状態変化	1	1
	19	不使用	0	1
	20	シリアルログイン/アウト	1	1
	21	NTPアクセス	1	1
	22	不使用	0	1
	23	SSHサーバー接続/切断	1	1
	24	不使用	0	1
	25	スクリプト実行/失敗	1	1
	26	不使用	0	1
	27	接点入力状態変化	1	1
	28	接点出力状態変化	1	1
	29	手動スイッチ押下	1	1
	30	不使用	0	1
	ログ記録可否	.logMode		
	ログ表示可否	.logDisp		
	一時的ログ表示可否	LOGDISP		
	メールでのログ表示可否	mailLogMode		

(表内はデフォルト値)

[4] 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント(記録・表示のモード設定があります。)	
Ping	ping送信
No Echo	ping無応答
監視設定(Action)に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リブート
Outlet On	電源ON
Outlet Off	電源OFF
スケジュールの場合は,「by Schedule」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート(電源リブート)
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート(電源リブート)
アクセスによるイベント(接続先IDが表示されます。)	
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログアウト(切断)
<-- Uty	ログインしないで切断
WEB, MAIL, Telnetの接続, ログインなどもこれに準じます	
NTPServerAccessError	NTPサーバー接続エラー
NTP --- hh:mm:ss	NTPサーバー接続
SSHServerConnected	SSHサーバー接続
modeに関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー
Manual SW #1 pushed	手動スイッチ1 押下
Manual SW #2 pushed	手動スイッチ2 押下

第9章

シャットダウン スクリプト

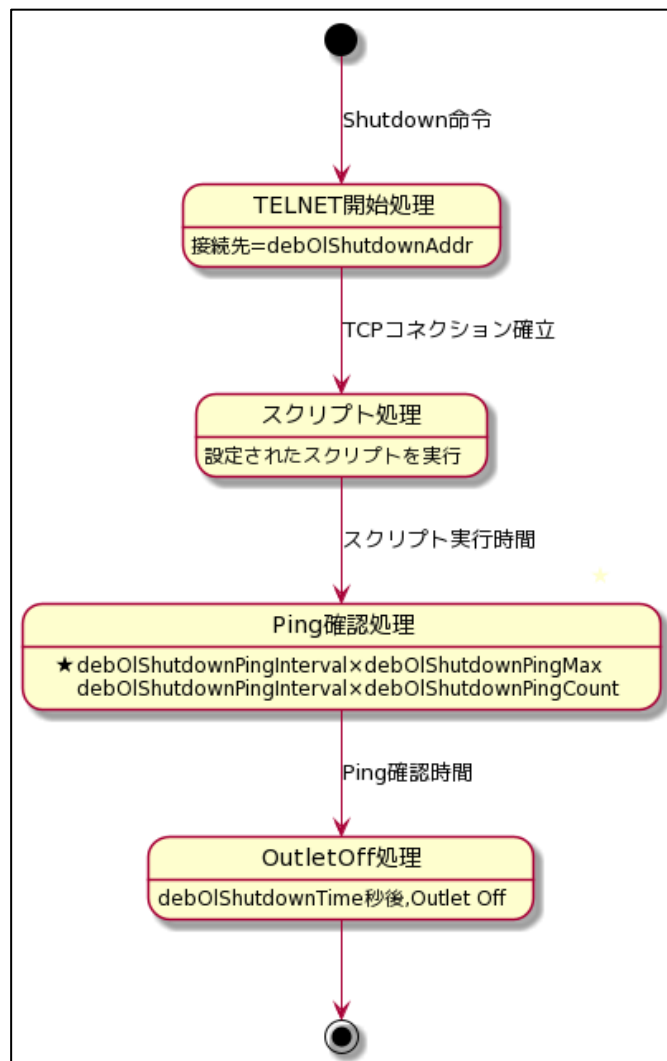
1. スクリプト仕様について

本装置はシャットダウンスクリプトを搭載しています。この機能により、接続された機器を正常に電源出力停止できます。

[1] スクリプトの基本動作

- ① アウトレットがOFF命令を受け、シャットダウン遅延中に動作します。OFF命令はコマンド、温度監視、スケジュール、死活監視、ハートビート監視、UPS連携より出されます。(リブートによるOFF時は実行されません。)
- ② 指定のIPアドレス、ポートにTelnet接続またはSSH接続を行います。
- ③ 接続後、設定したスクリプトを実行します。スクリプトの終了コードにより電源OFF条件を定めることができます。
- ④ スクリプト実行後、シャットダウンPing実行先を指定しているなら、指定秒数間隔でPing監視を行い、無応答が指定回数[シャットダウンPing回数]に達した、またはICMPエコー要求を指定回数[シャットダウンPing最大送信数]発信した時、Ping応答確認を終了します。([6]参照)
- ⑤ アウトレットOFF処理を開始します。(OFF遅延時間経過後、OFFにします)

■SSH接続は同時には1個だけ可能です。複数ある場合は、他のSSH接続が終わってから接続することになります。SSHサーバーが接続している場合は、強制的に切断します。



[2] 設定

(第4章2.[2](6)シャットダウンスクリプト設定をご参照ください。ブラウザーから設定できます。)
本機をTelnet接続, シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。(アウトレットごとに以下の設定をします。)

IPアドレス	:	debOlShutdownAddr
Port番号	:	debOlShutdownPort
		0を指定すると, Telnetなら23, SSHなら22と見なします。
スクリプト番号	:	debOlShutdownScript
スクリプトの有効/無効	:	debOlShutdownEnabled
サーバ名(ID)	:	debOlShutdownName
パスワード	:	debOlShutdownPassword
Ping実行先	:	debOlShutdownPingAddr
		Pingでシャットダウン終了を確認します, IPアドレスまたはドメイン名を設定します。
Ping間隔(単位:秒)	:	debOlShutdownPingInterval
Ping回数	:	debOlShutdownPingCount
Ping限度	:	debOlShutdownPingMax
電源OFF条件	:	debOlShutdownOffMax

[3] ログ

- ① スクリプトの成功または失敗をログと変数に残します。
変数はdebOlShutdownExitとdebOlShutdownMsg
この変数の値は保存されます。

[4] エラーコード

- 1~251 : ユーザーが定義可能なエラーコード
スクリプト関数を利用して、独自のエラーコードを定めることができます。
- 252 : シャットダウン中にWarm Startが発生し、シャットダウンスクリプト実行が失敗した
(該当アウトレットは電源ONを維持します)
- 253 : Telnet/SSHが切断された
- 254 : Telnet/SSHが接続できなかった
- 255 : タイムアウトエラー
スクリプト実行中にtimeoutコマンドで設定した時間が経過してしまった

[5] テキスト仕様

- ① 条件
- ・ テキストサイズは、2Kbyteまでです。
 - ・ テキスト行数は250行までです。
 - ・ テキストの第1行は、TelnetまたはSSHとします。

- ・ 行の先頭やパラメータの区切りに任意個のタブや空白を入れてもかまいません。
- ・ スクリプト関数は大文字でも小文字でも可能です。
- ・ 2バイト文字にも対応しています。

② スクリプト関数詳細

文字列	:	二重引用符”で囲みます。 CRコードは¥r, LFコードは¥nで表します。 また, 1個の¥は¥¥で, 1個の”は¥”で表します。 制御コード等は¥xnnでnnは2桁の16進数で表します。 (長さは最大63バイト)
timeout 時間	:	単位秒。スクリプトタイムアウト 最大1023 (デフォルト10分) 時間が来たら強制的にスクリプトを終了します。 (終了コードは255)
delay 時間	:	単位100ミリ秒, 一時停止, 最大1023
goto ラベル	:	指定ラベルに飛びます。
ラベル	:	ラベルは1~99 行の残りにはコメントしか書くことはできません。
exit 終了コード	:	スクリプト終了 終了コードは0~255。省略は0 変数debOlShutdownExitに設定されます。
send 文字列	:	文字列を送信する。
recv	:	データを受信バッファに受信する。
recv 時間 goto ラベル	:	データを受信バッファに受信し, []秒以内に受信できなければラベルに飛びます。
recv 時間 exit 終了コード	:	データを受信バッファに受信し, []秒以内に受信できなければ終了します。
if 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列があればラベルに飛びます。
if 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列があれば終了します。
unless 文字列 goto ラベル	:	受信バッファに文字列が無ければラベルに飛びます。
unless 文字列 exit 終了コード	:	受信バッファに文字列が無ければ終了します。
ド	:	
/	:	コメント 各文の終わりにも/を置いてコメントを書くことができます。
set 文字列	:	メッセージ変数debOlShutdownMsgに文字列を入れます。
sendname	:	サーバー名(ID)をCRコードつきで送信します。(*)
sendpassword	:	パスワードをCRコードつきで送信します。(*)

(*)これらの項目は, SSHの場合は自動で送信されるためスクリプトには不要です。

③ スクリプト例(Windows用)

```
TELNET
//強制タイムアウト時間 600秒
timeout 600
//ユーザーログイン, パスワード確認
```

```

1:
recv 10 exit 99
unless "login:" goto 1
sendname
2:
recv 10 exit 99
unless "password:" goto 2
sendpassword
3:
recv
unless ">" goto 3

//シャットダウンコマンド送信
send "shutdown /s¥r"
4:
recv
unless ">" goto 4
send "exit¥r"
exit

```

注意 ログインは管理者権限で行う必要があります。
 シャットダウンされる側のパソコンは、TelnetまたはSSHサーバー機能が有効になっている必要があります。
 弊社のホームページで公開している「MRCシャットダウンSv」をご利用いただくことも可能です。<https://www.meikyo.co.jp/archive/#mrCSV>

④ スクリプト入力

SCRIPTコマンドで始めます。

SCRIPT 番号

番号は1～4

ENDSCRIPTコマンドで終わります。

変数script1～script4に格納します。コメントや余分のタブ・空白は格納しません。

エラーがある場合は、エラーを表示し、格納しません。

[6] Ping確認について

スクリプト実行が終了したなら、終了コードが何であってもPing確認を実行します。

Ping確認では、Ping実行先が指定されていれば、指定間隔でPingを送信します。

Ping回数だけ連続して無応答なら、Ping確認を終了します。

Ping最大送信数だけ送信したなら、Ping確認を終了します。

Ping実行先が指定されていなければ、すぐにPing確認を終了します。

Ping確認を終了したなら、debOlShutdownTimeの遅延後にアウトレットの電源をオフします。

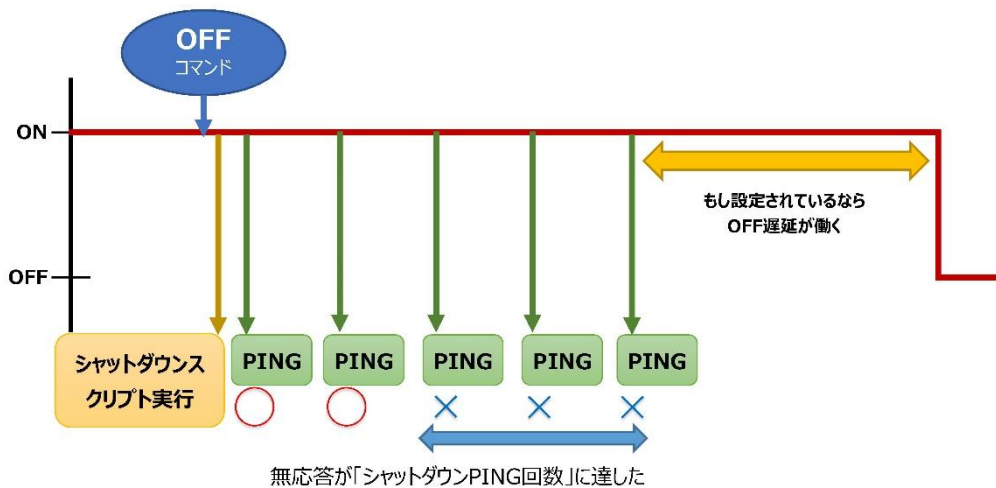
●シャットダウンPing監視先が設定されている場合の流れ

次のような設定をしている場合

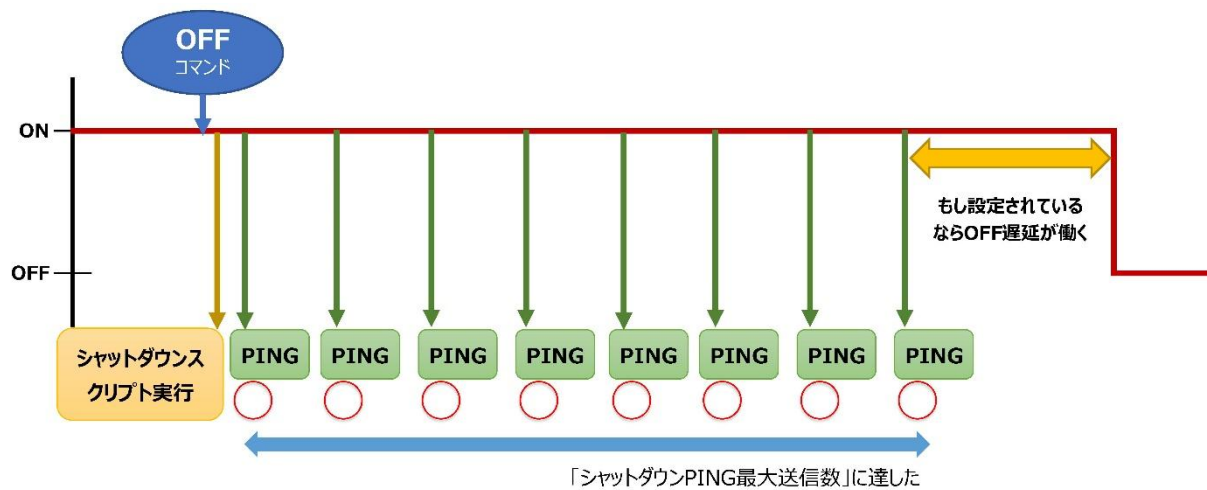
シャットダウンPing実行先アドレス	192.168.1.90
シャットダウンPing間隔(秒)	5
シャットダウンPing無応答回数	3
シャットダウンPing最大送信数	8

(シャットダウンしたいPCのIPアドレスが192.168.1.90だとします)

◆PCが安全にシャットダウンでき、Ping監視が無応答になった場合



◆Ping監視に対して応答がある場合



第10章
無停電電源装置
(UPS)との連携

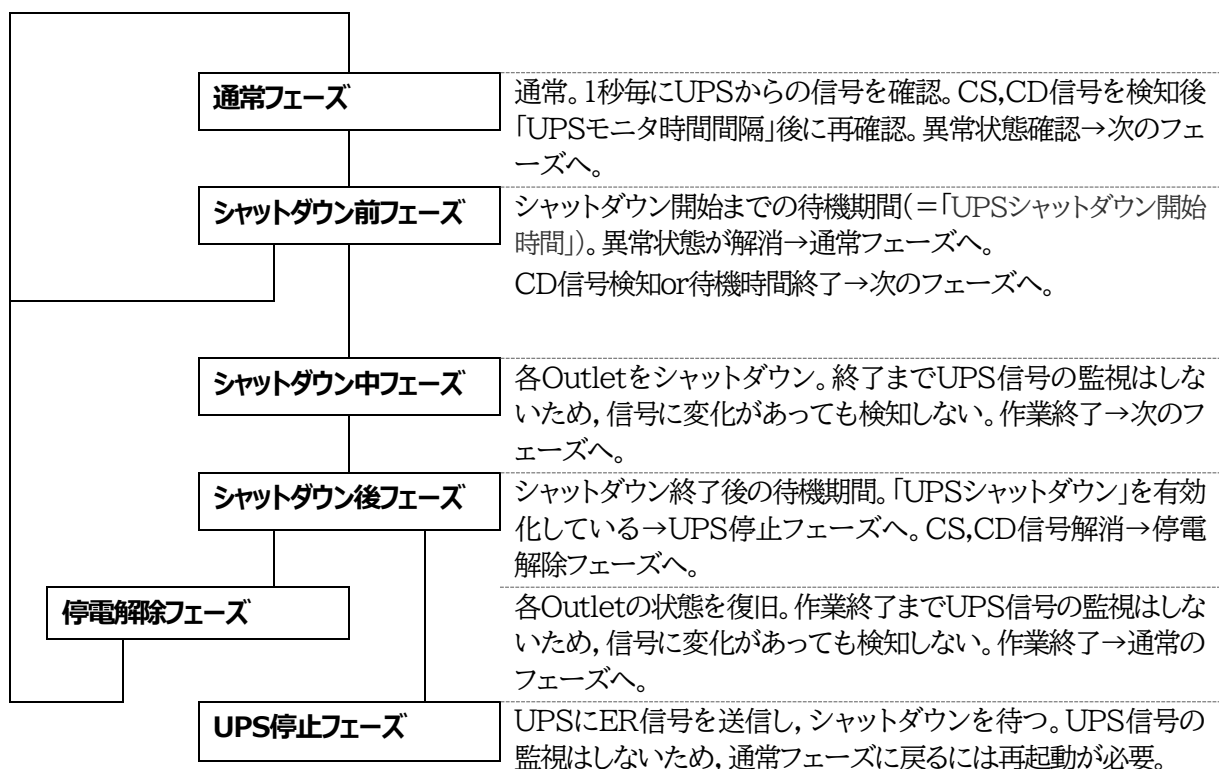
1. 概要

RS-232の規格を利用し、UPSと連動して各アウトレットを安全に終了させます。各アウトレットを安全にシャットダウンさせた後、UPSをシャットダウンさせる事も可能です。停電解除後には各アウトレットへの電源供給を再開させます。

[1] UPS側からの信号に対する基本動作

UPS側からの信号		当機の判断・動作	
CS信号	CD信号	判断	動作
無し	無し	正常の状態。	通常動作(復電後の場合は、復電前の状態に復旧)
有り	無し	異常が発生しUPSがバッテリー駆動になったと判断。警戒が必要。	「UPSシャットダウン開始時間」の間、異常が解消されなければ、各アウトレットのシャットダウン処理へ。
有り	有り	UPSがバッテリー駆動になった事に加え、電池残量も低下したと判断。緊急事態。	「UPSシャットダウン開始時間」の経過を待つことなく、即座に各アウトレットのシャットダウン処理へ。
無し	有り	何らかの異常が発生していると推察。上記同様に判断。	「UPSシャットダウン開始時間」の経過を待つことなく、即座に各アウトレットのシャットダウン処理へ。

[2] UPS連動の基本動作フロー



2. 本機と無停電電源装置(UPS)の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

※UPSご利用の際は、シリアル通信は使用できません。

1)UPSと本機とを専用通信ケーブルで接続します。

Windows標準のUPSサービスを利用します。専用通信ケーブルについては、各UPSメーカーにご相談ください。

2)本体前面DIPスイッチ1をON(下)にします。

3)本機の電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。

4)UPSの電源出力を開始します。

3. 機器設定

(第4章2.[2](5)<8>UPS連動設定 をご参照ください。ブラウザから設定できます。)

本機をTelnet接続、シリアルポートからターミナルソフトにて下記の項目を設定してください。「その他の制御」を参照してください。

① UPS名称

変数	:	upsIdentName
デフォルト	:	空白

全角31文字, 半角英数字63文字以内
(ブラウザの「UPS連動設定」から設定を行う場合は、
全角, 半角ともに19文字となります。)

② UPSモニタ時間間隔(秒)

変数	:	upsMonitorInterval
デフォルト	:	10

(0~60, 0は1と見なす)

③ UPSシャットダウン開始待機時間(秒)

変数	:	debMasterUpsAlarmWaitTime
デフォルト	:	120

(-1~300, -1の場合はシャットダウン無効)

UPSから電源障害信号を受け取った後、設定された時間が経過すると、本機はシャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害回復を検知した場合には、通常状態に戻ります。

④ UPSシャットダウン有効化

変数 : debMasterEnableUpsShut
 デフォルト : 2
 (1:有効 2:無効)

⑤ 給電状態

変数 : upsOutputSource
 デフォルト : 1
 (0,1:未設定 3:正常 5:バックアップ)

⑥ バッテリー状態

変数 : upsBatteryStatus
 デフォルト : 1
 (0,1:未設定 2:正常 3:低電圧)

⑦ UPS論理

変数 : upsSignalLevel
 デフォルト : 15

制御フラグ(4bit)			
④	③	②	①

0:負 1:正

- ①停電検知レベル デフォルト:正
 ②ローバッテリー検知レベル デフォルト:正
 ③不使用 (1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル デフォルト:正

以下は設定例です。

例1) ①停電検知レベル 「正」 : 設定値:15
 ②ローバッテリー検知レベル 「正」 デフォルト
 ③未使用(1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル 「正」

例2) ①停電検知レベル 「正」 : 設定値:13
 ②ローバッテリー検知レベル 「負」
 ③未使用(1:固定)
 ④シャットダウン信号レベル 「正」

第11章 SNMPについて

1. SNMPについて

本装置はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理を行うことができます。※SNMPでは電源制御は行えません。

2. 機器設定

本装置をTelnet接続にて下記の項目を設定してください。第5章 その他の設定 を参照してください。

① SNMPのSET, GET有効化

変数	:	snmpGetSetEnabled
デフォルト	:	0
		(0:無効 1:有効)

② SNMP TRAPの有効化

変数	:	snmpTrapEnabled
デフォルト	:	0
		(0:無効 1:有効)

③ SNMP不正アクセス時のTRAP通知

変数	:	snmpAuthenTrapEnabled
デフォルト	:	2
		(1:有効 2:無効)

④ TRAP送信回数

変数	:	snmpTrapSendN
デフォルト	:	1
		(1~9)

⑤ TRAP送信間隔(秒)

変数	:	snmpTrapSendInterval
デフォルト	:	1
		(1~9)

⑥ TRAP送信先アドレス

変数	:	snmpTrapAddr
デフォルト	:	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
		(8箇所)

- ⑦ SNMP用フィルターの有効化
- | | | |
|-------|---|-------------------|
| 変数 | : | snmpFilterEnabled |
| デフォルト | : | 0
(0:無効 1:有効) |
- ⑧ フィルター有効時許可するアドレス
- | | | |
|-------|---|---|
| 変数 | : | snmpFilterAddr |
| デフォルト | : | 0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,
0.0.0.0,0.0.0.0
(10箇所) |
- ⑨ フィルター有効時のMask
- | | | |
|-------|---|---|
| 変数 | : | snmpFilterMask |
| デフォルト | : | 255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255,
255.255.255.255,255.255.255.255
(10箇所) |
- ⑩ SNMP GETコミュニティ名
- | | | |
|-------|---|---|
| 変数 | : | getCommunity |
| デフォルト | : | Public
全角31文字, 半角英数字63文字以内
(ブラウザの「基本SNMP設定」から設定を行
う場合は, 全角, 半角ともに20文字となります。) |
- ⑪ SNMP SETコミュニティ名
- | | | |
|-------|---|---|
| 変数 | : | setCommunity |
| デフォルト | : | Public
全角31文字, 半角英数字63文字以内
(ブラウザの「基本SNMP設定」から設定を行
う場合は, 全角, 半角ともに20文字となります。) |
- ⑫ SNMP TRAPコミュニティ名
- | | | |
|-------|---|---|
| 変数 | : | trapCommunity |
| デフォルト | : | Public
全角31文字, 半角英数字63文字以内
(ブラウザの「基本SNMP設定」から設定を行
う場合は, 全角, 半角ともに20文字となります。) |

3. MIBについて

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。

弊社ホームページ <https://www.meikyo.co.jp/archive/#mib> よりMEIKYO.MIBをダウンロードし、ご利用ください。

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機の管理をNMS上で行うことができます。

注 意 MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。

第12章

ネットワーク 稼動監視

1. 機器設定

本装置からUDPのパケットを送出し、電源状態を通知することができます。「RPC EYE V4」(オプション有償ソフトウェア)を利用すれば、各機器からのパケットを受信し一元管理することができます。

下記の変数を設定してください。(①～④はWEB通信詳細画面により設定できます)

① 状態通知機能

変数 : syslogEnabled

デフォルト : 0

(0:無効 1:syslog 2:MPMP 3:RPC EYE用のパケット送信)

→RPC EYE V4を使用される場合は「3」

WEB上では「RPC EYE」を選択

RPC EYE V4を使用するパソコンのアドレスを設定します。

② 送信先アドレス

変数 : ipAdCenter

デフォルト :

(IPアドレスもしくはネームアドレス 8箇所)

RPC EYE V4を使用するパソコンのポート番号を設定します。

③ ポート番号

変数 : centerPort

デフォルト : 5000

情報を通知する間隔を設定します。

④ 定期通知の送信間隔(秒)

変数 : centerSendTimer

デフォルト : 300

電源変化時は、定期通知間隔を待たず直ちに通知します。その時の通知回数を設定します。

⑤ 電源変化時の通知回数

変数 : centerChangeSendCount

デフォルト : 3

電源変化時の通知の2回目以降の通知間隔を設定します。

⑥ 電源変化時の通知間隔(秒)

変数 : centerChangeSendTimer

デフォルト : 10(×100ミリ秒)

2. RPC EYE V4の利用

RPC EYE V4は、RPCシリーズからの送信情報を利用して、各拠点のネットワークの稼動状態をリアルタイムで監視するネットワーク稼動監視ソフトです。

以下の特長があります。

- ・死活監視、温度状態、電源状態の表示と監視
- ・アイコンによるビジュアルな状態表示
- ・リアルタイムに見られる詳細な情報ビューア
- ・温度状態のグラフによる表示
- ・受信情報のデータ保存(CSV形式)
- ・状態変化時にE-MAILまたは音による通知機能
- ・個別の機器への接続機能(HTML or Telnet)
- ・1本のソフトでPC3台まで利用できます。

詳細、購入方法等は下記のアドレスで確認ください。

<https://www.meikyo.co.jp/product/?ca=4>

設定前の確認

- 設定用PCと本装置をLANで確実に接続してください。
- RPC EYE V4をPCにインストールしてください。
RPC EYE V4はWindows対応ソフトです。
RPC EYE V4の設定、利用方法は、RPC EYE V4説明書(PDFファイル)をご覧ください。

第13章 仕様一覧

■ 変数一覧表

変 数 名	初 期 値	内 容	備 考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IPアドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MACアドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
sysName	Noname	機器名称	全角10文字 半角英数字20文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMPのSET, GETの有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAPの有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP不正アクセス時のTRAP通知	1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP送信先アドレス	"," 区切りで8箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP用フィルターの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルター有効時許可するアドレス	"," 区切りで10箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルター有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GETコミュニティ名	全角31文字 半角英数字63文字以内
setCommunity	public	SNMP SETコミュニティ名	全角31文字 半角英数字63文字以内
trapCommunity	public	SNMP TRAPコミュニティ名	全角31文字 半角英数字63文字以内
sysDescr	*1	(ReadOnly)	
sysContact	form@meikyo.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角英数字63文字以内
ifDescr	*2	(ReadOnly)	
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTPリトライ回数	
netRarpRetry	0	RARPリトライ回数	
telnetEnabled	0	Telnetの有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	Telnetのポート番号	
rshdEnabled	0	リモートシェル有効/無効設定	0:無効 1:有効
rshdPort	514	リモートシェル(rsh)に使用する着信ポート	
rshErrPort	1000	リモートシェル(rsh)に使用するエラーポート	
utilityPort	9000	UTYのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTTPファイルをロードするポート	
httpEnabled	1	HTTPの有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTPのポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP自動更新間隔	
httpRefreshEnabled	0	HTTP自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTPコマンドの有効化	0:無効 1:有効

dhcpEnabled	0	DHCPの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IPフィルターの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr	192.168.10.0	IPフィルターアドレス	”,” 区切りで10箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.0, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IPフィルターマスク	10箇所
model	RSC-MT4HS	モデル名(ReadOnly)	
com1Speed	3	シリアル通信速度	1:9600Bps 2:19200Bps 3:38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0:無 1:奇 2:偶
version		バージョン表示(ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	Telnet, シリアル通信時の無通信 タイマ(分)	1~32767
autoLogoutEnabled	1	自動ログアウト有効/無効設定	0:無効 1:有効
userLoginTimeout	600	HTTP自動ログアウト時間	30~30000
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時のOFF時 間(秒)	8~3600の整数
debOlStartMode	3	電源投入時のアウトレット制御を指 定	1: 電源断時の状態 2: 通常制御 3: スケジュール制御
debOlMaster	1,2,3,4	マスターのアウトレット番号	
debOlPowerOnTime	1,2,3,4	各アウトレットのON時間	左→右 1→4アウトレット -1~3600の整数
debOlPowerOnSTime	1,2,3,4	本体起動時に適用する電源出力 ON遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4アウトレット -1~3600の整数
debOlPowerOnTTime	0,0,0,0	スケジュールに適用する電源出力 ON遅延時間(単位:秒)	左→右 1→4アウトレット 0~3600の整数
debOlShutdownTime	0,0,0,0	各アウトレットのOFF時間	左→右 1→4アウトレット -1~3600の整数
debOlRebootTime	10,10,10,10	各アウトレットのREBOOT時間	左→右 1→4アウトレット 8~3600の整数
debOlWdogAddr		監視先IPアドレス	左→右 1→4アウトレット ”,” 区切りで8箇所以内
debOlWdogSendMax	10,10,10,10	Ping監視 送信回数	左→右 1→4アウトレット 1~100の整数
debOlWdogNoResMax	10,10,10,10	Ping監視 無応答回数	左→右 1→4アウトレット 1~100の整数
debOlWdogActCond	1,1,1,1	Ping監視 監視対象数	1~4(整数)
debOlWdogAction	0,0,0,0	Ping監視 Action	左→右 1→4アウトレット 0:noPing 1:noAction 2:Reboot 3:On 4:Off
debOlWdogActCount	0,0,0,0	Ping監視 Action回数 (ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット
debOlWdogStatus	0,0,0,0	Ping監視判断(ReadOnly)	0:未設定 1:正常 2:異常 3:回復中
debOlRebootCount	1,1,1,1	Ping監視 再Reboot回数	左→右 1→4アウトレット
debOlRebootInterval	1,1,1,1	Ping監視 再Reboot間隔(分)	左→右 1→4アウトレット
debOlActionLimit	0,0,0,0	Ping監視 異常時の1時間ごとに 繰り返すリブート回数	0:無制限

debOlRecvErrorMax	0,0,0,0	メールサーバー監視 接続障害回数	左→右 1→4アウトレット 0:機能無効
debOlWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	Ping監視 最終応答 (ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット 0:未設定 1:正常 2:異常 【アウトレット×4】
debOlWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	Ping監視 デフォルトゲートウェイ	左→右 1→4アウトレット 0:無効 1:有効 【アウトレット×4】
debOlNoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	Ping監視 無応答回数 (ReadOnly)	左→右 1→4アウトレット 【アウトレット×4】
debOlRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	Ping監視 IPアドレスからの応答 時間(ms)	左→右 1→4アウトレット 0:未設定 1:Ping応答の最小値 【アウトレット×4】
debOlActionMax	12	Ping監視 異常回数	
debOlNoEchoInterval	5	Ping監視 無応答検出時間(秒)	5~60の整数
debOlPingInterval	1	Ping監視 送信間隔(分)	1~60の整数
pingInterval2	0,0,0,0	Ping監視 送信間隔個毎(分)	左→右 1→4アウトレット 未設定時は上段値 0~60の整数
debOlName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4	アウトレット名	全角10文字 半角英数字20文字以内
debOlNameV		仮想アウトレットの名称	全角10文字 半角英数字20文字以内
debOlPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用のON時間	左→右 1→8アウトレット -1~3600の整数
debOlShutdownAddr		シャットダウンスクリプトのIPアド レス	
debOlShutdownPort	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPort番 号	
debOlShutdownScript	1,1,1,1	シャットダウンスクリプトのスクリ プト番号	
debOlShutdownEnabled	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効 1:有効
debOlShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバ ー名(ID)	半角16字以内
debOlShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワ ード	半角16字以内
debOlShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功, 失 敗ログ	
debOlShutdownExit	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功, 失 敗変数	
debOlShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトのPing実 行先	
debOlShutdownPingInterval	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPing間 隔	
debOlShutdownPingCount	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPing回 数	
debOlShutdownPingMax	0,0,0,0	シャットダウンスクリプトPing限度	
debOlShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのデバッ グ出力	0:無効 1:有効
debOlShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの電源 OFF制限	
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出 エラー数	
debOlControlActivated	0	電源制限制限同意フラグ	0:非同意 1:同意
debOlControlSAEnabled	0	WEBからの電源操作時, ポップア ップでの確認表示有無	0:あり 1:なし
debOlControlGTEEnabled	0	電源制御方式	0:排他制御方式 1:ガードタイム方式

「排他制御方式」では多重ログインは不許可、「ガードタイム方式」では許可となります。「ガードタイム方式」の場合、他の操作者により、ご自身の意図とは異なる思わぬ動作が生じるおそれがあるため、リスクを考慮し適切なガードタイムを設定してください。この点に同意される場合のみ、電源制御方式を変更してください。

debOlControlOnGuardTime	10	[ガードタイム方式選択時]ON, REBOOT操作後のガードタイム	1~32767
debOlControlOffGuardTime	10	[ガードタイム方式選択時]OFF操作後のガードタイム	1~32767
tempEnabled	0	温度監視の有効化	0:無効 1:有効
tempTestMode	0	温度テストモードの有効化	0:無効 1:有効
tempSimMode	0	温度シミュレーションモード	0:無効 1:有効
tempLowerA	-5	下限警報閾値	小数点以下は0.25の倍数となる。 (例:18.3を指定すると18.25となる。)
tempLowerW	0	下限注意閾値	
tempLowerH	2	下限ヒステリシス	
tempLowerOff	1	低温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempUpperA	45	上限警報閾値	小数点以下は0.25の倍数となる。 (例:18.3を指定すると18.25となる。)
tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempOlControl	0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0:無効 1:上限警報ON 2:下限警報ON 3:上限警報OFF 4:下限警報OFF
tempStatus		温度状態	0:正常 1:上限注意 2:上限警報 3:下限注意 4:下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態	0:正常(解除済) 1:上限警報実行 2:下限警報実行
tempDegree		温度測定値(℃)	小数点第二位まで表示
tempMaxDegree		最高温度	
tempMinDegree		最低温度	
tempMaxDegreeTime		最高温度記録時間	
tempMinDegreeTime		最低温度記録時間	
tempLogNumber	20	温度ログの記録件数	
tempLogClock		温度ログの起動からの経過時間(秒)	
tempLogValue		温度ログの温度データ(数値表示用)	
tempLogGraphValue		温度ログの温度データ(グラフ表示用)	
tempLogTime		温度ログの取得日時	
schEnabled	0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schOl(n)1Sch(文字列) (n):1~4 (文字列): Kind,Year,Month,Day,Nth, WeekDay,PatNo		スケジュールデータ(ReadOnly)	Kind:種類 1:毎週[]曜日 2:毎月[]日 3:毎月第[]週[]曜日 4:毎年[]月[]日 5:休日 6:[]年[]月[]日 WeekDay:曜日 1:日曜日 2:月曜日 3:火曜日 4:水曜日 5:木曜日 6:金曜日 7:土曜日
schCalCurrentYear		現在表示中のカレンダーの年	起動直後は現在の日付
schCalCurrentMonth		現在表示中のカレンダーの月	

schCalCurrentDay		現在表示中のカレンダーの日	
schRegNum	0,0,0,0	各アウトレットのスケジュール登録個数	
schEditCalYear		編集中のカレンダーの年	一時指定, 休日指定登録時の日付
schEditCalMonth		編集中のカレンダーの月	
schEditCalDay		編集中のカレンダーの日	
schULTimeout	60	アップロードのタイムアウト時間(秒)	
schUICrcEnabled	1	アップロードのCRCチェックの有効化	0:無効 1:有効
schDICrcEnabled	1	ダウンロードのCRCチェックの有効化	0:無効 1:有効
ipAdDnsServer		DNSサーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角英数字63文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角英数字40文字以内
mailCommandLoginName		メール制御用ログイン名	半角英数字63文字以内
mailCommandPassword		メール制御用パスワード	半角英数字63文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管(Read Only)	全角31文字または半角英数字63文字を超える分は切り捨て
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailExtraMsg1, mailLastEvent	通知メールの内容	最大8/パターンまで SysName / sysLocation / ipAdEntAddr IfPhysAddress / mailLastEvent mailExtraMsg1 / mailExtraMsg2 mailExtraMsg3
mailAddr		メールアドレス	
mailExtAddr		送信先メールアドレス	8個
mailExtKind	1,1,1,1,1,1,1	メール送信の種類	1:To 2:CC 3:BCC
mailInfoFlag	1,1,1,1,1,1,1,1, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 1,1,1,1,1,1,1,1, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0, 0,0,0,0,0,0,0,0	①イベント テスト ②イベント Ping ③イベント 温度 ④イベント スケジュール ⑤<不使用> ⑥イベント UPS ⑦イベント 接点IN ⑧イベント 接点OUT ⑨イベント 手動スイッチ ⑩イベント ハートビート ⑪イベント ログ件数超過	0:無効 1:有効
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効
mailRecvProtocol	1	メール受信プロトコルの種類	1:POP3 2:IMAP4
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60の整数
mailApopEnabled	0	APOPの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtAuthEnabled	0	SMTP AUTHの有効化	0:無効 1:有効
mailSmtAuthMask	7	SMTP AUTHのMask	
mailImapAuthMask	6	IMAP認証方式設定	2:LOGIN 4:CRAM-MD5 6:LOGIN+CRAM-MD5
mailRecvPort	110	メール受信ポート	0~65535
mailSendPort	25	メール送信ポート	0~65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
mailNvInCloseEvent	SHORTEN	接点入力短絡時のメール通知表示	半角英数14字以内, 全角7字以内推奨
mailNvInOpenEvent	OPENED	接点入力開放時のメール通知表示	半角英数14字以内, 全角7字以内推奨

mailNvOutCloseEvent	(空欄)	接点出力短絡時のメール通知表示	(空欄)が仕様です。 状況に応じて「SHORTEN」「Positive Pulse」 「Negative Pulse」と表示されます。
mailNvOutOpenEvent	OPENED	接点出力開放時のメール通知表示	半角英数14字以内, 全角7字以内推奨
mailExtraMsg	¥r¥n	メール通知ユーザー任意表示	最大3パターンまで 半角英数字で40文字以内 (¥r¥nは改行コードの意味)
mailNvInEventFlag	3	接点入力状態変化時のメール送信 フラグ	0:ON/OFF両方とも通知しない 1:OFFのみ通知 2:ONのみ通知 3:ON/OFF両方とも通知
promptMode	2	Telnetプロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	<不使用>	
modemTimeout	10	<不使用>	
logMode	011 1010 1001 0111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(31ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(31ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログ の数	0:無効 1~20:閾値
mailLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(31 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTPサーバのIPアドレス	
ntpInterval	6	NTPサーバへのアクセス間隔(10 分)	
syslogEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:syslogを送信 2:MPMP/パケットフォーマットで送信 3:MSRP/パケットフォーマットで送信
syslogLogMode	011 1010 1011 0111 1111 1111 1111 1111	sysLogで送信するログモード(31 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdCenter		MSRP/MPMP/sysLog送信先IP アドレスまたはネームアドレス	8箇所まで 半角英数字で63文字以内
centerPort	5000,5000, 5000,5000,5000, 5000,5000,5000	MSRP/MPMP/sysLog送信先ポ ート番号	
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100ミリ 秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
centerCmdHostID		MPMPによるコマンド制御で使用 するID	半角英数5字以内 8箇所まで コンマ区切り
centerCmdPassword		MPMPによるコマンド制御で使用 するパスワード	半角英数7字以内 8箇所まで コンマ区切り
ipAdTelnetT		TelnetからのTelnet中継先アド レス	
ipAdTelnetU		UTYからのTelnet中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TelnetからのTelnet中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTYからのTelnet中継ポート	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	
beepEnabled	0	ブザー音の有効化	0:無効 1:有効
upsIdentName		UPS名称	全角31文字 半角英数字63文字以内

upsMonitorInterval	10	UPSモニタ時間間隔(秒)	0~60, 0は1と見なす。
debMasterUpsAlarmWaitTime	120	UPSシャットダウン開始待機時間(秒)	-1~300, -1の場合はシャットダウン無効
upsSignalLevel	15	UPS論理	
debMasterEnableUpsShut	2	UPSシャットダウン有効化	1:有効 2:無効
upsOutputSource	1	給電状態	0, 1: 未設定, 3: 正常, 5: バックアップ
upsBatteryStatus	1	バッテリー状態	0, 1: 未設定, 2: 正常, 3: 低電圧
upsInputLineBads	0	商用入力異常回数	
debWakeupPhysAddr		WoL設定	"," 区切りで4箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用のWoL設定	"," 区切りで8箇所以内
ipAdMailRecvServer		メール受信サーバーアドレス	
ipAdMailSendServer		メール送信サーバーアドレス	
etherSpeed	2	接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
manuSwCommand	PSR1,PSR2, PSR3,PSR4	空または最大4個の実行コマンド	PONn,POFn,PORn,PSRn, MPON,MPOF,MPOR
manuSwComInterval	1,1,1,1	コマンド間実行間隔(秒)	1~3600
manuSwComFinish	5	コマンド終了時間(秒)	3~3600
pingPktSize	16	Pingパケットのデータ長	16~1472
resetCause	1	リセット原因表示	0:通常の電源投入 1:ハードリセット 10:CPUリセットコマンド実行 11:WEBからCPUリセット実行 13:SNMPからCPUリセット実行 20:DHCP NAK受信
recvErrorCount	0	Ping監視 メールサーバーへのアクセスエラー回数	0:表示のみ
ledBlinkEnabled	1	Outlet LEDの点滅の有効化	0:無効 1:有効
clock		起動後の経過時間(秒)【Read Only】	
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MACアドレス	
broadOlGrpNo	0,0,0,0	一斉電源制御 連動の有効化	0:無効 1~8:グループ
broadOlComNo	0,0,0,0	一斉電源制御 連動のコマンド	0:設定なし, 1:MPON, 2:MPOF, 3:MPOR, 4:設定アウトレットと同期
sshServerEnabled	0	SSHサーバーの有効化	0:無効 1:有効
sshServerPort	22	SSHサーバーのTCPポート番号	
sshServerTimeout	10	SSHサーバーへのタイムアウト時間(分)	
sshServerName	admin	SSHサーバーへの接続ID	半角英数8文字以内
sshServerNameS	super	SSHサーバーへの接続ID (supervisor権限)	半角英数8文字以内
logLevel	2	SSH使用中の表示メッセージ レベル	
sshPublicDsaKey		KEYGENコマンドで生成するSSHキー	
sshPublicRsaKey		KEYGENコマンドで生成するSSHキー	
sshKnownHost1		SSHプロトコルでシャットダウンするときのアウトレットごとのキー	
sshKnownHost2			
sshKnownHost3			

sshKnownHost4			
sshKnownHost5			
sshKnownHost6			
sshKnownHost7			
sshKnownHost8			
datalogLogMode	1 0000 0000	データログ記録モード(ビット0のみ有効)	0:無効 1:有効
datalogLogDisp	1 0000 0000	データログ表示モード(ビット0のみ有効)	0:無効 1:有効
datalogLogInterval	10	温度センサーデータログ記録間隔(分)	
nvInName	NV Input1, NV Input2, NV Input3, NV Input4	接点入力の名前	"," 区切りで接点入力 半角英数14字以内, 全角7字以内推奨
nvInOutletShortCommand		接点入力短絡時に実行する電源制御コマンド	
nvInOutletOpenCommand		接点入力開放時に実行する電源制御コマンド	
nvInContactShortCommand		接点入力短絡時に実行する接点出力制御コマンド	
nvInContactOpenCommand		接点入力開放時に実行する接点出力制御コマンド	
nvInStatus	0,0,0,0	接点入力 状態	0:開放 1:短絡
nvInCloseThreshold	1	接点入力 認識時間(秒)	
nvInOpenThreshold	1	接点入力開放されたと認識する閾値(単位:秒)	
nvInIgnorePeriod	3	起動時に接点入力に連動した電源/接点出力制御を行なわない期間(単位:秒)	
nvInBeepEnabled	0,0,0,0	接点入力に応じて鳴らすブザー音	0:なし 1:連続 2:0.5秒間隔 3:1秒間隔
nvInBeepPolarity	0,0,0,0	ブザー音を鳴らす接点入力の状態	0:接点入力ON時 1:接点入力OFF時
nvInActionMode	0,0,0,0	接点入力パルス極性	0:正パルス 1:逆パルス
nvInType	0,0,0,0	接点入力パルス極性[ReadOnly]	●起動時にnvInActionModeの値をコピーする
nvInControlMode	0,0,0,0	接点入力モード設定	0:レベル 1:パルス
nvInPulseWidth	45,45,45,45	接点入力パルス幅(msec)	45~32767
nvInPulseInterval	1,1,1,1	接点入力パルス ガードタイム(秒)	0~65535
nvOutName	NV Output1, NV Output2, NV Output3, NV Output4	接点出力の名前	"," 区切りで接点出力 半角英数14字以内, 全角7字以内推奨
nvOutLinkEnabled	0	接点出力 連動 連動ソース設定	0:連動なし 1:電源出力に連動 2:温度監視に連動 3:死活監視に連動 4:ハートビートと連携
nvOutLinkOutlet	0,0,0,0	接点出力 連動 電源出力	0:連動なし 1~4アウトレットNo
nvOutLinkTempUpper	0	接点出力 連動 温度監視 上限警報	0:無動作 1:上限警報で動作
nvOutLinkTempLower	0	接点出力 連動 温度監視 下限警報	0:無動作 1:下限警報で動作
nvOutLinkPing	0	接点出力 連動 死活監視	0:無動作 1:異常で動作
nvOutLinkHeartbeat	0	接点出力 連動 ハートビート	0:無動作 1~4:接点番号
nvOutActionMode	0,0,0,0	接点出力 連動 動作モード	0:通常動作 1:反転動作
nvOutType	0,0,0,0	接点出力 種類	0:ノーマル 1:リバース
nvOutStatus	0,0,0,0	接点出力 状態	0:開放 1:短絡
nvOutControlMode	0,0,0,0	接点出力 モード設定	0:レベル 1:パルス

nvOutPulseWidth	50,50,50,50	パルス出力時のパルス幅(×10mSec)	
hbEnabled	0	ハートビート監視有効/無効設定	0:無効 1:有効
hbIpAddr	0	ハートビートパケット送信元IPアドレスフィルター	0でないとき、IPアドレスがこの値と一致しない送信元からのパケットを無視する
hbPort	9100	ハートビートパケット受信ポート番号	
hbPcPort	9100	ハートビートパケット送信元ポート番号	
hbInterval	8	ハートビートのパケット受信間隔(秒)	1~99
hbRebootTime	30	アウトレットリバス後、パケット受信不可をチェック開始するまでの時間(秒)	1~999
hbTimeoutMax	3	ハートビートの動作を行うカウント	1~99
hbActionMax	3	ハートビートのリブート実行限度回数	1~99
hbAction	0,0,0,0	ハートビートのアウトレットごとの動作	0:無効 1:ON 2:ON追従 3:OFF 4:OFF追従 5:リブート 7:Logのみ
hbTimeoutCount	0	タイムアウトの累積回数(ReadOnly)	パケットを受信すると0にクリアされる
hbActionCount	0,0,0,0	アウトレットごとの動作を実行した回数(ReadOnly)	
hbStat	0	ハートビート状態(ReadOnly)	0:待機中、1:パケットを受信 2:タイムアウト発生中
hbCallingIpAddr		最後にパケットを受信したIPアドレス(ReadOnly)	
hbHeartbeatChar	HB	ハートビート文字列	半角英字[大/小文字]2字
hbHeartbeatSource	HB	ハートビートパケット文字列	アルファベット2文字。 大文字小文字区別あり。
httpScreen	1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1, 1,1,1,1,1,1,1,1	ブラウザーに表示される画面/項目の表示設定	0:非表示 1:表示
httpPageType	0	PC, スマートフォン等端末の種類にあわせて画面を切り替えるための設定	
scEnabled	0	サーバー制御有効化	1: 有効, 0: 無効
httpAuthMode	2	HTTP認証モード	0:None 1:Basic認証 2:Digest認証
realmName	RPC-MT4HS	認証領域 (realm) 名	半角英数字20文字以内
nonceTime	180	nonceの有効時間 (秒)	30~30000
searchEnabled	1	RPCサーチ探索有効/無効設定	0:無効 1:有効
versionupEnabled	3	バージョンアップの有効化	0:無効 1:ローカル更新のみ 2:オンライン更新のみ 3:有効
revision	01	ファームウェアレビジョン番号(ReadOnly)	

*1: Meikyo Remote Power Controller, RSC-MT4HS Ver.4.30A(または4.20A)

*2: Meikyo 100BASE-TX Driver

■ ログ一覧表

内 容	情 報	TelnetなどのLOG
コールドスタート		Cold Start
ウォームスタート		Warm Start
データログスタート		Datalog Start
Ping送信	outlet no. Ipaddr no.	[アウトレット番号] [監視先番号] ping
Ping無応答	outlet no. Ipaddr no.	[アウトレット番号] [監視先番号] No Echo
死活判定(無動作)	アウトレットno.	[アウトレット番号] No Action by [判定内容]
死活判定(REBOOT)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Reboot by [判定内容]
死活判定(アウトレットON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by [判定内容]
死活判定(アウトレットOFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by [判定内容]
正常/回復中	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Recovered by [判定内容]
スケジュール(アウトレットON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by Schedule
スケジュール(アウトレットOFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by Schedule
全アウトレットON	アウトレットALL [ID]	MPON --- [ID]
全アウトレットOFF	アウトレットALL [ID]	MPOF --- [ID]
全アウトレットREBOOT	アウトレットALL [ID]	MPOR --- [ID]
アウトレットON	アウトレットno. [ID]	[アウトレット番号] PON --- [ID]
アウトレットOFF	アウトレットno. [ID]	[アウトレット番号] POF --- [ID]
アウトレットREBOOT	アウトレットno. [ID]	[アウトレット番号] POR --- [ID]
UTY接続	IPaddr	-->Uty
UTYログインせず切断	IPaddr	<--Uty
UTYログイン	Ipaddr [ID]	==>Uty
UTYログアウト	Ipaddr [ID]	<==Uty
メールログイン要求	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	-->Mail
●「メールログイン要求 0」と表示されている場合、[通知先アドレス]に登録されていないメールアドレスから送信があったことを意味します。 (「メールログイン要求」の場合、メール制御コマンドは実行されなかったことになります。)		
メールログイン	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	==>Mail
メールログアウト	no.(no.は[通知先アドレス]番号)	<==Mail
メールエラー		Mail Error
TELNET接続	IPaddr	-->Telnet IPaddr
TELNET切断	IPaddr	<--Telnet IPaddr
TELNET多重超接続	IPaddr	>>xTelnet
TELNETログイン	IPaddr	==>Telnet IPaddr --- [ID]
TELNETログアウト	IPaddr	<==Telnet IPaddr --- [ID]
COMログイン	IPaddr [ID]	==> Com Port IPaddr --- [ID]
COMログアウト	IPaddr [ID]	<== Com Port IPaddr --- [ID]
Web接続		-->Web IPaddr
Webログイン		==>Web IPaddr --- [ID]
Webログアウト		<==Web IPaddr
設定変更	[変数名] [ID]	variable set ([変数名])
設定書込(WRITE)	[ID]	write to FROM
ハートビート監視(無動作)	アウトレットno.	[アウトレット番号] No Action by HeartBeat
ハートビート監視(REBOOT)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Reboot by HeartBeat
ハートビート監視(ON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by HeartBeat
ハートビート監視(OFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by HeartBeat
ハートビート監視(正常/回復中)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Heartbeat Recieved
温度状態変化	正常,℃	Temperature Normal

温度状態変化	上限注意, °C	Temperature High Warning
温度状態変化	上限警報, °C	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意, °C	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報, °C	Temperature Low Alarm
温度監視(ON)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet On by Temperature
温度監視(OFF)	アウトレットno.	[アウトレット番号] Outlet Off by Temperature
NTPサーバー接続	hour minute second	NTP --- hh:mm:ss
NTPサーバー名前エラー		NTP Server Name Error
NTPサーバー接続エラー		NTP Server Access Error
SSHサーバー接続	IPaddr	SSH Server Connected
スクリプト実行	アウトレットno.	[アウトレット番号] Shutdown Script Done
スクリプト失敗	アウトレットno. コード[エラーコード]	[アウトレット番号] Shutdown Script Failed, code=[エラーコード]
手動SW押下		Manual SW pushed
手動SW連動(ON)		Outlet On by Link Manual SW
手動SW連動(OFF)		Outlet Off by Link Manual SW
手動SW連動(REBOOT)		Outlet Reboot by Link Manual SW
接点出力状態変化	#n 短絡 ([a]) (nは接点入力番号, aは原因となる動作)	NV out #n shorten [a] (nは接点入力番号, aは原因となる動作)
接点出力状態変化	#n 開放 ([a]) (nは接点入力番号, aは原因となる動作)	NV out #n opened [a] (nは接点入力番号, aは原因となる動作)
接点入力状態変化	#n 短絡 (nは接点出力番号)	NV in #n shorten
接点入力状態変化	#n 開放 (nは接点出力番号)	NV in #n opened
SSHサーバー接続	IPaddr	SSH Server Connected
サーバー接続開始	サーバー接続開始 IPaddr	SC Start IPaddr
サーバー接続終了	サーバー接続終了 IPaddr	SC Stop IPaddr
サーバー接続異常	サーバー接続異常	SC Connection Failure
サーバー接続再開	サーバー接続再開	SC Reconnect

【SYSLOG のログメッセージは「Telnet などの LOG」に準じます。「-->」部分は「Enter」,「<--」部分は「Exit」,「==>」部分は「Login」,「<==」部分は「Logout」と文字表記になります。「>>x Telnet」は「Telnet NG」となります。】

- ・[]で括った内容は、実際の数字や文字等が入ります。
- ・[ID]は操作を行ったユーザーのIDを示します。
- ・コマンド実行者とログ閲覧者が同じユーザーの場合は、コマンドによってはIDが表示されない場合があります

■ 制御コマンド一覧表

シリアル, Telnet → A:Admin権限 S:Supervisor権限ログイン時使用可能

メール → メール制御コマンドで使用可能なもの

WEB → ダイレクトWEBコマンド A:Admin S:Supervisor C:Control I:Ident

制御コマンド	内 容	シリアル	Telnet	メール	MPMP	WEB
MPON	全アウトレットの電源出力開始	A	A	○	○	AC
MPOF	全アウトレットの電源出力停止	A	A	○	○	AC
MPOR	全アウトレットの電源リブート	A	A	○	○	AC
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n=1~4	A	A	○	○	AC
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n=1~4	A	A	○	○	AC
PORn	指定されたアウトレットの電源リブート n=1~4	A	A	○	○	AC
PSRn	指定されたアウトレットの電源状態反転	A	A	○	○	AC
BPONx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットの電源出力開始 (x=1~8, xはグループ番号)	A	A	×	×	AC
BPOFx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットの電源出力停止 (x=1~8, xはグループ番号)	A	A	×	×	AC
BPORx	一斉電源制御:該当グループ全アウトレットのリブート(電源リブート) (x=1~8, xはグループ番号)	A	A	×	×	AC
MPONV	全仮想アウトレットにマジックパケットを送信する。	AS	AS	○	○	AC
PONVn	(nは1~8) debWakeupInterval後にマジックパケットを送信する。	AS	AS	○	○	AC
OLSn OLS	死活監視状態の表示 n=1~4 nを省略すると全てのアウトレットを表示します。 コンマ区切りで表示。 Outlet No. アウトレット番号[1~4] Power 電源状態[0:Off 1: On] Judge 判定[1:正常 2:異常 3:回復中] Action Count Action実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount1 アドレス1の未応答回数 NoEchoTime1 アドレス1の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping2 アドレス2の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount2 アドレス2の未応答回数 NoEchoTime2 アドレス2の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答] Last Ping3 アドレス3の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount3 アドレス3の未応答回数 NoEchoTime3 アドレス3の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]	AS	AS	○	×	ASCI

	Last Ping4 アドレス4の最後の応答[1:正常 2:異常] NoEchoCount4 アドレス4の未応答回数 NoEchoTime4 アドレス4の応答時間(ms) [0:未設定 1:応答時間 9999:未応答]					
VER	バージョンの表示	AS	AS	○	×	ASCII
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答:mmmm 左側からアウトレット1~4 m=0:OFF 1:ON	AS	AS	○	×	ASCII
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答:ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット1~4 A=0:OFF 1:ON B=0:OFF遅延中 1:ON遅延中 XXXX=Bのタイマ残り時間	AS	AS	○	×	ASCII
ID	新しいIDを入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。	×	AS	×	×	×
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを2回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。	×	AS	×	×	×
TELNET	変数IpAdTelnetTのアドレス, 変数remoteTelnetPortTの ポートにTelnetクライアントとして接続します。 【中継を停止するには, 通常と同じくexitやqで切断できま す。】一度に受信するデータは, 概ね40Kバイト以下でご利用 ください。	×	AS	×	×	×
DATE	年月日設定 例)DATE yy/mm/dd yy:年 mm:月 dd:日	AS	AS	○	×	×
TIME	現在時刻設定(秒は省略可) 例)TIME hh:mm:ss hh:時 mm:分 ss:秒	AS	AS	○	×	×
PING	ICMPを4回送信します。 例)PING [IPアドレス]	AS	AS	×	×	×
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。(例) IpAddress 192.168.10.1 SubnetMask 255.255.255.0 DefaultGateay 192.168.10.254 EthernetSpeed 100.0Mbps	AS	AS	○	×	×
CPURESET	CPUをリセットします。 コマンドを実行しても電源状態は変化しません。	AS	AS	×	○	×
PROMPT=n	0:(プロンプト表示無し) 1:(「>」のプロンプト表示) 2:(「 機器名 >」のプロンプト表示) ※変数「promptMode」により接続直後のモードが決 まります。	×	AS	×	×	×
EXIT	回線切断 最初の文字がE, e, Q, qの場合はEXITと認 識します。	AS	AS	○	×	×
SONn	指定された接点出力を短絡 n=1~4	AS	AS	○	○	ASCII
SOFn	指定された接点出力を開放 n=1~4	AS	AS	○	○	ASCII

MSON	全接点出力を短絡	AS	AS	○	○	ASCI
MSOF	全接点出力を開放	AS	AS	○	○	ASCI
SSOn SSO	接点出力の状態を取得 nを省略すると全てのアウトレットを表示 短絡接点出力時:SHORTEN 開放接点出力時:OPENED 例)SSO2 NV_OUT #2 : OPENED	AS	AS	○	×	ASCI
SSIn SSI	接点入力の状態を取得 nを省略すると全てのアウトレットを表示 短絡接点入力時:SHORTEN 開放接点入力時:OPENED 例)SSI2 NV_IN #2 : OPENED	AS	AS	○	×	ASCI
TEMP	現在の温度を表示します。 (温度センサー「有効」のとき)	AS	AS	○	×	ASCI
TOSn TOS	温度監視の状態 5つの数字(①, ②, ③, ④, ⑤)表示 nを省略すると全てのアウトレットを表示 ①[アウトレット番号] ②[アウトレット状態(0:OFF, 1:ON)] ③[温度監視動作設定(0:無動作, 1:上限警報ON, 2:下限警報ON, 3:上限警報OFF, 4:下限警報OFF)] ④[温度監視状態(0:正常, 1:上限注意超過, 2:上限警報超過, 3:下限注意超過, 4:下限警報超過)] ⑤[温度監視動作状態(0:無動作, 1:上限動作, 2:下限動作)]	AS	AS	○	×	ASCI
TSP	以下の変数の内容を一括で表示します。 tempEnabled tempTestMode tempSimMode tempLowerA tempLowerW tempLowerH tempLowerOff tempUpperA tempUpperW tempUpperH tempUpperOff	AS	AS	○	×	ASCI

■ 仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様		ARP, TCP/IP, UDP/IP, ICMP, POP3, IMAP SSH, BOOTP, DHCP, Telnet, SMTP, APOP, NTP, HTTP, SNMP
	LAN制御方法	SNMPマネージャー, Telnet, SSH	
		Web	
		E-mail	
機能	電源制御／管理		電源ON
			電源OFF
			電源リブート
			電源状態反転
			電源状態取得
			グループ制御
	スケジュール機能		年間スケジュール機能
			RTC(Real Time Clock)による時刻保持
			NTPによる時刻同期機能
			スケジュールON/OFF機能
	状態監視		ICMP送信
			通報機能:SNMPトラップ, UDPパケット
			Mail通知
			温度監視[要オプション]
			ハートビート
	WoL対応機能		あり:マジックパケット送信
	シャットダウン機能		スクリプト通信(Telnet, SSH)
ハード仕様	インターフェース		10Base-T/100Base-TX (RJ45) (IEEE802.3に準拠)
			RS-232C (D-sub 9 ピンオス)
			温度センサー (RJ11)[オプション]
			リモートスイッチ (RJ11)[オプション]
			接点入力 ×4 本装置:有電圧
			※接点入力には外部から電圧を入力しないでください。
			接点出力 ×4 本装置:無電圧 DC24V 1.0A(抵抗負荷)
			※接点出力には接続先に電源が必要です。
	定格	最大制御出力	AC100V 15A (1500W)
		消費電力	最大 5.5W
		入力電源電圧	AC100V ±10% (50/60Hz)
	使用環境		温度 0～40℃
			湿度 20～85%(ただし結露なきこと)
	外形寸法 [脚ゴム除く]		220(W) x42.6(H) x182(D) mm
	重量		1.7kg
規格	特定電気用品認証品(電気用品安全法), RoHS2準拠		

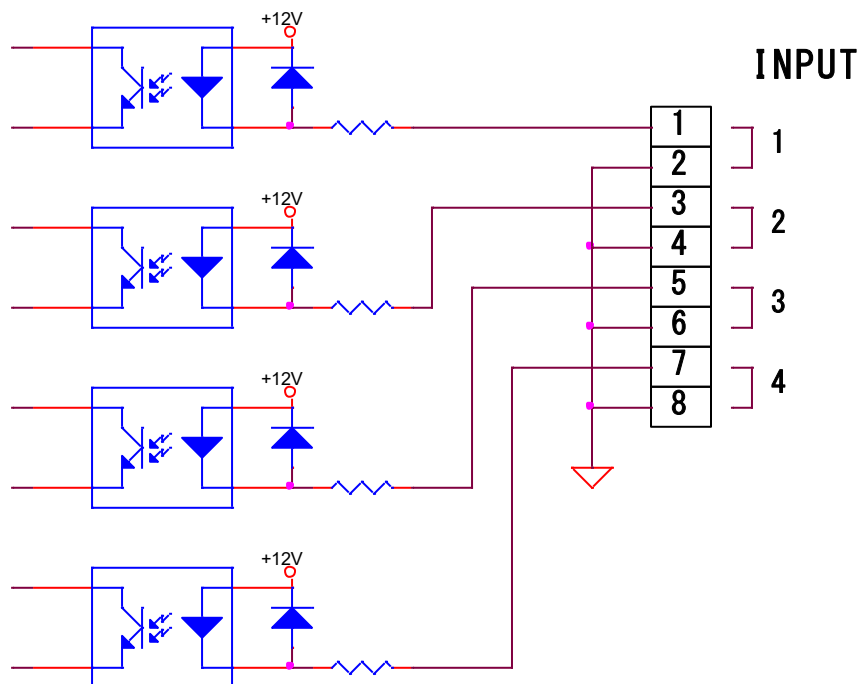
注記 本製品は内部でSG(信号グランド)とFG(フレームグランド)が接続されています。

■ 接点入出力インターフェース

1) 入力(4ポート)

[本装置側:有電圧] — 接続相手:無電圧(接点のみ)

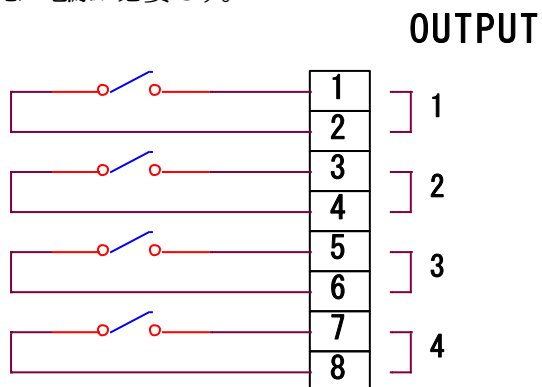
※外部から電圧を入力しないでください。故障の原因となります。



2) 出力(4ポート)

[本装置側:無電圧] — 接続相手:有電圧(負荷・電源)

※接続先に電源が必要です。



問い合わせ先

明京電機株式会社

〒114-0012 東京都北区田端新町1-1-14

東京フェライトビル4F

TEL 03-3810-5580 FAX 03-3810-5546

ホームページアドレス

<https://www.meikyo.co.jp/>

ご注意

- (1)本書および製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2)本書および製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本書および製品の内容については、万全を期して作成いたしました但、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4)本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5)本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社および弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6)弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

TIME BOOT mini RSC-MT4HS

取扱説明書 2026年 4月 第4.3a1版

版權所有 明京電機株式会社

※「TIME Boot」は明京電機株式の商標です。 登録番号5396317号（平成23年3月4日登録）